志木市の文化財　第77集

田子山遺跡第160地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第77集

田子山遺跡第160地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『田子山遺跡第160地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和元年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、田子山遺跡については、これまでの調査成果から、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

今回の調査においても縄文時代から近世までに渡って、本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、令和元年度に発掘作業を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である田子山遺跡第160地点の発掘調査報告書である。

2．本調査は、中学・高等学校校舎等建替工事に伴う記録保存のための発掘調査として、志木市教育委員会が学校法人細田学園（理事長　細田洋一郎）から委託を受け、調査主体者として実施した。

3．埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業に係る支援業務を株式会社中野技術（代表取締役　菅原広志）に委託した。

4．発掘調査の期間は、以下のとおりである。

○令和元年度（第１期）

発掘作業：令和元年５月７日から９月３日

整理作業：令和元年５月７日から令和２年３月25日

○令和２年度（第２期）

整理作業・報告書刊行作業：令和２年４月28日から12月28日

5．本書は尾形則敏・大久保聡が監修し、編集は石川安司・小林陽子・清水理史が行った。執筆は第１章を尾形則敏、第２章第１節を大久保聡、それ以外は石川安司と小林陽子・清水理史が担当し、付編の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。

6．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

7．調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	土岐隆一（～令和元年度）
〃	北村竜一（令和２年度～）
教育政策部次長	北村竜一（～令和元年度）
〃	大熊克之（令和２年度～）
生涯学習課長	原田謙二（～令和元年度）
〃	山本　勲（令和２年度～）
生涯学習課副課長	中原敦也（令和２年度～）
生涯学習課主幹	中原敦也（～令和元年度）
	浅見千穂（令和２年度～）
生涯学習課主査	浅見千穂（～令和元年度）
〃	武井香代子
〃	尾形則敏
〃	徳留彰紀（令和２年度～）
生涯学習課主任	松永真知子

〃　　徳留彰紀（～令和元年度）
〃　　大久保　聡
生涯学習課主事補　鈴木楓月
志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
深瀬　克（委員）
上野守嘉（委員）
新田奈男（委員）
金子博一（委員）（令和2年4月1日～）
高橋　豊（委員）（～令和2年3月31日）
調査担当者　尾形則敏・徳留彰紀・大久保　聡

【株式会社中野技術】

○発掘調査

調査員　石森　光・清水理史
現場代理人　細田大輔
調査補助員　小峰　健
測量員　小林由典・佐貫　健・高橋貴子
作業員　青木利恵・泉山顯廣・植村智美・臼井　孝・甲斐栄美子・川口砂織・久津輪弘樹・坂本秀也・佐藤忠雄・徳光直子・根岸智子・早瀬三四郎・丸尾道文・森澤重雄
高田華穂（国士舘大学学生）
石田和広・臼井大輔・辛島美樹雄・木村圭介・小堀孝典・櫻井偲温・鈴木明人・高橋広幸・千葉真人・荻原和彦・福泉　藍・藤江保明・藤田吉虎・渡部正雄

○整理作業

調査員　石川安司・石森　光・小林陽子・清水理史
調査補助員　久津輪弘樹・小峰　健・佐貫　健・高橋貴子・原野真祐・福泉　藍
作業員　青木利恵・明石千とせ・井上麻美子・臼井　孝・内田恭子・大原美紀・甲斐栄美子・甲斐照人・坂井美樹子・榊原みゆき・佐竹里佳・中澤敏宏・山内康代・山本圭子・森澤重雄

8．各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・三芳町立歴史民俗資料館

足立佳代・安藤広道・飯島義広・江原　順・大木さおり・大久保淳・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・熊澤孝之・斉藤　純・齋藤欣延・佐々木義則・斯波　治・眞保昌弘・鈴木一郎・辰巳晃司・蓼沼香未由・田中　信・照林敏郎・富元久美子・中岡貴裕・奈良貴史・早坂廣人・比毛君男・深澤靖幸・細田信良・堀　善之・

前田秀則・水口由紀子・村上伸二・安田脩一・山本　龍・渡辺邦仁・和田晋治

9．本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成31年４月26日付け　教文資第4－204号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和元年11月29日付け　教文資第7－91号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　　１：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第２図　　１：5,000　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年４月発行　株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものは、数値を省略した。

6．遺構挿図中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図中の遺物番号と一致する。なお、特に表示のないドットは土器を示す。

7．挿図中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Y＝弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡　　H＝古墳時代後期・平安時代の住居跡

T＝掘立柱建築遺構　　D＝土坑　　M＝溝跡　　P＝ピット

目　次

はじめに
例　言／凡　例／目　次／挿図目次／表目次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境…… 1
　第１節　市域の地形と遺跡…… 1
　第２節　遺跡の概要…… 7
第２章　発掘調査の概要…… 10
　第１節　調査に至る経緯…… 10
　第２節　発掘調査の経過と調査方法…… 12
　第３節　基本層序…… 12
第３章　検出された遺構と遺物…… 16
　第１節　縄文時代…… 16
　第２節　弥生時代後期～古墳時代初頭…… 24
　第３節　古墳時代後期～平安時代…… 31
　第４節　近世以降…… 114
　第５節　遺構外出土遺物…… 115
第４章　調査のまとめ…… 118
　第１節　縄文時代…… 118
　第２節　弥生時代後期～古墳時代前期…… 118
　第３節　古墳時代後期～平安時代…… 119

［付編］　自然科学分析…… 127
　第１節　田子山遺跡出土炭化材の樹種同定…… 128
　第２節　田子山遺跡から出土した炭化種実について…… 129
　第３節　放射性炭素年代測定…… 133
　第４節　田子山遺跡出土の鉄滓の自然科学分析…… 135

図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）…… 2
第２図　田子山遺跡の調査地点（１／3,000）…… 9
第３図　確認調査時の遺構分布図と調査区設定状況（１／500）…… 11
第４図　深掘りトレンチ位置図（１／600）…… 14
第５図　基本層序（１／60）…… 14
第６図　遺構分布図（１／400）…… 15
第７図　縄文時代土坑１（１／60）…… 19
第８図　縄文時代土坑２（１／60）…… 20
第９図　縄文時代土坑３（１／60）…… 21
第10図　縄文時代土坑４（１／60）…… 22
第11図　260・283号土坑出土遺物（１／３）…… 22
第12図　65号ピット（１／60）…… 23
第13図　６号炉穴（１／60）…… 23
第14図　24号住居跡（１／60）…… 24
第15図　24号住居跡出土遺物（１／４・１／３）…… 25
第16図　30号住居跡（１／60）・30号住居跡炉跡（１／30）…… 26
第17図　30号住居跡出土遺物（１／４・１／３）…… 27
第18図　31号住居跡（１／60）…… 27
第19図　32号住居跡（１／60）・32号住居跡炉跡（１／30）…… 28
第20図　32号住居跡出土遺物（１／４・１／３）…… 29
第21図　42号ピット（１／60）…… 29
第22図　76号住居跡１（１／60）…… 32
第23図　76号住居跡２（１／60）…… 33
第24図　76号住居跡カマド（１／30）…… 34
第25図　76号住居跡ピット（１／60）…… 34
第26図　76号住居跡遺物出土状態１（１／80）…… 35
第27図　76号住居跡遺物出土状態２（１／60・１／30）…… 36
第28図　76号住居跡出土遺物１（１／４）…… 37
第29図　76号住居跡出土遺物２（１／４）…… 38
第30図　76号住居跡出土遺物３（１／４・１／３）…… 39
第31図　81号住居跡（１／60）…… 40
第32図　81号住居跡遺物出土状態（１／60）…… 40
第33図　81号住居跡出土遺物（１／４）…… 41
第34図　82号住居跡・82号住居跡遺物出土状態（１／60）…… 41
第35図　82号住居跡カマド（１／30）…… 42
第36図　82号住居跡カマド遺物出土状態（１／30）…… 43
第37図　82号住居跡出土遺物（１／４・１／３）…… 43
第38図　83号住居跡（１／60）…… 44
第39図　83号住居跡カマド（１／30）…… 45

第40図　83号住居跡遺物出土状態（1／60・1／30）…… 45
第41図　83号住居跡カマド遺物出土状態（1／30）…… 46
第42図　83号住居跡出土遺物（1／4）…… 46
第43図　84号住居跡（1／60）…… 47
第44図　84号住居跡カマド（1／30）…… 47
第45図　84号住居跡遺物出土状態（1／60）・カマド遺物出土状態（1／30）…… 48
第46図　84号住居跡出土遺物（1／4・1／2）…… 48
第47図　85号住居跡（1／60）…… 49
第48図　85号住居跡カマド1（1／30）…… 50
第49図　85号住居跡カマド2（1／30）…… 50
第50図　85号住居跡炉跡（1／30）…… 51
第51図　85号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 51
第52図　85号住居跡カマド1遺物出土状態（1／30）…… 51
第53図　85号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 52
第54図　86号住居跡1（1／60）…… 53
第55図　86号住居跡2（1／60）…… 54
第56図　86号住居跡3・貯蔵穴・ピット（1／60）…… 55
第57図　86号住居跡炉跡（1／30）…… 56
第58図　86号住居跡カマド（1／30）…… 57
第59図　86号住居跡カマド遺物出土状態（1／30）…… 57
第60図　86号住居跡遺物出土状態1（1／60）…… 58
第61図　86号住居跡遺物出土状態2（1／60）…… 59
第62図　86号住居跡出土遺物1（1／4）…… 60
第63図　86号住居跡出土遺物2（1／4）…… 61
第64図　86号住居跡出土遺物3（1／4）…… 62
第65図　86号住居跡出土遺物4（1／4・1／3・1／2）…… 63
第66図　86号住居跡出土遺物5（1／3）…… 64
第67図　87号住居跡（1／60）…… 65
第68図　87号住居跡カマド（1／30）…… 65
第69図　87号住居跡出土遺物（1／4）…… 65
第70図　88号住居跡1（1／60）…… 67
第71図　88号住居跡2（1／60）…… 68
第72図　88号住居跡3（1／60）…… 69
第73図　88号住居跡カマド（1／30）…… 70
第74図　88号住居跡炉跡（1／30）…… 70
第75図　88号住居跡遺物出土状態1（1／80）…… 71
第76図　88号住居跡遺物出土状態2（1／80）・カマド遺物出土状態（1／30）…… 72
第77図　88号住居跡遺物出土状態3（1／80）…… 73
第78図　88号住居跡遺物出土状態4（1／60）…… 73
第79図　88号住居跡出土遺物1（1／4）…… 74
第80図　88号住居跡出土遺物2（1／4・1／3・1／2）…… 75

第81図　６号掘立柱建築遺構（１／60）…… 76
第82図　平安時代土坑１（１／60）…… 89
第83図　平安時代土坑２（１／60）…… 90
第84図　平安時代土坑３（１／60）…… 91
第85図　平安時代土坑４（１／60）…… 92
第86図　252・287号土坑出土遺物（１／４）…… 92
第87図　14号溝跡（１／150・１／60）…… 93
第88図　14号溝跡遺物出土状態（１／150・１／60）…… 94
第89図　14号溝跡出土遺物（１／４・１／３）…… 94
第90図　17号溝跡（１／60）…… 95
第91図　古墳・平安時代ピット１（１／60）…… 96
第92図　古墳・平安時代ピット２（１／60）…… 97
第93図　古墳・平安時代ピット３（１／60）…… 98
第94図　古墳・平安時代ピット４（１／60）…… 99
第95図　古墳・平安時代ピット５（１／60）…… 100
第96図　７号ピット出土遺物（１／４）…… 100
第97図　16号溝跡・285号土坑・67号ピット（１／60）…… 114
第98図　遺構外出土遺物（１／４・１／３）…… 116

表目次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧…… 1
第２表　田子山遺跡第160地点の発掘調査工程表 …… 13
第３表　260・283号土坑出土遺物一覧…… 23
第４表　24号住居跡出土遺物一覧…… 30
第５表　30号住居跡出土遺物一覧…… 30
第６表　32号住居跡出土遺物一覧…… 30
第７表　ピット一覧…… 101
第８表　76号住居跡出土遺物一覧（１）～（３）…… 102～104
第９表　81号住居跡出土遺物一覧…… 104
第10表　82号住居跡出土遺物一覧（１）・（２）…… 104・105
第11表　83号住居跡出土遺物一覧…… 105
第12表　84号住居跡出土遺物一覧…… 106
第13表　85号住居跡出土遺物一覧（１）・（２）…… 106・107
第14表　86号住居跡出土遺物一覧（１）～（４）…… 107～110
第15表　87号住居跡出土遺物一覧…… 110
第16表　88号住居跡出土遺物一覧（１）～（４）…… 110～113
第17表　14号溝跡出土遺物一覧…… 113
第18表　252・287号土坑出土遺物一覧…… 113
第19表　７号ピット出土遺物一覧…… 113

第20表　遺構外出土遺物一覧…… 117
第21表　樹種同定結果…… 128
第22表　田子山遺跡から出土した炭化種実…… 129
第23表　炭化種実同定結果（1）（2）…… 131・132
第24表　測定資料および処理…… 133
第25表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果…… 134
第26表　暦年較正結果…… 134
第27表　分析対象一覧…… 135
第28表　XRF分析による鉄滓の半定量値…… 135
第29表　EDS分析結果…… 135

図版目次

図版1　調査区全景・合成写真
図版2　1．1区プラン確認状況　2．2区プラン確認状況　3．6号炉穴セクション
4．6号炉穴完掘　5．24号住居跡遺物出土状況
6．24号住居跡完掘状況　7．30号住居跡炉跡
8．30号住居跡掘り方
図版3　1．31号住居跡完掘状況　2．32号住居跡掘り方
3．42号ピットセクション　4．76号住居跡遺物出土状況
5．76号住居跡遺物出土状況　6．76号住居跡遺物出土状況
7．76号住居跡遺物出土状況　8．76号住居跡完掘状況
図版4　1．76号住居跡掘り方　2．76号住居跡カマド完掘状況
3．81号住居跡遺物出土状況　4．81号住居跡常総型甕出土状況
5．81号住居跡完掘状況　6．81号住居跡掘り方
7．82号住居跡遺物出土状況　8．82号住居跡完掘状況
図版5　1．82号住居跡カマド完掘状況　2．82号住居跡カマド掘り方
3．82号住居跡掘り方　4．83号住居跡遺物出土状況
5．83号住居跡鉄滓出土状況　6．83号住居跡遺物出土状況
7．83号住居跡完掘状況　8．83号住居跡カマド遺物出土状況
図版6　1．83号住居跡カマド完掘状況　2．83号住居跡カマド掘り方
3．83号住居跡掘り方　4．84号住居跡遺物出土状況
5．84号住居跡遺物出土状況　6．84号住居跡完掘状況
7．84号住居跡カマド遺物出土状況　8．84号住居跡カマド完掘状況
図版7　1．84号住居跡カマド掘り方　2．84号住居跡掘り方
3．85号住居跡灰釉陶器手付小瓶出土状況　4．85号住居跡遺物出土状況
5．85号住居跡完掘状況　6．85号住居跡カマド1完掘状況
7．85号住居跡カマド1掘り方　8．85号住居跡カマド2セクション
図版8　1．85号住居跡カマド2掘り方　2．85号住居跡炉跡セクション
3．85号住居跡炉跡完掘状況　4．85号住居跡掘り方

５．86号住居跡遺物出土状況　６．86号住居跡遺物出土状況
７．86号住居跡土製品出土状況　８．86号住居跡紡錘車出土状況
図版９　１．86号住居跡遺物出土状況
２．86号住居跡粘土・ローム・焼土堆積層検出状況　３．86号住居跡完掘状況
４．86号住居跡カマド遺物出土状況　５．86号住居跡カマド完掘状況
６．86号住居跡カマド掘り方　７．87号住居跡完掘状況
８．87号住居跡カマド完掘状況
図版10　１．87号住居跡掘り方　２．88号住居跡遺物出土状況
３．88号住居跡遺物出土状況　４．88号住居跡遺物出土状況　５．88号住居跡完掘状況
６．88号住居跡カマド遺物出土状況　７．88号住居跡カマド遺物出土状況
８．88号住居跡カマド完掘状況
図版11　１．88号住居跡貯蔵穴完掘状況　２．88号住居跡炉跡完掘状況
３．88号住居跡炉跡掘り方　４．88号住居跡出入口施設拡張状況
５．６号掘立柱建築遺構　６．14号溝跡遺物出土状況　７．14号溝跡完掘状況
８．16号溝跡完掘状況
図版12　１．17号溝跡完掘状況　２．287号土坑炭化材出土状況
３．304号土坑遺物出土状況　４．７号ピットセクション
５．７号ピット遺物出土状況　６．深掘りトレンチ（TP３）土層断面
７．発掘作業風景　８．現地説明会
図版13　１．260・283号土坑出土遺物　２．24号住居跡出土遺物　３．30号住居跡出土遺物
４．32号住居跡出土遺物
図版14　76号住居跡出土遺物１
図版15　76号住居跡出土遺物２
図版16　１．81号住居跡出土遺物　２．82号住居跡出土遺物　３．83号住居跡出土遺物１
図版17　１．83号住居跡出土遺物２　２．84号住居跡出土遺物　３．85号住居跡出土遺物１
図版18　１．85号住居跡出土遺物２　２．86号住居跡出土遺物１
図版19　86号住居跡出土遺物２
図版20　86号住居跡出土遺物３
図版21　86号住居跡出土遺物４
図版22　１．87号住居跡出土遺物　２．88号住居跡出土遺物１
図版23　88号住居跡出土遺物２
図版24　１．88号住居跡出土遺物３　２．古墳・平安時代土坑出土遺物　３．14号溝跡出土遺物１
図版25　１．14号溝跡出土遺物２　２．７号ピット出土遺物　３．遺構外出土遺物１
図版26　遺構外出土遺物２
図版27　炭化材の走査型電子顕微鏡写真
図版28　１．田子山遺跡第160地点２区86Hから出土した炭化種実
２．鉄滓とその断面組織

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりをもち、面積は9.05㎢（註１）、人口約７万５千人の自然と文化の調和する都市である。

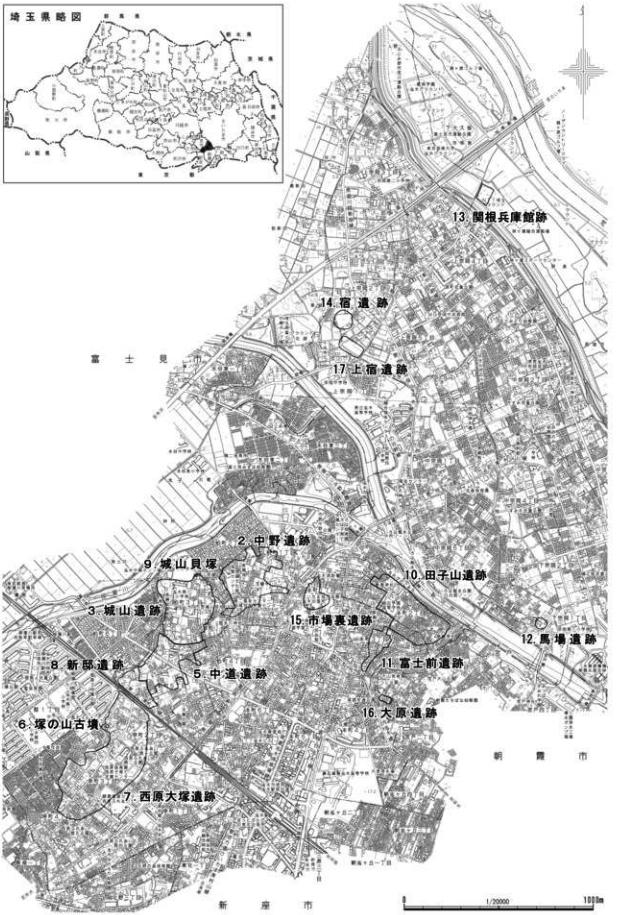
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた15遺跡である（第１図・第１表）。

No.	遺跡名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　野	67,620 ㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　山	82,100 ㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、踏造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、踏造関連遺物等
5	中　道	54,420 ㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 ㎡	林	古墳?	古　墳?	古　墳?	なし
7	西原大塚	164,960 ㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　邸	20,080 ㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 ㎡	林	貝　塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030 ㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830 ㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬　場	2,800 ㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 ㎡	グラウンド	館　跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 ㎡	水　田	館　跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 ㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　原	1,700 ㎡	宅　地	不　明	近世以降?	溝跡	なし
17	上　宿	6,600 ㎡	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合　計		519,240 ㎡					

令和元年11月14日 現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第１図　市域の地形と遺跡分布(1／20,000)

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２ヶ所、平成７年（1995）度には１ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11 ～ 14（1999 ～ 2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91㉑地点からは、礫群１基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点２ヶ所、礫群９基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器３点、第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡１軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚遺跡・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利EIV式の両耳壺を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利B式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅鏃が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見

され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺が出土している。なお、鳥形土製品１と壺形土器４点の計５点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶（ふじゅしんぽう）が２枚とその近くか

らは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成25年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註３）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鐙の札である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11 ～ 14（1999 ～ 2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たな土坑45基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑５基が検出されたことは特筆すべき

である。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『舘村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『舘村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじだいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第２節　遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する田子山遺跡について概観することにする。

田子山遺跡は、志木市本町２丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北東約1.3㎞に位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約15m、低地との比高差は約10mであり、南北方向に約100m、東西方向に約500mの広がりをもち、遺跡の面積は約74,000㎡である。

遺跡の周辺を眺めてみると、古くから個人住宅・共同住宅などの小規模住宅が密集している地域であり、大きな建物は、今回報告する細田学園とその北側に隣接するマンション（第31地点）が存在するのみで、その他として敷島神社、御嶽神社が存在し、市内でも閑静な住宅地と言える。

最近では、個人住宅の建物の老朽化による新築・建替工事や相続による土地売買により分譲住宅建設などが原因による小・中規模開発が急激に増加している状況である。

本遺跡は、これまでに165回の調査（令和２年９月30日現在）が実施され、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

［註］

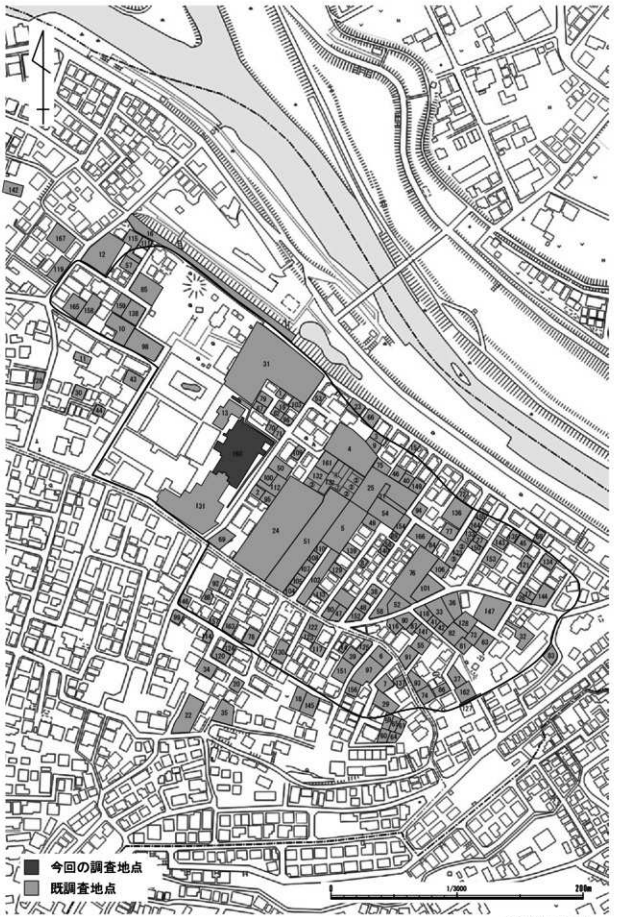
註１　平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註２　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒（なかつね）が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988「『廻回雑記』に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号第１章　遺跡の立地と環境



第２図　田子山遺跡の調査地点（1／3,000）

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成30年10月、学校法人細田学園（理事長　細田洋一郎）から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市本町２丁目1700－1における学校法人細田学園の中学校・高等学校校舎等建替工事を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である田子山遺跡（コード11228－09－010）に該当するため、大旨下記のとおり回答し、学校法人細田学園の了承を得た。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。学校法人細田学園からは、今回の計画で盛土保存を行うことは不可能であるため、確認調査の結果、遺構等が確認できた場合には、発掘調査を早急に実施してもらいたいとの意向が示された。その場合、発掘調査は民間調査組織に支援業務を委託し実施する。

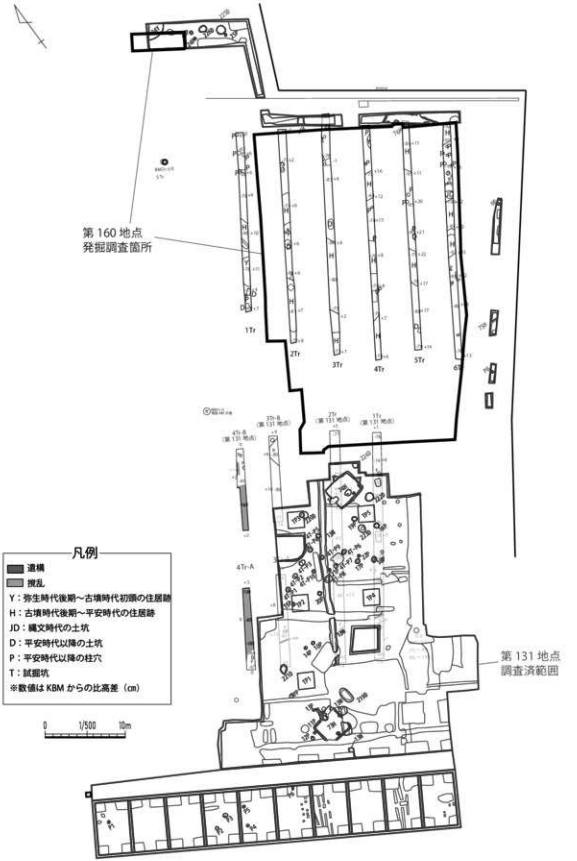
３．今回の調査対象範囲については、学校における利用があった箇所のため、まず、確認調査を実施するにあたり、事前に現地視察を行い、打合せを実施する。

11月８日、細田学園の現地視察を実施する。その結果、今回の調査対象箇所は、以前に発掘調査を実施した第131地点の北側部分であり、現在はバスケットボールコートと駐輪場になっているため、教育委員会は学校法人細田学園に対し、確認調査の実施前には確認調査が実施できるように事前に撤去を依頼した。

平成30年12月13日、教育委員会は、土木工事主体者である学校法人細田学園より確認調査依頼書を受理し、田子山遺跡第160地点として、12月19日から確認調査を開始した。確認調査は、第３図に示すように調査区ほぼ南北方向に６本のトレンチ（１～６Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑１基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡２軒、古墳時代後期～平安時代の住居跡12軒、平安時代の土坑11基・ピット30本等を確認した。調査区全体に各時代の遺構が広がっており、特に古墳時代後期の住居跡については、一辺８mを超える大型の住居跡が３軒ほど分布しているものと想定された。教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

平成31年２月15日に教育委員会は計画書類及び志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書を受理した。これにより、調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、民間調査組織の支援を受けることとし、４月23日に競争入札を行った。その結果、支援を依頼する民間調査組織が株式会社中野技術（代表取締役　菅原広志）に決定し、同日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、学校法人細田学園と事前協議を実施し、４月26日には株式会社中野技術と業務委託を締結、同日、学校法人細田学園と埋蔵文化財保存事業に係る協議書を取り交わし、志木市埋蔵文化財保存事業委託契約を締結した。

さらに教育委員会は、４月26日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に、５月14日から発掘調査を実施した。



第３図　確認調査時の遺構分布図と調査区設定状況（1／500）

第２節　発掘調査の経過と調査方法

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第２表の発掘調査工程表に示した。

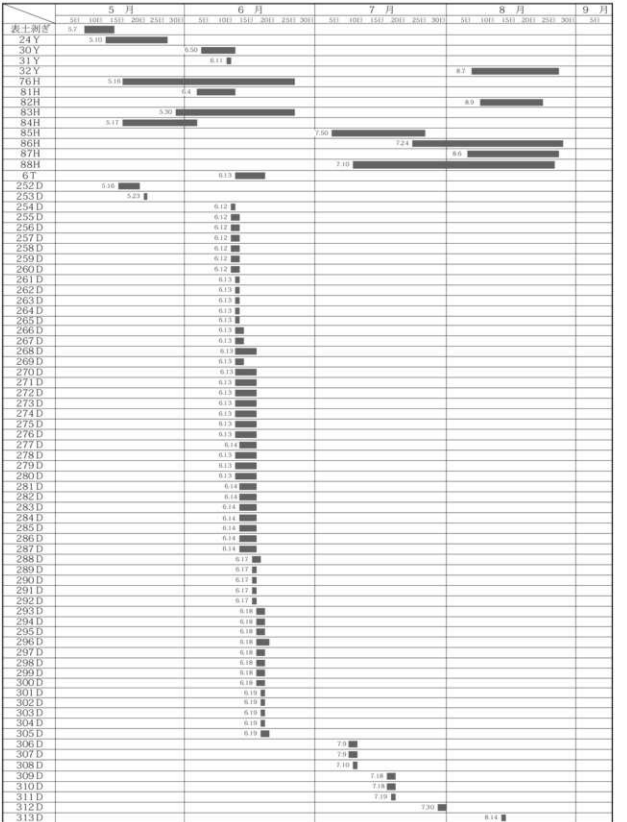
まず、準備作業として令和元年５月７日から囲柵設置、現場事務所設営、器材搬入、基準点測量及び調査区の位置出しを行った後、0.4㎥バックホーによる表土除去を５月13日まで断続的に行った。翌日の14日にバックホーにて北側飛地の表土除去を行い、すべての準備が整い同日の14日より本調査を開始し令和元年９月２日に現地での作業を終了している。調査面積は1315.5㎡であった。なお、実際の現地調査は廃土置場を別途確保できないことから、除去表土は反転して２期に分け対象区の北側を１期調査区として概ね30・31Y（弥生時代後期～古墳時代前期）住居跡より以北と更に北側の飛び地を、２期調査区を85・86H（古墳時代後期・平安時代）住居跡以南として進めた。なお、それぞれの除去表土の集積に当っては、飛散、崩落などを防ぐため、ブルーシートによる養生を行い対処している。

表土除去後、世界測地系国家公共座標により杭を打ち５ｍグリッドを設定、遺構確認、写真撮影を行い、遺構の掘り下げを開始した。遺構は、覆土の堆積状況を観察、記録するため半截又はベルトを残して掘り下げ、出土遺物は基本全点ドットで記録している。特殊な出土状況が伺えたものとカマド内については写真撮影してオルソ図を作成したものと手実測して記録を作成したものがある。ただし、遺構に伴わないもの又は微細な遺物については、グリッド又は遺構毎とし住居跡など大形遺構についてはさらに小区を設けて極力位置情報の取得に努めた。遺構は完掘後、平面図断面図をトータルステーションと電子平板を用いて記録した。なお、１期調査は、埋め戻しを含め５月14日から６月27日まで、２期調査は表土除去と最終埋め戻しを含め７月１日から９月３日まで実施し、学校法人細田学園、志木市教育委員会、株式会社中野技術立ち合いのもと調査区の引き渡しが行われ現地作業のすべてを完了した。

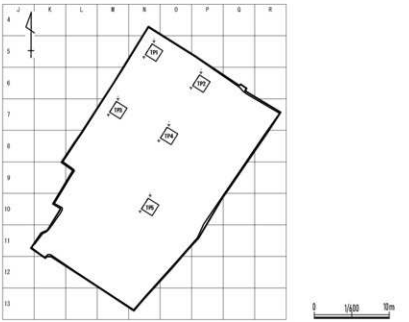
第３節　基本層序

本調査区の基本土層を確認するため、５箇所の深掘りトレンチを設定し、土層の記録を行った（第４・５図）。確認された層位は、立川ローム第Ⅹ層までである。なお、Ⅰａ層は砕石主体の造成土で、１・２区に認められ、Ⅰｂ層は耕作土で調査区全体に認められる。Ⅱａ層は黒褐色土、Ⅱｂ層は暗褐色土で、調査区全体に認められる。Ⅰａ層からⅡｂ層までの土層断面については、第14・18・21・34図等を参照。

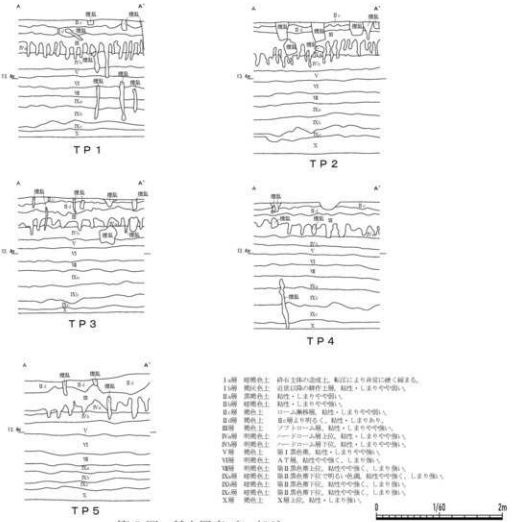
分層の結果、各深掘りトレンチの土層は水平に堆積しており、層位ごとの標高差は顕著にみられない。本調査区においては、傾斜地形はみられず、概ね平坦な地形であったと言える。



第２表　田子山遺跡第160地点の発掘調査工程表



第４図　深掘りトレンチ位置図（1／600）



第５図　基本層序（1／60）

第6図　遺構分布図（1／400）

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代

（１）概要

縄文時代の遺構は、土坑19基、炉穴１基、ピット１本が検出された。遺物は、縄文時代早期～後期の土器、黒曜石製の砕片などの石器で、遺構に伴うものは早期末から前期初頭と中期後葉の土坑から出土し、その他のものは遺構への流れ込みによるものと確認調査時に出土したものである。

（２）土坑

257号土坑

遺　構（第７図）

［位　置］（N－５）グリッド

［構　造］**平面形：**楕円形。**断面形：**北壁は垂直に近く、南壁は緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模：**長軸70cm／短軸60cm／深さ15cm。**主軸方位：**N－20°－W。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］古墳時代後期と平安時代の土師器小片が出土したが、流れ込みであり不掲載。

［時　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

259号土坑

遺　構（第７図）

［位　置］（N－５）グリッド

［構　造］**平面形：**楕円形。**断面形：**北西壁は緩やかに、東南壁は45°で立ち上がる。底面は東に傾斜し東南側が窪む。**規模：**長軸100cm／短軸65cm／深さ26cm。**主軸方位：**N－54°－W。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

260号土坑

遺　構（第７図）

［位　置］（N－６）グリッド

［構　造］**平面形：**楕円形。**断面形：**45°で緩やかに立ち上がる。底面は中央がやや盛り上がる。**規模：**長軸72cm／短軸55cm／深さ17cm。**主軸方位：**N－80°－W。

［覆　土］単層で中央に攪乱が入る。

［遺　物］縄文土器１点と古墳時代後期の土師器、平安時代の須恵器小片が出土した。縄文土器以外は流れ込みが想定され不掲載。

［時　期］覆土の観察及び出土土器により縄文時代前期初頭花積下層式期。

遺　　物（第11図、図版13－１－１、第３表）

１は深鉢口縁部付近の小片で胎土に繊維を含み、二重口縁状を呈し口縁外面に山形沈線が見られる。その括れ下には僅かに蕨手状文が確認でき、特徴から花積下層式であろう。

282号土坑

遺　　構（第７図）

［位　　置］（Ｏ－６）グリッド

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：75°前後で立ち上がる。底面は西側に段を持つ。**規模**：長軸65cm／短軸55cm／深さ30cm。**主軸方位**：Ｎ－83°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層できた。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

283号土坑

遺　　構（第７図）

［位　　置］（Ｏ－９）グリッド

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：40°で緩やかに立ち上がる。底面は緩やかに弧を描く。**規模**：長軸70cm／短軸55cm／深さ17cm。**主軸方位**：Ｎ－23°－Ｅ。

［覆　　土］２層で西側に撹乱が入る。

［遺　　物］縄文土器１点が出土した。

［時　　期］覆土の観察及び出土土器により縄文時代中期後葉加曽利ＥⅢ期。

遺　　物（第11図、図版13－１－１、第３表）

１は加曽利ＥⅢ期の深鉢胴部破片である。

284号土坑

遺　　構（第７図）

［位　　置］（Ｏ－９）グリッド

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：35°前後で緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸65cm／短軸55cm／深さ16cm。**主軸方位**：Ｎ－43°－Ｅ。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］古墳時代後期の土師器片が出土したが、流れ込みであり不掲載。

［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

286号土坑

遺　　構（第８図）

［位　　置］（Ｌ－７・８）グリッド

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：40°前後で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸65cm／短軸57cm／深さ16cm。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

289号土坑

遺　　構（第８図）
［位　　置］（Q－８）グリッド
［検出状況］１区東側で検出され、263Dに切られ、290Dを切る。
［構　　造］**平面形**：隅丸方形。**断面形**：40°～50°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸100㎝／短軸75㎝／深さ16㎝。**主軸方位**：N－26°－W。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

290号土坑

遺　　構（第８図）
［位　　置］（Q－８）グリッド
［検出状況］１区東側で検出され、289Dに切られる。
［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：55°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸70㎝／短軸検出長55㎝／深さ14㎝。**主軸方位**：N－24°－W。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

291号土坑

遺　　構（第８図）
［位　　置］（M－７）グリッド
［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：40°前後で緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸90㎝／短軸75㎝／深さ14㎝。**主軸方位**：N－56°－E。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

292号土坑

遺　　構（第９図）
［位　　置］（P・Q－８）グリッド
［検出状況］１区東側で検出され、266Dに切られる。
［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：30°～40°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦で西に傾斜す

る。**規模**：長軸190㎝／短軸125㎝／深さ32㎝。**主軸方位**：N－14°－W。

［覆　　土］３層に分層できた。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

293号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］（P・Q－８）グリッド

［**検出状況**］１区東側で検出され、264・265Dに切られる。

［**構　　造**］**平面形**：不定楕円形。**断面形**：20°～30°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸検出長235㎝／短軸不明／深さ22㎝。**主軸方位**：N－54°－E。

［覆　　土］２層に分層でき撹乱が入る。

［遺　　物］縄文土器（早期末葉条痕文系）が１点出土したが、小片のため不掲載。

［時　　期］出土土器及び覆土の観察より縄文時代と想定される。

294号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］（Q－９）グリッド

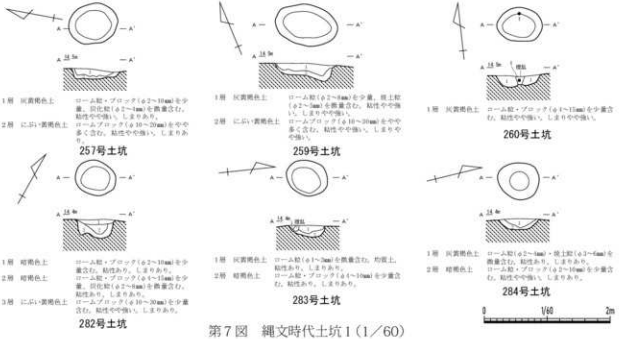
［**検出状況**］１区東側で検出され、81H床下より検出、295Dに切られる。

［**構　　造**］**平面形**：円形。**断面形**：40°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸75㎝／短軸65㎝／深さ17㎝。**主軸方位**：N－60°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。



第７図　縄文時代土坑１（1／60）

295号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］（Q－９）グリッド

［検出状況］１区東側で検出され、81H床下より検出、294Dを切る。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：現況40°～50°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸90cm／短軸75cm／深さ14cm。**主軸方位**：N－８°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

296号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］（Q－９）グリッド

［検出状況］１区東側で検出され、81H床下より検出。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：現況北東は10°で緩やかに、南西は50°で立ち上がる。底面は僅かに凸凹があり、南西に傾斜する。**規模**：長軸180cm／短軸125cm／深さ30cm。**主軸方位**：N－50°－W。

［覆　　土］３層に分層された。

［遺　　物］なし。

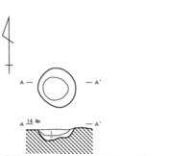
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

298号土坑

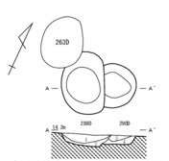
遺　　構（第９図）

［位　　置］（P－７）グリッド

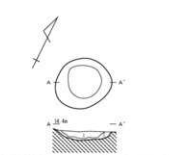
［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：現況40°～50°で弧状に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸60cm／短軸52cm／深さ22cm。**主軸方位**：N－27°－E。



286号土坑



289号土坑・290号土坑



291号土坑

0　1/40　2m

第８図　縄文時代土坑２（1／60）

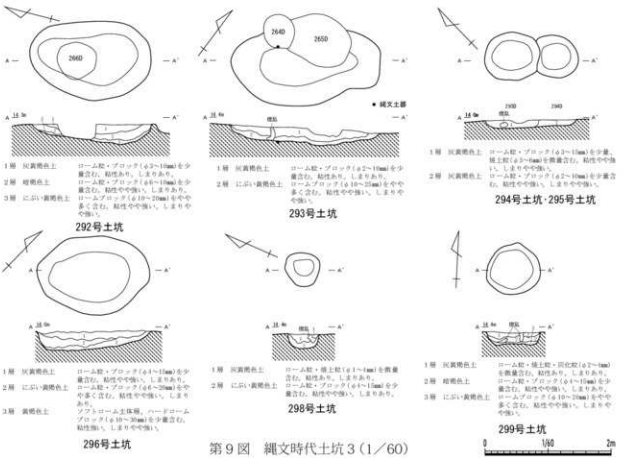
［覆　　土］２層に分層され撹乱が入る。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

299号土坑

遺　　構（第９図）
［位　　置］（Ｏ－８）グリッド
［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：現況40°～50°で弧状に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。**規模**：長軸85cm／短軸80cm／深さ17cm。**主軸方位**：Ｎ－64°－Ｅ。
［覆　　土］３層に分層され撹乱が入る。
［遺　　物］古墳時代後期の土師器片が出土したが、流れ込みであり不掲載。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

305号土坑

遺　　構（第10図）
［位　　置］（Ｐ・Ｑ－８）グリッド
［検出状況］１区東側で検出され、81H、288D、29Ｐに切られる。
［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：現況10°～15°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸検出長220cm／短軸検出長70cm／深さ28cm。**主軸方位**：Ｎ－64°－Ｅ。

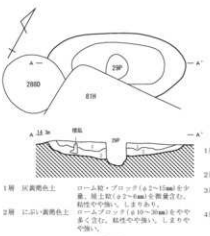


第９図　縄文時代土坑３（1／60）

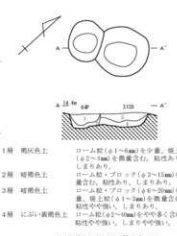
［覆　　土］２層に分層され撹乱が入る。
［遺　　物］古墳時代後期の土師器が出土するも、流れ込みのため不掲載。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

313号土坑

遺　　構（第10図）
［位　　置］（Ｏ－10）グリッド
［検出状況］２区北東側で検出され、64Ｐに切られる。
［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：現況40°で弧状に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。**規模**：長軸検出長85cm／短軸75cm／深さ24cm。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。
［覆　　土］２層に分層される。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察より縄文時代と想定される。

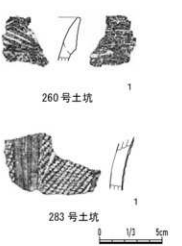


305号土坑



313号土坑・64号ピット

第10図　縄文時代土坑４（1／60）



第11図　260・283号土坑出土遺物（１／3）

（3）ピット

65号ピット

遺　　構（第12図）
［位　　置］（Ｌ－８）グリッド
［検出状況］２区西側で検出。32Ｙに切られる。
［構　　造］**平面形**：不定楕円形。**断面形**：壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は弧を描く。**規模**：長軸50cm／短軸30cm／深さ22cm。
［覆　　土］単層。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察と床下より検出されたことから縄文時代と想定される。

（４）炉穴

６号炉穴

遺　　構（第13図）

［位　　置］（K・L－10）グリッド

［検出状況］２区西側で検出。14Mに切られる。

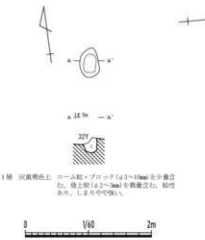
［構　　造］**平面形：**楕円形。**断面形：**北壁は60°で外反気味に、南壁は30°で緩やかに立ち上がるが、14Mに切られ上部を失う。底面は中央が浅く皿状に窪む。**規模：**長軸検出長165㎝／短軸検出長80㎝／深さ61㎝。

［覆　　土］７層に分層できた。

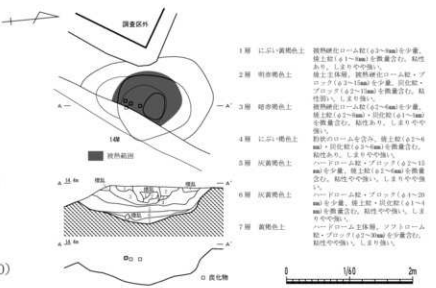
［遺　　物］縄文後期土器片、古墳時代後期土器片、近世の土器・陶器片が出土したが、何れも流れ込みの為不掲載。

［時　　期］覆土から縄文時代。

［所　　見］覆土の状況と構造、当遺跡の調査歴から想定される遺構の性格も加味すれば、早期末葉から前期初頭頃の炉穴と判断されよう。



第12図　65号ピット(1／60)



第13図　６号炉穴(1／60)

掲図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第11図１ 図版13-1-1	縄文 深鉢	口縁部破片	高[3.5] 厚1.2	260号土坑 覆土中	口縁は２重口縁状で、やや外傾する／前期初頭花積下層式	口縁外面に山形沈線、斜位の平行沈線施文／狭れ直下には僅かに縄文による横手文が観察される	長石・白色砂粒・砂粒・繊維を含む	灰黄褐色
第11図１ 図版13-1-1	縄文 深鉢	胴部破片	高[4.3] 厚1.1	283号土坑 覆土中	器形は外反する／中期後葉加曽利E3式	地文に縦位縄文RLを施文→磨消縄文を垂下させる	砂粒多く、長石・角閃石を含む	にぶい橙色

第３表　260・283号土坑出土遺物一覧

第２節　弥生時代後期～古墳時代初頭

（１）概要

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺構は、住居跡４軒とピット１本を検出し、遺物は弥生土器、土師器が出土している。

（２）住居跡

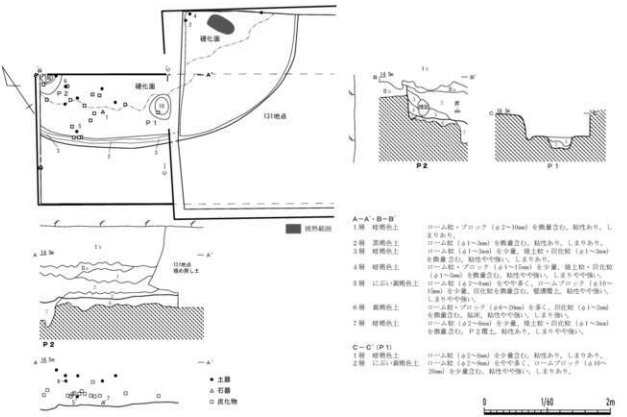
24号住居跡

遺　　構（第14図）

［位　　置］（Ｍ－０・１）グリッド

［検出状況］１区の北西。隣接する第131地点第４区検出の北西に続く同一住居である。なお、本住居は北側・西側調査区外へ更に続く。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸検出長2.40m／短軸検出長1.00m／確認面から床面までの深さは49cm。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位：**不明。**壁溝：**131地点では確認されていないが当地点では長さ２mに渡り確認された。幅は15cm前後、深さは２～８cm程である。**床面：**貼床の厚さは12cm前後である。硬化面は壁から概ね60～80cm内側より認められた。**炉：**第131地点で調査されている。**柱穴：**ピットを２基確認した。規模はＰ１（40×25cmの不正円形／深さ18cm）、Ｐ２（現況25×25cmで形状不明／深さ46cm）である。**入口施設・貯蔵穴：**検出されていない。



第14図　24号住居跡（1／60）

［覆　　土］７層に分層され、部分的に攪乱が認められた。暗褐色土と黒褐色土が互層をなし、貼床にはロームブロックが多く含まれる。

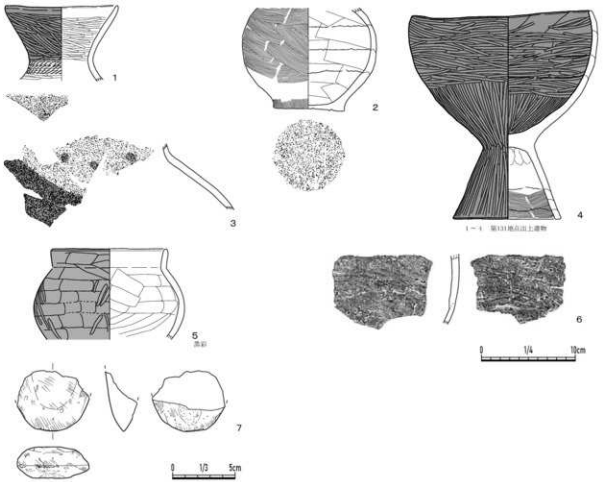
［遺　　物］第131地点で弥生土器が17点、第160地点で弥生土器が７点、混入した縄文土器２点、石器１点が出土している。図示したのはこの内の７点である。

［時　　期］弥生時代後期後葉。

［所　　見］床面近くで焼土と炭化材の分布が認められ、第131地点調査部分でも同様の状況があり焼失住居と想定される。

遺　　物（第15図、図版13－２、第４表）

５は壺、６は甕で、７は刃部付近を残す磨製石斧である。１～３は壺、４は高坏で、１～４は第131地点の遺物である。



第15図　24号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

30号住居跡

遺　　構（第16図）

［位　　置］（P－９・10、Q－９）グリッド

［検出状況］８・９Pに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸3.60m／短軸3.00m／確認面から床面までの深さは45㎝。**壁**：70°前後で立ち上がる。**主軸方位**：N－16°－W。**壁溝**：なし。**床面**：貼床の厚さは10㎝前後である。住居の炉を除いた中央付近の凡そ1.80m×1.50mの範囲に硬化面を検出した。**炉**：北コーナー内側75㎝の

偏った位置で掘り込み、東側縁に粘土を貼った粘土板炉を検出した。長軸50㎝、短軸42㎝。**柱穴**：なし。**入口施設**：なし。**貯蔵穴**：北東壁際検出された。規模は、長軸55㎝、短軸35㎝、深さ15㎝。**赤色砂利層**：東コーナーの際で確認された。

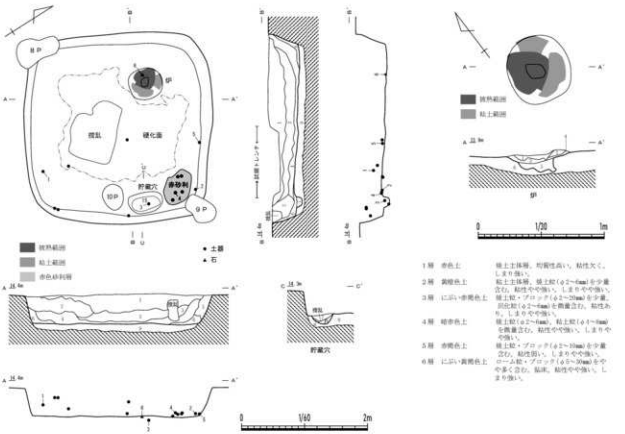
［**覆　　土**］９層に分層され、部分的に撹乱が認められた。黒褐色土と暗褐色土が主体で、貼床にはロームブロックが多く含まれる。

［**遺　　物**］弥生土器が71点、混入と思われる石器１点、須恵器４点、陶磁器４点が出土した。図示したのはこの内の土器５点と石器１点の６点である。

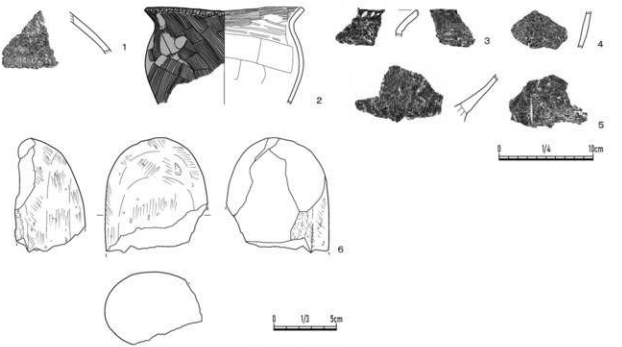
［**時　　期**］弥生時代後期末葉～古墳時代前期前葉。

遺　物（第17図、図版13－３、第５表）

１は壺の胴部片、２～５は甕である。６は磨石で破損資料である。



第16図　30号住居跡(1／60)・30号住居跡炉跡(1／30)



第17図　30号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

31号住居跡

遺　構（第18図）

［位　置］（L－7）グリッド

［検出状況］２区西端にて検出。住居の東端を検出し大部分は西側調査区外に所在するものと思われる。

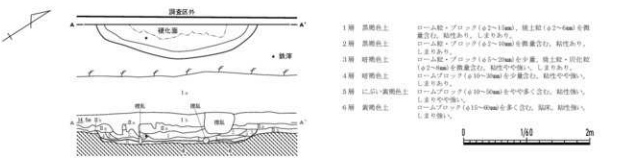
［構　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸不明／短軸検出長2.55m／確認面から床面までの深さは12㎝。**壁：**北東30°、南西は55°で何れも緩やかに立ち上がる。**主軸方位：**不明。**壁溝：**調査箇所では確認されなかった。**床面：**貼床の厚さは５㎝前後である。確認されている壁から内側に15～30㎝内側から硬化面が認められる、西側調査区外に続くことが予想される。**炉・貯蔵穴・柱穴・入口施設：**いずれも確認されなかった。

［覆　土］６層に分層された。暗褐色土が主体で、貼床にはロームブロックを多量に含む。

［遺　物］土器細片と土製品がそれぞれ１点、鉄滓１点。いずれも不掲載。

［時　期］弥生時代後期。

［所　見］調査範囲確定前の確認調査１トレンチにおいて、当住居跡の西側の一部が検出された。



第18図　31号住居跡（1／60）

32号住居跡

遺　　構（第19図）

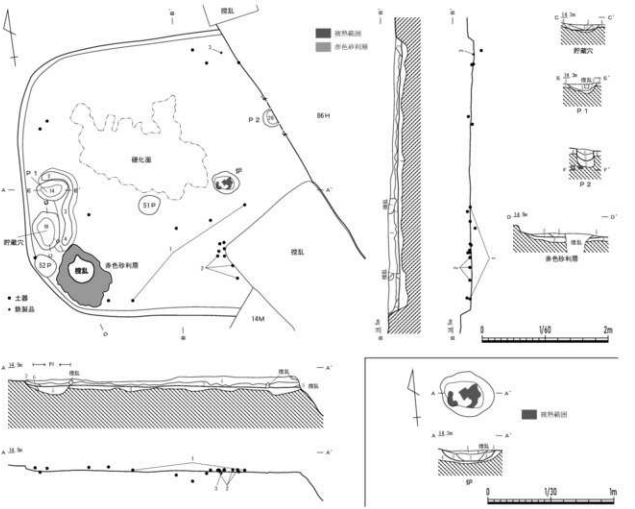
［位　　置］（L・M－８・９）グリッド

［検出状況］調査区西中央部付近に86H、14M、51・52Pに切られ、65Pを切る。

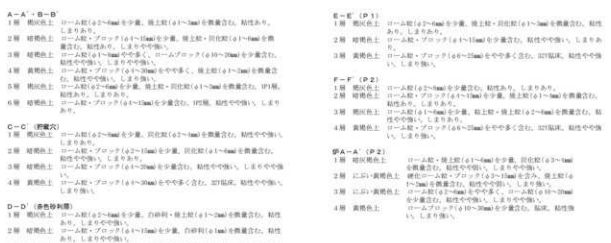
［構　　造］**平面形：**隅丸長方形。**規模：**長軸検出長5.00m／短軸4.36m／確認面から床面までの深さは15cm程度。**壁：**60°でやや緩やかに立ち上がる。**主軸方位：**N－35°－E。**壁溝：**確認されなかった。**床面：**貼床の厚さは８cm前後。硬化面が推定長軸ラインの北側で壁下場から80～100cm内側で2.00m×1.60mの不定形な範囲で確認された。**炉：**長軸ラインのやや東に寄って長軸40cm、短軸32cmの地床炉が確認された。**貯蔵穴：**西壁際のやや南に寄って確認された。規模は、長軸60cm、短軸40cm。**柱穴：**ピット２本を確認した。Ｐ１は長軸ライン上の西壁際で、規模は、長軸55cm、短軸40cm、深さは14cmである。Ｐ２は86Hに部分的に切られ、確認できる規模は、長軸30cm、短軸20cm程で、深さは26cmである。なお、Ｐ１と貯蔵穴を囲うように凸堤が巡る。当住居の全形は不明であるが、Ｐ１は位置的に出入口施設を構成するピットの可能性もあろう。**赤色砂利層：**南西コーナーに検出した。

［覆　　土］暗褐色土を主体とする３層に分層され一部に攪乱が入る。貼り床には、ロームブロックがやや多く認められた。

［遺　　物］弥生土器を83点、混入した土師器18点、須恵器６点、鉄製品１点、鉄滓が１点出土した。



第19図　32号住居跡(1／60)・32号住居跡炉跡(1／30)



その内図示したのは３点である。

［時　　期］弥生時代後期末葉から古墳時代初頭。

遺　　物（第20図、図版13－４、第６表）

１・２は台付甕である。３は釘状の鉄製品である。

第20図　32号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

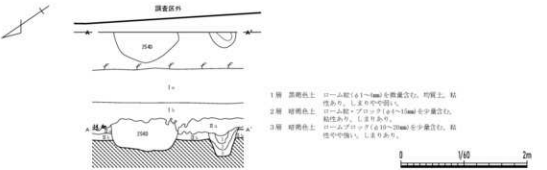
42号ピット

遺　　構（第21図）

［位　　置］（P－10）グリッド

［検出状況］２区東側で検出。東側は調査区外となり未調査。

［構　　造］**平面形**：不定楕円形か。**断面形**：深い逆台形でバケツ状。平坦な底面から北東、南西壁とも70°～80°で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸検出長45cm／短軸不明／深さ32cm。



第21図　42号ピット(1／60)

［覆　　土］３層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物として、古墳時代後期の土師器と平安時代の須恵器が出土。いずれも流れ込みで小片の為不掲載。

［時　　期］覆土の状況から弥生期の遺構と判断される。

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第15図5 図版13-2-5	土器 壺	口縁部～胴部破片	口12.0 高[9.6]	南側壁溝付近覆土中	胴部中央で最大径を測り、口縁部は短く直立	内面は斜位ヘラナデ後横位ヘラナデ、外面は横位ヘラナデ後部分的に斜位の細長いヘラナデ（磨き的）が施される	黄褐色粒子多く、長石・砂粒含む	にぶい褐色
第15図6 図版13-2-6	土器 甕	胴部破片	高[7.4] 厚0.9	柱穴（P2）付近覆土中	器形はやや内湾する／外面は薄く煤けている	内面はハケ目後横・斜位ヘラナデ、外面は横・斜位ハケ目	砂粒・小石を少量含む	外面：にぶい橙色 内面：橙色
第15図7 図版13-2-7	石器 磨製 石斧	刃部破片	—	南側ほぼ床面上	長さ4.7cm・幅5.7cm・厚さ2.5cm・重さ50.4g／蛇刃。基部欠損。両面ともに研磨されているが、裏面の中央部に研磨されていない部分が残る／刃部にガジリ痕が見られる	—	閃緑岩	—

第４表　24号住居跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第17図1 図版13-3-1	土器 壺	肩部破片	高[4.5] 厚0.8	南コーナー覆土中	器形は内傾する	内面は丁寧なナデ、外面は端末結束羽状縄文+横位粗縄文+端末結束羽状縄文を施文	砂粒・黄色粒子多量含む	橙色
第17図2 図版13-3-2	土器 甕	口縁部～胴部破片	口16.2 高[12.0]	東コーナー壁溝付近床面上	胴部中央で最大径を測る／口縁は外反し、波状に歪む／外面に煤付着	内面は横位ハケ目調整・ナデ、外面は斜位のハケ目調整→口唇端部に連続した刻みを施す。	砂粒・橙色粒子多量含む	灰黄褐色
第17図3 図版13-3-3	土器 甕	口縁部～頸部破片	高[2.9] 厚0.6	貯蔵穴内覆土中	口縁部は直線的に外傾する／内外面に煤付着	内面は横位のハケ目調整・横ナデ、外面は斜位のハケ目調整・横ナデ後口唇端部に連続した刻み／外面煤ける	砂粒・黄色粒子・小石少量含む	にぶい黄褐色を基調とし、一部黒褐色
第17図4 図版13-3-4	弥生土器 甕	胴部破片	高[3.9] 厚0.6	東コーナー覆土中	器形は外傾する	内面は横位のヘラナデ、外面は斜位のハケ目調整	砂粒・橙色粒子多量含む	にぶい橙色
第17図5 図版13-3-5	土器 甕	胴部～脚部破片	高[5.0] 厚2.0	北東壁溝付近床面上	胴部は大きく外傾する／内外面に煤付着、特に内面の黒化が著しい	内面は横・斜位のヘラナデ、外面は縦位のハケ目調整	砂粒・小石を多量含む	外面：にぶい褐色 内面：黒褐色
第17図6 図版13-3-6	石器 磨石	30%	—	粘土板炉内床面上	長さ9.0cm・幅8.1cm・厚さ5.5cm・重さ489.0g／全面に擦痕が見られる／裏面中心に２／３ほど欠損／裏面に敲打痕が残る	—	閃緑岩	—

第５表　30号住居跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第20図1 図版13-4-1	土器 台付甕	口縁～胴部破片	口21.0 高[17.2]	南側床面上	口縁部は外反し、胴部中央付近で最大径を測り、下半は大きくすぼまる	内面は横位のハケ目調整、外面は横位、斜位のハケ目調整後、一部に指頭による圧痕が見られる／胴部下方に幅の狭いヘラナデが粗く施される	砂粒・小石・黄色粒子多量含む	赤褐色
第20図2 図版13-4-2	土器 台付甕	脚部70%	高[8.0] 底11.8	南側と東側床面上に散在	直線的な「ハ」の字状を呈する。	内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラナデ後、斜位のヘラナデ調整／上方に指頭による圧痕が残る	砂粒・黄色粒子多量含む	にぶい褐色
第20図3 図版13-4-3	鉄製品 釘	ほぼ完形	—	北東側床面上	釘か／長さ5.8cm・幅0.7cm・厚さ0.3cm・重さ3.0g／先端部欠損／先端に向かって細くなり、断面は方形に近い	—	—	—

第６表　32号住居跡出土遺物一覧

第３節　古墳時代後期～平安時代

（１）概要

当期は、古墳時代後期と平安時代に大きく分かれる。古墳時代後期の遺構は、住居跡が３軒（76H、86H、88H）、ピットが10本（54Ｐ～63Ｐ）、平安時代の遺構は、住居跡６軒（81H～85H、87H）、掘立柱建築遺構１棟（６Ｔ）、土坑が43基（252～256、258、261～281、287、288、297、300～304、306～312、314D）、溝跡２本（14・17M）、ピットが54本（１～41、43～53、64、66Ｐ）検出された。遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓、土製品、石製品、ほかである。この内、古墳時代後期の住居はいずれも一辺が８m弱から９m弱に及ぶ大形に属する部類のもので、かつ６本柱穴をもつ整美なものであった。出土遺物も総破片点数でいずれの住居も3000～8000点に及ぶ大量の出土を見ている。また、覆土中も含めて200点余りの炭化種子（モモ、スモモ）が出土した86Hや覆土上層に定量の平安時代の遺物が出土した88Hなど廃絶や埋没過程の点で興味深い状況が伺える。一方、平安時代は、更に９世紀前後と10世紀前後の２時期に細分される。また81H、83H、85Hが位置する中央には、この期のピット群があり、その中で北西隅柱を欠くが２×３間の東西棟で梁行き4.50m、桁行き2.80mの６Tが整理作業段階で確認できた。覆土と主軸方位から当期の遺構として認識した。

（２）住居跡

76号住居跡

遺　構（第22～27図）

［位　置］（Ｐ・Ｑ－６～８、Ｒ－７）グリッド

［検出状況］１区北東部で検出。住居跡北東部は第131地点で調査済である。252・253Dに切られる。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸7.80m／短軸7.60m／深さ86cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－32°－Ｗ。**壁溝**：全周する。規模は上幅30cm前後／下幅15cm前後／深さ15cm。**床面**：貼床の厚さは９cm前後である。**硬化面**：北西コーナー付近及び各壁際を除きほぼ全域に確認できた。**カマド**：西壁中央に長軸160cm、短軸100cm、深さ64cmのカマドを検出。袖構築時の掘り残しロームの痕跡とその袖を破壊して壁溝が貫通し、火床面最下部の一部が僅かに遺存していることから旧カマドと判断される。新カマドは第131地点にて確認されている。**炉**：長軸63cm／短軸34cm／深さ２cmで住居の中心に地床炉が確認された。**貯蔵穴**：今次調査区の北東壁際に検出され、以北は第131地点でＰ１として調査された。合わせた規模は、長軸120cm／短軸45cm／床面からの深さ45cm。**柱穴**：ピットが８本確認された。第131地点と合わせると、炉を中心に住居コーナー対角線に主柱穴４本を埋設し、各主柱穴の間に補助柱４本を配する整った８本構成となる。Ｐ６のみ配列的に外れる。深さは、主柱穴が64～75cm、支柱穴が21～35cmである。**入口施設**：南東壁中央と南西壁中央の二か所に凸堤が認められ、出入口ピットが検出された。

［覆　土］覆土は黒褐色土と暗褐色土を主体とする18層に分層でき、全体的に炭化粒が分布した。

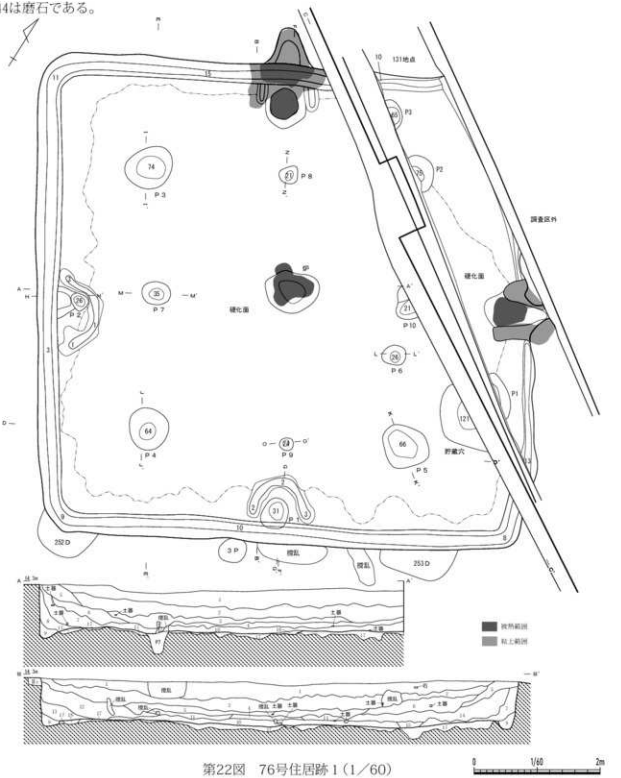
［遺　物］第131地点で360点の遺物が出土し、第160地点では総点数5041点の大量の遺物が出土している。土師器坏、鉢、甕、甑、土製支脚などと不掲載としたが椀型滓が１点出土している。遺物の分布状況は（第26・27図）、平面的には第131地点東カマド南袖付近と西コーナーからＰ３付近・中央の炉東側

付近に集中し、南側は分布がやや薄い状況であった。垂直分布は概ね、床面付近を除けば四囲の壁溝埋没後のものと見える。図示したのは38点で、これらは結果として第28図10を除けば、中層と床面付近（第27図）から出土であった。なお131地点出土土器と接合を試みたが接合するものはなかった。

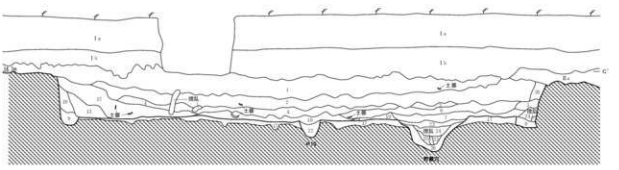
［時　　期］古墳時代後期（７世紀末葉から８世紀初頭）。

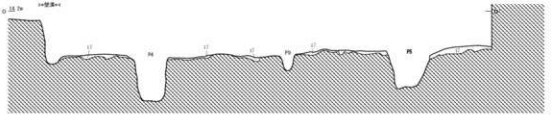
遺　　物（第28 ～ 30図、図版14・15、第８表）

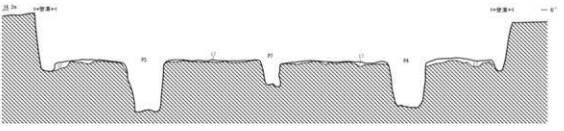
１～６は第131地点からの出土である。１～34は坏、35は鉢、36 ～ 41は甕、42は甑、43は土製支脚、44は磨石である。

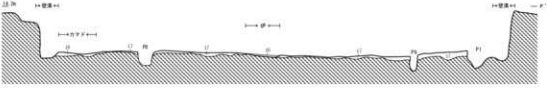


第22図　76号住居跡１（1／60）





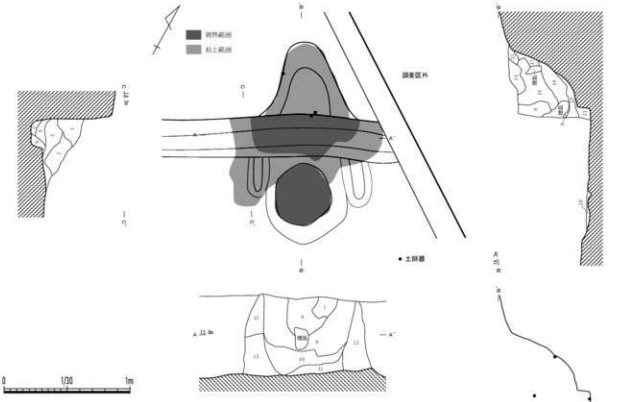




A－A′・B－B′・C－C′・D－D′・E－E′・F－F′

1 層	暗褐色土	ローム粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3 層	褐灰黄色土	ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
4 層	黒褐色土	ローム粒(φ1～5mm)を微量、炭化粒(φ2～10mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
5 層	暗褐色土	ローム粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
6 層	黒褐色土	ローム粒(φ1～5mm)を微量、炭化粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
7 層	暗褐色土	ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
8 層	暗褐色土	ローム粒(φ1～5mm)を少量、炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
9 層	暗褐色土	ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～5mm)を微量含む。堅緻、粘性やや強い、しまりやや強い。
10 層	にぶい黄橙色土	ローム粒(φ2～5mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～20mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性強い、しまりやや強い。
11 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
12 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量、焼土粒・粘土粒(φ2～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
13 層	にぶい黄橙色土	粘土粒・ブロック(φ5～20mm)をやや多く、焼土粒・炭化粒(φ2～3mm)を少量含む。粘性あり、しまり強い。
14 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
15 層	暗褐色土	ローム粒(φ1～3mm)を少量、炭化粒・焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
16 層	赤褐色土	焼土粒・ブロック(φ3～15mm)を少量含む。粘性大、しまり強い。
17 層	黄褐色土	ローム粒ブロック(φ10～20mm)を多く、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘質、粘性やや強い、しまりやや強い。
18 層	にぶい橙色土	粘土粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。白カマド土粘質、粘性やや強い、しまり強い。
19 層	暗褐色土	ローム粒(φ2～5mm)を少量、粘土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
20 層	黒褐色土	ローム粒(φ1～3mm)を微量、焼土粒・炭化粒(φ1～2mm)を含む。粘性やや強い、しまりあり。
21 層	暗褐色土	ローム粒(φ2～5mm)を少量、炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
22 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
23 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
24 層	黒褐色土	ローム粒(φ2～5mm)、焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
25 層	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
26 層	にぶい黄橙色土	ロームブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや強い。

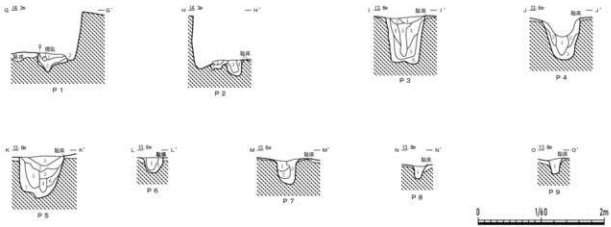
第23図　76号住居跡２(１／60)



A－A'・B－B'・C－C'

1層	暗灰色土	粘土粒・ブロック(φ3～30mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ3～10mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
2層	灰白色土	粘土粒主体層、炭化粒(φ3～8mm)を微量含む。粘性あり。しまり強い。
3層	灰白色土	粘土主体層、焼土粒・炭化粒(φ2～8mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
4層	暗灰色土	ローム粒・ブロック(φ5～15mm)を少量、炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。7Ｇ明瞭。粘性あり。しまりあり。
5層	灰白色土	粘土ブロック(φ5～20mm)をやや多く、ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
6層	仁呉・黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ3～20mm)をやや多く含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
7層	暗灰色土	ローム ブロック(φ10～20mm)を少量、粘土粒・焼土粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
8層	仁呉・黄橙色土	ローム ブロック(φ10～50mm)を少量、粘土粒(φ2～6mm)、焼土粒・ブロック(φ4～15mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
9層	浅黄橙色土	ローム ブロック(φ10～40mm)を少量、粘土粒・ブロック(φ3～20mm)をやや多く含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
10層	仁呉・赤褐色土	ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量、焼土粒・粘土粒(φ2～6mm)をやや多く含む。粘性あり。しまりやや強い。
11層	橙色土	ローム粒・ブロック(φ4～20mm)を少量、焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
12層	仁呉・黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ4～20mm)をやや多く含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
13層	黄褐色土	ローム ブロック(φ10～50mm)を多く含む。粘性やや強い。しまり強い。
14層	暗灰色土	ローム粒(φ2～6mm)を少量、粘土粒・焼土粒(φ4～6mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
15層	黒褐色土	ローム粒(φ2～6mm)を微量、焼土粒・ブロック(φ2～15mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
16層	仁呉・橙色土	粘土粒・ブロック(φ2～20mm)をやや多く、焼土ブロック(φ2～15mm)を少量、炭化粒(φ3～6mm)微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
17層	灰褐色土	ローム粒(φ4～6mm)を少量、焼土粒(φ2～6mm)・粘土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
18層	仁呉・赤褐色土	粘土粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ4～15mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
19層	暗赤色土	カマド焼口、焼土主体層、炭化粒・ブロック(φ3～10mm)を少量含む。粘性大。しまり強い。

第24図　76号住居跡カマド(1／30)



第25図　76号住居跡ピット(1／60)

G－G′（P1）
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～4mm）を少量、焼土粒（φ3～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～15mm）を少量、焼土粒・ブロック（φ2～15mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　　ローム粒・ブロック（φ10～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。

H－H′（P2）
1層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～10mm）を少量、炉化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～30mm）を少量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）を少量、炉化粒・焼土粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（φ10～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりあり。

I－I′（P3）
1層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～10mm）を少量、炉化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～20mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～30mm）を少量、炉化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
4層　にぶい黄褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまり強い。
5層　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（φ10～50mm）をやや多く含む。粘性強い、しまり強い。

J－J′（P4）
1層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～20mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
3層　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（φ10～40mm）をやや多く含む。粘性強い、しまりやや強い。

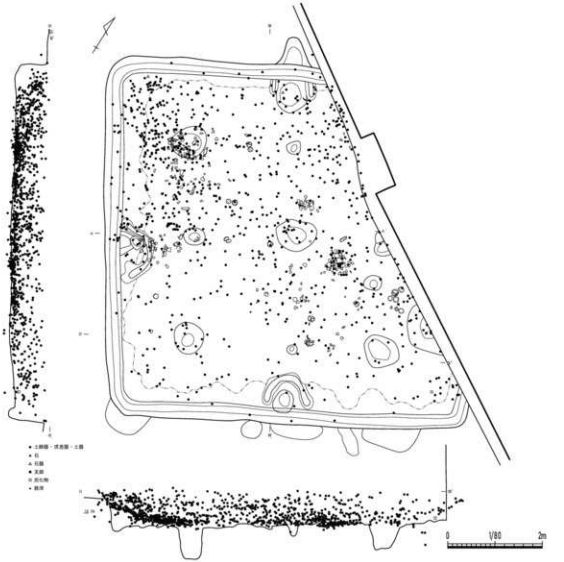
K－K′（P5）
1層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ4～10mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ3～20mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～10mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～5mm）を少量、ロームブロック（φ10～20mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
5層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ6～30mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
6層　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（φ10～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
7層　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（φ20～50mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。

L－L′（P6）
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ8～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりあり。

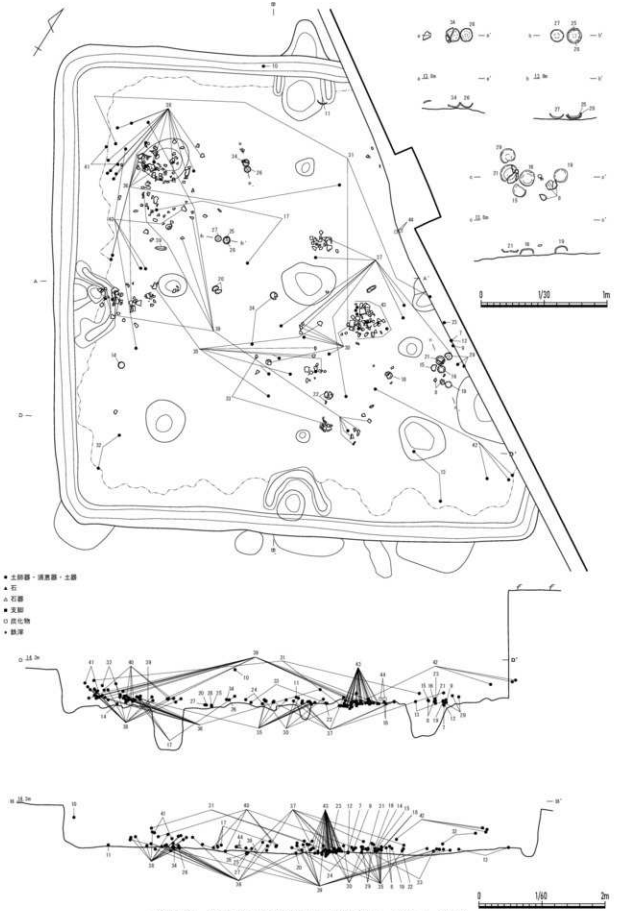
M－M′（P7）
1層　暗褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～15mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
3層　にぶい黄褐色土　　ロームブロック（φ10～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。

N－N′（P8）
1層　暗褐色土　　ローム粒（φ1～6mm）をやや多く、ロームブロック（φ10～15mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。

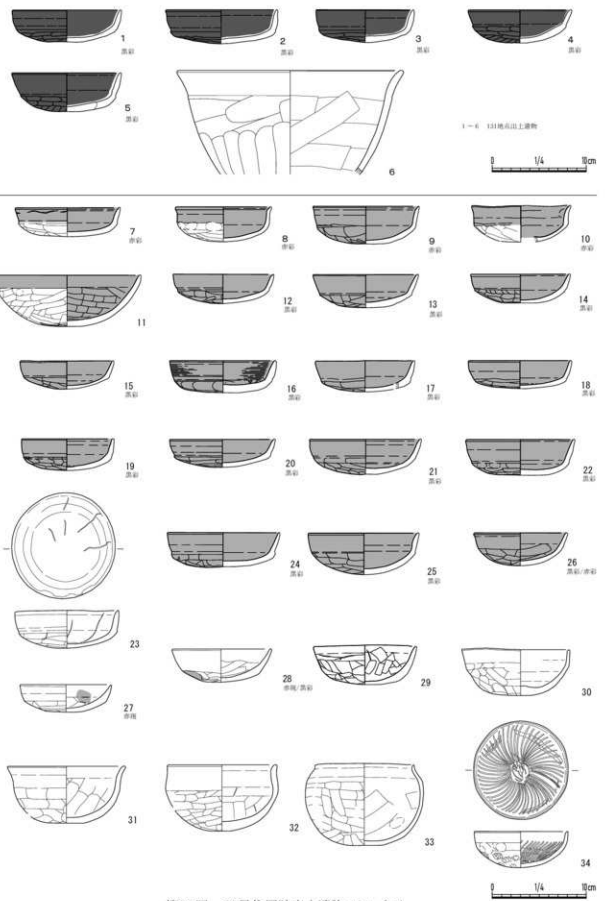
O－O′（P9）
1層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～15mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。



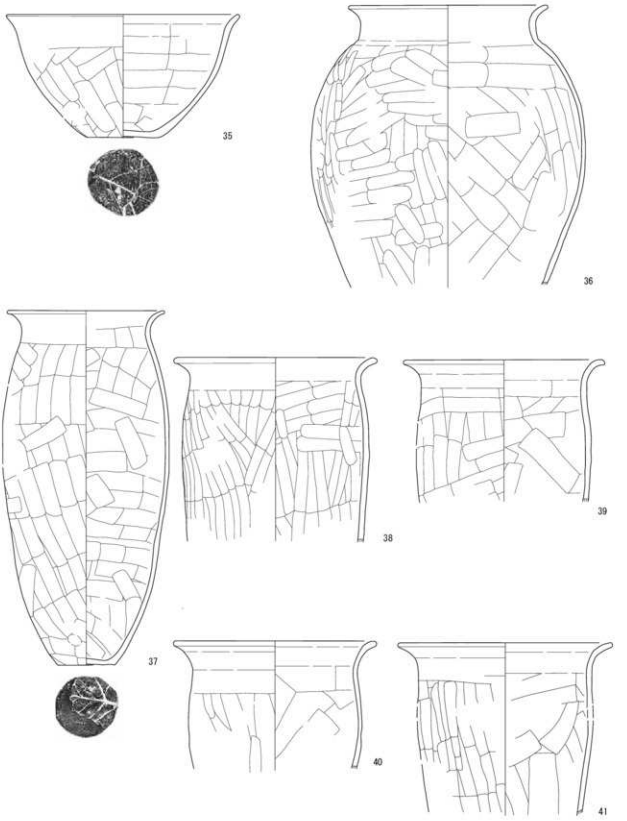
第26図　76号住居跡遺物出土状態１（1／80）



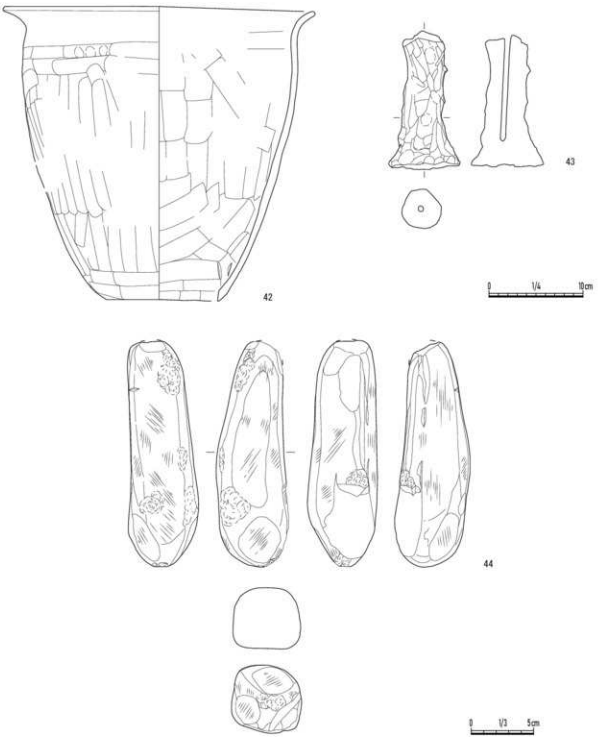
第27図　76号住居跡遺物出土状態２（1／60・1／30）



第28図　76号住居跡出土遺物 1(1／4)



第29図　76号住居跡出土遺物 2(１／４)



第30図　76号住居跡出土遺物３(１／４・１／３)

81号住居跡

遺　　構（第31・32図）

［位　　置］（Q－８・９）グリッド

［検出状況］１区南東端にて検出した。続く南東コーナー部は調査区外となる。294・295・296・305Dを切るが、11Ｐは切り合い関係不明。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸検出長3.40m／短軸検出長3.10m／深さ15cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N－42°－W。**壁溝**：調査区内では全周する。規模は上幅15cm前後／下幅５cm前後／深さ10cm前後。**床面**：貼床の厚さは７cm前後である。また４か所焼土の分布が認められた。**カマド**：確認できなかったが、調査区外の東壁に所在すると思われる。**柱穴**：ピットが１基確認された。深さは、８cmである。**入口施設**：確認されなかった。

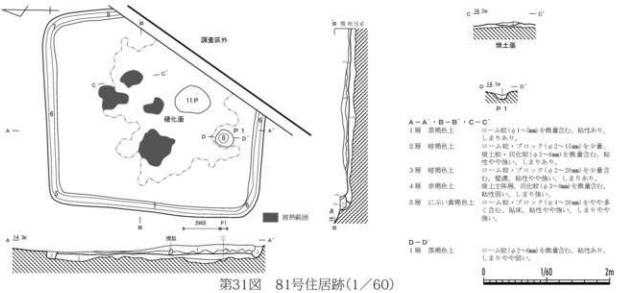
［覆　　土］覆土は暗褐色土を主体とする５層に分層でき、自然堆積の様相を呈する。

［遺　　物］土師器片87点、須恵器２点、混入と思われる縄文土器２点、陶磁器１点が出土した。このうち、図示したのは３点である。

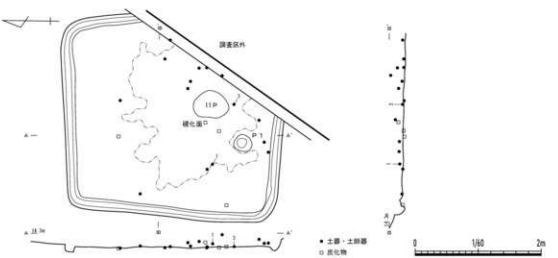
［時　　期］平安時代（９世紀末葉～ 10世紀前葉）。

遺　　物（第33図、図版16－１、第９表）

１・２は酸化炎焼成の須恵器坏である。３は所謂常陸型或いは常総型甕で、図示しないが同一個体の胴部中位付近と更に下部の胴部下端の小片が出土している。



第31図　81号住居跡(1／60)



第32図　81号住居跡遺物出土状態(1／60)

第33図　81号住居跡出土遺物（1／4）

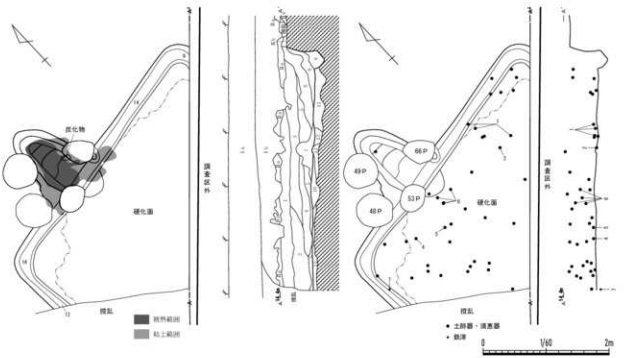
82号住居跡

遺　構（第34 ～ 36図）

［位　置］（N－12・13、O－12）グリッド

［検出状況］２区南端にて検出した。北東－南西ラインの南側は旧コンクリート基礎で調査区外となり、北西コーナーの南側にも旧コンクリート基礎による撹乱が入る。カマド付近の48・49・53・66Ｐに切られる。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：不明。北辺の最大検出長4.50m ／深さ55cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N－78°－E。**壁溝**：調査区内ではカマド下も含め全周する。規模は上幅15 ～ 25cm／下幅５～ 10cm／深さ15cm前後。**床面**：貼床の厚さは７cm前後である。**カマド**：北壁西寄りに確認され、壁溝を埋めて構築された。**規模**：長軸160cm／短軸75cm／深さ81cm。**柱穴**：調査区内では確認できなかった。**入口施設**：調査区内では確認されなかった。



1層　黒褐色土　　ローム粒（φ1～2mm）、焼土粒・炭化粒（φ1mm）を微量含む。均質土。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒（φ1～4mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～4mm）を少量、焼土粒（φ1～2mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～3mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～15mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ1～4mm）を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
6層　暗褐色土　　ローム粒（φ2～5mm）を少量、ロームブロック（φ2～20mm）を微量、焼土粒・ブロック（φ1～30mm）を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
7層　黒灰色土　　ローム粒・ブロック（φ2～15mm）を少量、粘土粒・ブロック（φ3～20mm）・焼土ブロック（φ20～30mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
8層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ1～5mm）、焼土粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
9層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ4～20mm）を少量、炭化粒（φ2～4mm）を微量含む。壁溝。粘性やや強い。しまりやや強い。
10層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ2～20mm）をやや多く含む。貼床。粘性やや強い。しまりやや強い。
11層　黄褐色土　　ローム粒・ハードローム土珠塊、ソフトローム粒・ブロック（φ5～30mm）を少量含む。貼床。粘性やや強い。しまり強い。
12層　にぶい黄褐色土　ローム粒（φ2～8mm）をやや多く、ハードローム粒（φ10～30mm）を少量含む。貼床。粘性やや強い。しまりやや強い。

第34図　82号住居跡・82号住居跡遺物出土状態（1／60）

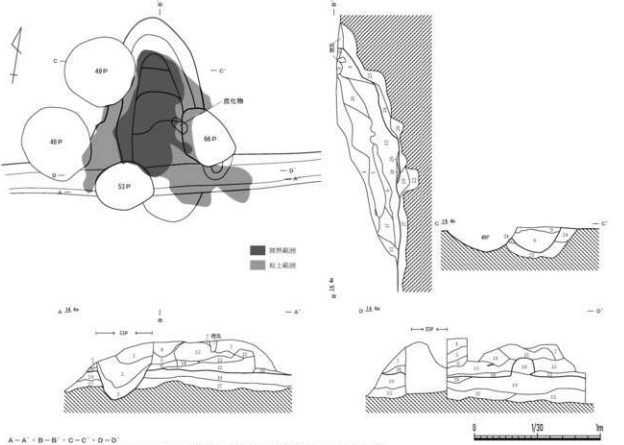
［覆　　土］覆土は黒褐色土の間に暗褐色土が挟まれた12層に分層でき、自然堆積の様相を呈した。

［遺　　物］土師器片427点、須恵器19点、刀子１点。混入した縄文土器２点、瓦１点が出土した。このうち、図示したのは７点である。

［時　　期］平安時代（９世紀前葉）。

遺　　物（第37図、図版16－２、第10表）

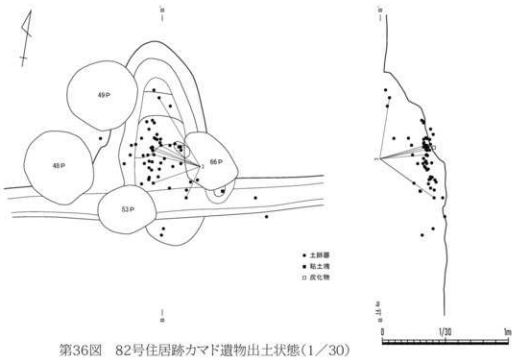
１・２は須恵器蓋で、１の外面には、左から右に「山田二」の墨書が確認できる。３～６は土師器甕である。また図示しないが、糸切り底から緩やかに丸みをもって立ち上がる須恵器坏の小片や器壁の薄い土師器甕胴部片などが出土している。７は鉄製品で、刀子であろうか。



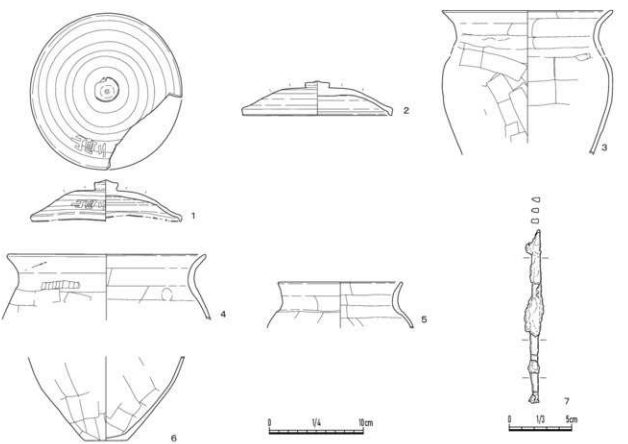
A－A'・B－B'・C－C'・D－D'

１層	褐灰色土	ローム粒（φ2～5mm）・粘土粒（φ1～5mm）を少量、焼土粒（φ1～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
２層	黒褐色土	ローム粒（φ2～5mm）・焼土粒（φ1～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりあり。
３層	褐灰色土	粘土粒・ブロック（φ2～15mm）を少量、ローム粒・焼土粒・ブロック（φ2～20mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
４層	黒褐色土	粘土粒（φ1～5mm）・焼土粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
５層	褐灰色土	粘土粒・ブロック（φ2～15mm）を少量、焼土粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
６層	にぶい赤褐色土	粘土粒（φ2～5mm）を微量、焼土粒・ブロック（φ2～15mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
７層	灰褐色土	粘土粒・ブロック（φ1～20mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
８層	にぶい赤褐色土	粘土粒（φ1～3mm）を微量、焼土粒（φ2～5mm）を少量含む。粘性あり、しまりあり。
９層	暗褐黒色土	粘土粒（φ2～4mm）・焼土粒（φ1～4mm）を少量含む。粘性あり、しまりあり。
10層	灰黒色土	粘土粒・ブロック（φ2～15mm）を少量、焼土粒・ブロック（φ2～10mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
11層	褐灰色土	ローム粒（φ1～5mm）を少量、粘土粒・焼土粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
12層	にぶい黄褐色土	粘土主体層、焼土粒・ブロック（φ2～30mm）を少量、炭化粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
13層	褐灰色土	粘土粒（φ2～5mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ1～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
14層	暗赤褐色土	焼土粒・ブロック（φ1～20mm）を少量、炭化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
15層	暗赤褐色土	ローム粒・粘土粒（φ1～5mm）をやや多く、焼土粒・炭化粒（φ1～5mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
16層	暗緑褐色土	ローム粒（φ2～5mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ1～5mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
17層	灰黒色土	粘土粒・ブロック（φ2～5mm）をやや多く、焼土粒・炭化粒（φ2～5mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
18層	灰黒色土	粘土主体層、焼土粒・炭化粒（φ2～5mm）を微量含む。カード層、粘性強い、しまり強い。
19層	暗褐色土	ローム粒・ブロック（φ1～20mm）を少量、炭化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘質、　8200層粘性やや強い、しまり強い。
20層	赤褐色土	焼土主体層、粘土粒（φ2～3mm）を少量、炭化粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
21層	黄褐色土	ハードローム主体層、粘土粒・焼土粒（φ1～3mm）を微量含む。粘質上にある粘質。粘性やや強い、しまりやや強い。
22層	黒褐色土	ローム粒（φ1～3mm）を少量、を微量含む。粒質上、粘性やや強い、しまりやや強い。
23層	暗褐色土	ローム粒・ブロック（φ1～20mm）を少量含む。粘質・片層、粘性やや強い、しまりやや強い。
24層	暗緑褐色土	ローム粒（φ2～5mm）を少量、焼土粒・炭化粒（φ2～5mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
25層	にぶい黄褐色土	ローム粒（φ1～5mm）をやや多く、ローム・ブロック（φ10～30mm）を少量、焼土粒・ブロック（φ2～5mm）を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
26層	暗褐色土	ローム粒・ブロック（φ6～20mm）を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
27層	黄褐色土	ローム粒・ハードローム主体層、ソフトローム粒・ブロック（φ6～60mm）を少量含む。粘質、8201層粘性やや強い、しまり強い。

第35図　82号住居跡カマド（1／30）



第36図　82号住居跡カマド遺物出土状態(1／30)



第37図　82号住居跡出土遺物(1／4・1／3)

83号住居跡

遺　構（第38～41図）

［位　置］（Ｏ・Ｐ－７）グリッド

［検出状況］１区中央付近で検出した。７・20Ｐに切られ、46Ｐを切る。45Ｐは床下から検出。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸5.00m／短軸3.20m／深さ45cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－83°－Ｗ。**壁溝**：カマド以外全周する。規模は上幅15～25cm／下幅５～15cm／深さ10cm前後。**床面**：貼床の厚さは８cm前後である。**カマド**：東壁中央に確認された。規模は長軸162cm／短軸100cm。**柱穴**：ピットが２本確認された。いずれも、出入口ピットとなる可能性がある。深さは、Ｐ１が７cm、Ｐ２が12cmである。

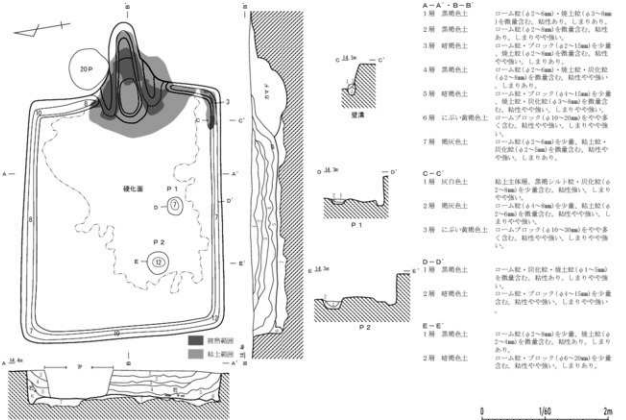
［覆　土］黒褐色土を主体とする７層に分層でき、自然堆積の様相を呈す。

［遺　物］土師器片920点、須恵器46点、大型の鉄滓１点、椀型滓４点、混入と思われる縄文土器８点が出土した。このうち、図示したのは14点で、大型の鉄滓については、［付編］自然科学分析（135ページ）を参照いただきたい。

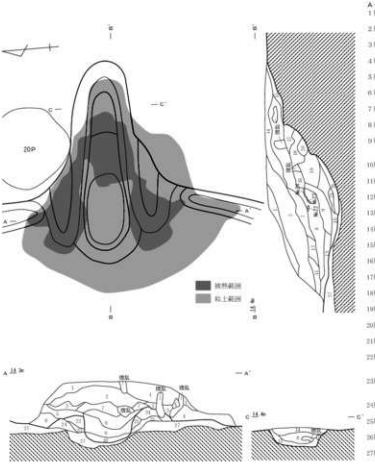
［時　期］奈良時代（８世紀後葉）。

遺　物（第42図、図版16－３・17－１、第11表）

１は須恵器椀蓋、２～６は須恵器坏、７は小形で無台のため須恵器の壺であろうが、甕の可能性もある。８～14は土師器甕で、８・10～13は台付甕であろう。



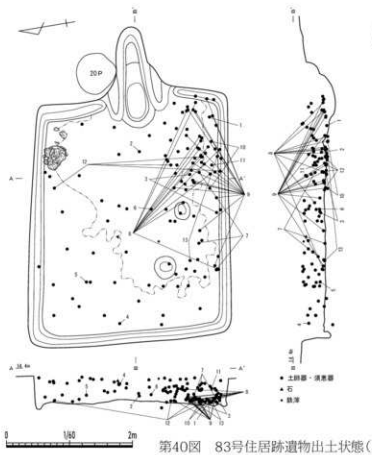
第38図　83号住居跡(1／60)

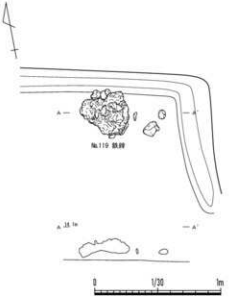


A－A'・B－B'・C－C'

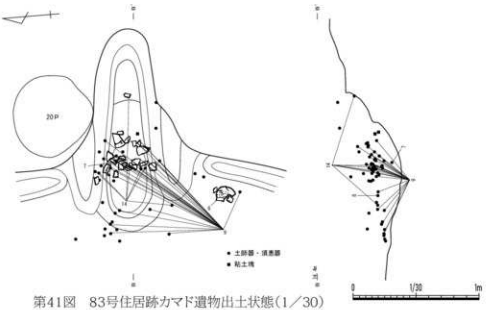
1層	灰黒色土	粘土粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層	暗赤黒色土	ローム粒(φ1～6mm)、焼土粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層	にぶい赤黒色土	粘土粒(φ2～8mm)を少量、炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
4層	灰黒色土	粘土粒・ブロック(φ1～15mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
5層	にぶい黒色土	粘土粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、焼土粒(φ1～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
6層	にぶい橙色土	ロームブロック(φ5～20mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
7層	赤黒色土	焼土粒・ブロック(φ1～15mm)を少量、炭化粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性弱い、しまりやや強い。
8層	極暗赤黒色土	焼土粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、炭化粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
9層	赤黒色土	粘土粒・ブロック(φ2～15mm)・焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を少量、炭化粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性弱い、しまりやや強い。
10層	暗赤黒色土	ローム粒・粘土粒(φ2～8mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
11層	灰黒色土	ローム粒(φ2～8mm)を少量、焼土粒・粘土粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
12層	黒褐色土	焼土粒・炭化粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
13層	極暗赤黒色土	ローム粒・焼土粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
14層	黒灰色土	粘土粒・焼土粒(φ2～6mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
15層	暗黒色土	ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量、粘土粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
16層	にぶい橙色土	粘土主体層、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性大変弱強、粘性やや強い、しまりやや強い。
17層	にぶい赤黒色土	焼土粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
18層	暗赤黒色土	焼土粒(φ2～6mm)を微量、焼土ブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性弱い、しまりやや強い。
19層	赤黒色土	粘土ブロック(φ10～30mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ6～20mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや強い。
20層	にぶい赤黒色土	粘土粒・ブロック(φ2～20mm)・焼土粒・ブロック(φ4～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
21層	極暗赤黒色土	ローム粒(φ2～6mm)を少量、粘土粒(φ1～6mm)・焼土粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
22層	にぶい橙色土	粘土粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ1～15mm)をやや多く含む。焼内層、粘性弱い、しまり強い。
23層	にぶい赤黒色土	粘土粒(φ2～6mm)を微量、焼土粒(φ2～8mm)を少量、炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや強い。
24層	黒灰色土	粘土粒(φ2～8mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
25層	明黒灰色土	粘土ブロック(φ10～20mm)をやや多く、焼土粒(φ2～6mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
26層	赤黒色土	カマド燃焼面、焼土主体層、炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性大、しまり強い。
27層	黄黒色土	ロームブロック(φ10～30mm)をやや多く、焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。KH臨床、KH1層、粘性やや強い、しまりやや強い。

第39図　83号住居跡カマド(1／30)

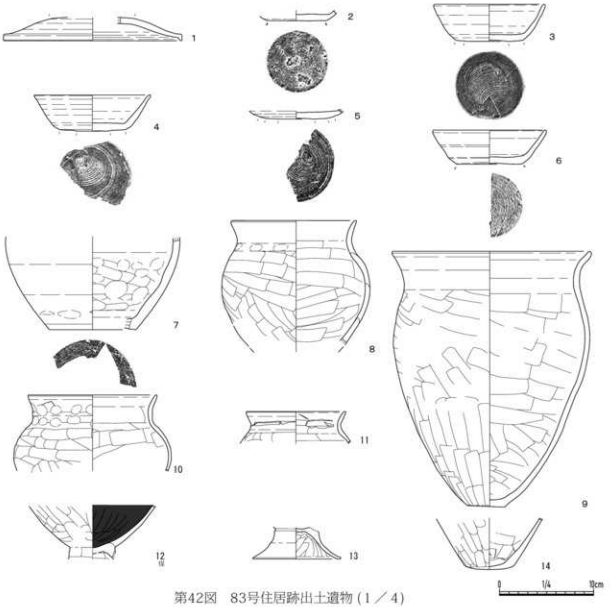




第40図　83号住居跡遺物出土状態(1／60・1／30)



第41図　83号住居跡カマド遺物出土状態（1／30）



第42図　83号住居跡出土遺物（1／4）

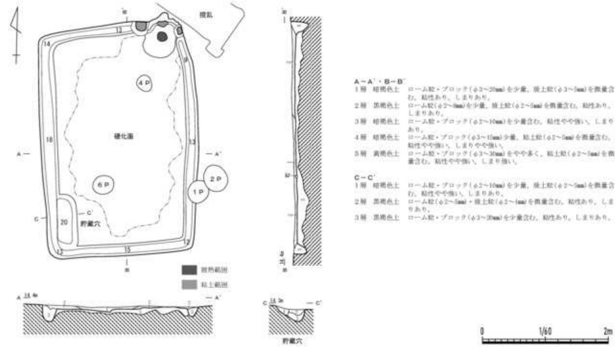
84号住居跡

遺　構（第43 〜 45図）

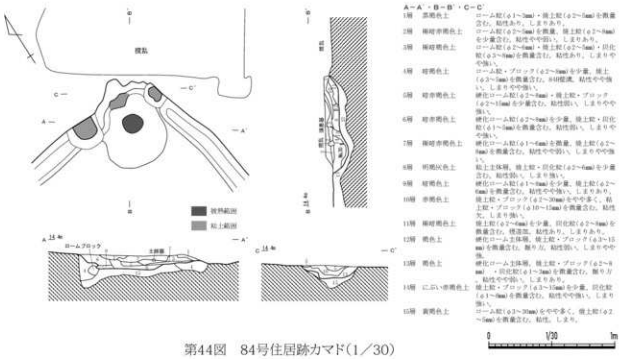
［位　　置］（M・N－６・７）グリッド

［検出状況］１区北西端で検出した。１Ｐに切られる。４・６Ｐは床下から検出。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸3.60m ／短軸2.50m ／深さ６㎝。**壁**：欠失していた。**主軸方位**：N－26°－E。**壁溝**：カマド以外全周し、東袖下に僅かに潜り込む。規模は上幅20 〜 25㎝／下幅10㎝前後／深さ９〜 18㎝。**床面**：貼床の厚さは９㎝前後である。**カマド**：北東コーナーに設けられてい



第43図　84号住居跡（1／60）



第44図　84号住居跡カマド（1／30）

た。規模は長軸75cm／短軸65cm／深さ18cm。**柱穴**：床面からは検出されなかったが、床下から４Ｐ、６Ｐの２本が検出された。**入り口施設**：検出されなかった。**貯蔵穴**：南西コーナーから西壁端に確認された。規模は長軸88cm／短軸32cm／深さ20cm。

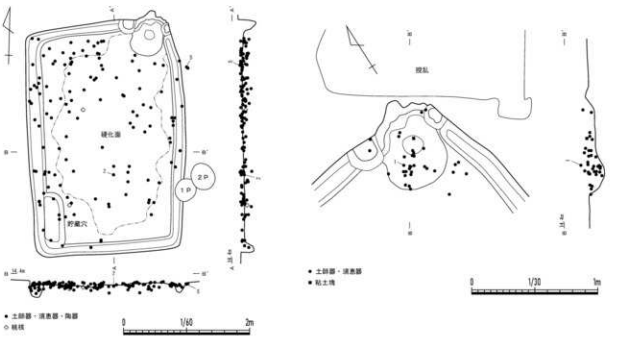
［**覆　　土**］黒褐色土と暗褐色土を主体とする４層に分層でき、自然堆積の様相を呈す。

［**遺　　物**］土師器片489点、須恵器38点、土製管玉１点、炭化種子２点、混入と思われる縄文土器２点が出土した。このうち、図示したのは６点である。

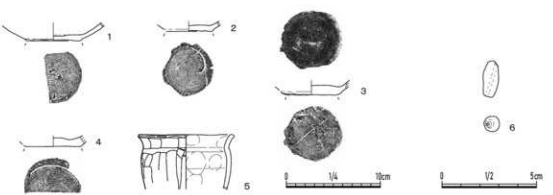
［**時　　期**］平安時代（10世紀）。

遺　物（第46図、図版17－２、第12表）

１～４は酸化炎焼成または酸化炎焼成気味の須恵器坏、５は小型の土師器甕、６は土製品で小型の土錘である。



第45図　84号住居跡遺物出土状態（1／60）・カマド遺物出土状態（1／30）



第46図　84号住居跡出土遺物（1／4・1／2）

85号住居跡

遺　　構（第47 ～ 52図）

［位　　置］（N・O－８・９）グリッド

［検出状況］２区北端で検出した。86Hを切り、東壁に数箇所の撹乱を受ける。

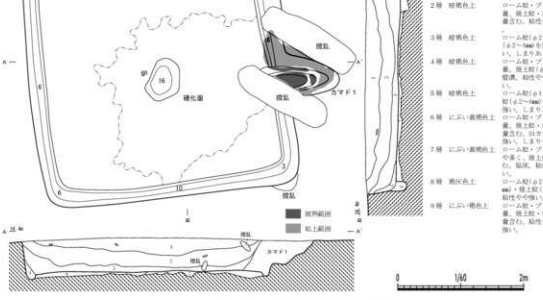
［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸4.10m／短軸3.90m／深さ54cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N－82°－W。**壁溝**：北カマド以外全周する。規模は上幅20 ～ 30cm／下幅10cm前後／深さ３～ 10cm。**床面**：貼床の厚さは６㎝前後である。**カマド**：２基確認され、袖の有無で新旧が想定される。北壁中央やや東寄りにカマド２が設けられ、袖が残る新カマドと想定した。規模は長軸115cm／短軸80cm／深さ56cm。東壁中央やや南寄りにカマド１が確認され、袖が残っていなかった為、古カマドと想定した。規模は、長軸90cm／短軸60cm／深さ67cm。**柱穴**：検出されなかった。**入り口施設**：検出されなかった。**炉**：床面中央に地床炉が検出された。規模は長軸70cm／短軸50cm／深さ16cm。

［覆　　土］黒褐色土を主体とする９層に分層でき、自然堆積の様相を呈する。

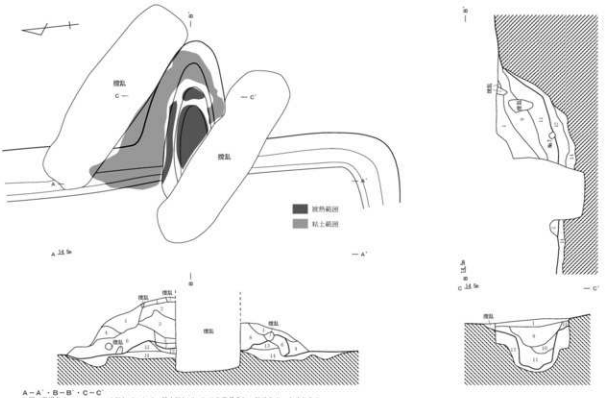
［遺　　物］土師器片1872点、須恵器247点、灰釉陶器２点、炭化種子１点、鉄製品２点、椀型滓１点、混入と思われる縄文土器５点、石器１点、陶磁器５点が出土した。このうち、図示したのは18点である。

［時　　期］平安時代（９世紀後葉から末葉）。

［所　　見］古相を示す４は貼床下から、３は覆土中層から出土し何れも９世紀中葉前後の様相を示す。土師器甕はカマド西袖付近床直と地床炉内との接合で14が、南西コーナー付近中層から15が出土し、いずれも広義のコの字口縁だが、14が古く、15は新しい。新相を示す、２・５は覆土中上層からの出土で９世紀末葉頃の様相を示す。カマドの造り替えが行われ、新相の遺物が覆土中上層からの出土であることを考慮し時期を想定した。なお、灰釉陶器の手付小瓶首部が中層から正位で出土したほか、灯



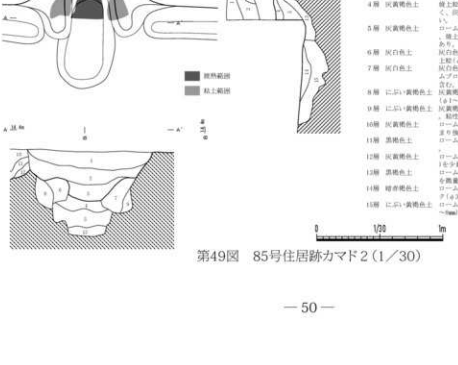
第47図　85号住居跡(1／60)



A－A'・B－B'・C－C'

1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～4mm)・焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　極暗褐色土　ローム粒(φ1～3mm)・粘土粒(φ2～5mm)・焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～2mm)・粘土粒(φ1～3mm)を少量、焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
4層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、粘土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
5層　褐灰色土　　粘土粒・ブロック(φ4～10mm)を少量、焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
6層　灰黄褐色土　粘土粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
7層　暗赤褐色土　明化ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
8層　暗赤褐色土　粘土粒(φ2～6mm)・焼土粒(φ1～6mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
9層　褐灰色土　　粘土粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
10層　灰褐色土　　粘土粒(φ1～6mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
11層　暗赤褐色土　明化ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量、焼土粒(φ2～6mm)・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
12層　赤褐色土　　焼焦層、焼土主体層、炭化粒(φ2～6mm)を少量含む。粘性大、しまり強い。
13層　極暗赤褐色土　明化ローム粒(φ2～6mm)・粘土粒(φ2～6mm)を少量、炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
14層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～20mm)をやや多く、焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘質。粘性やや強い、しまり強い。

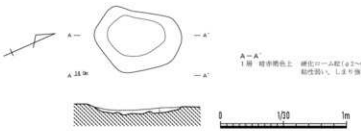
第48図　85号住居跡カマド１(１／30)



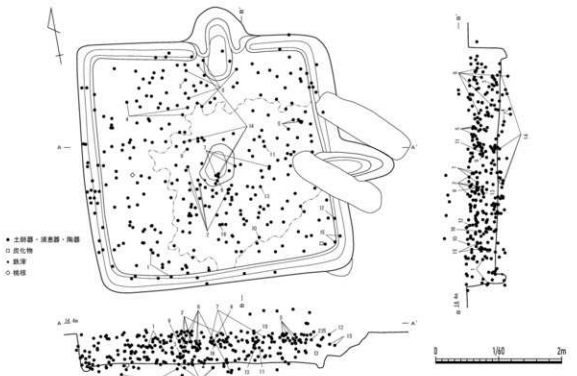
A－A'・B－B'

1層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～4mm)をやや多く、焼土粒(φ1～3mm)を少量含む。粘性あり、しまり強い。
2層　黒褐色土　　灰白色土(φ1～5mm)をやや多く、しみ状にローム土含む、1層より黒い。粘性あり、しまり強い。
3層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～3mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)・灰白色土(φ1～20mm)をやや多く含む。粘性あり、しまり強い。
4層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～5mm)を多量、灰白色土(φ1～10mm)をやや多く、炭化粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまり強い。
5層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～4mm)・ロームブロック(φ5～10mm)を少量、焼土粒(φ1～6mm)をやや多く含む。粘性あり、しまりあり。
6層　灰白色土　　灰白色土多量、ローム粒(φ1～2mm)をしみ状に多量、焼土粒(φ1～3mm)少量含む。粘性あり、しまり強い。
7層　灰白色土　　灰白色土(φ5～10mm)を多量、ローム粒(φ1～4mm)・ロームブロック(φ5～10mm)を少量、焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまり強い。
8層　にぶい黄褐色土　灰黄褐色土ベースローム多量混在粒(φ1～10mm)・焼土粒(φ1～3mm)少量含む。粘性あり、しまり強い。
9層　にぶい黄褐色土　灰黄褐色土ベースローム多量混在粒(φ1～5mm)少量含む。粘性あり、しまり強い。
10層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～3mm)均一にやや多く含む。粘性あり、しまり強い。
11層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～3mm)を少量含む。粘性あり、しまり強い。
12層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～4mm)を均一にやや多く、焼土粒(φ1～2mm)を少量含む。粘性あり、しまり強い。
13層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～5mm)・焼土粒・灰白粒(φ3～5mm)を微量含む。粘性あり、しまり強い。
14層　暗赤褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)をやや多量、焼土粒・ブロック(φ3～15mm)を微量含む。粘性強い、しまり強い。
15層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～30mm)をやや多く、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまり強い。

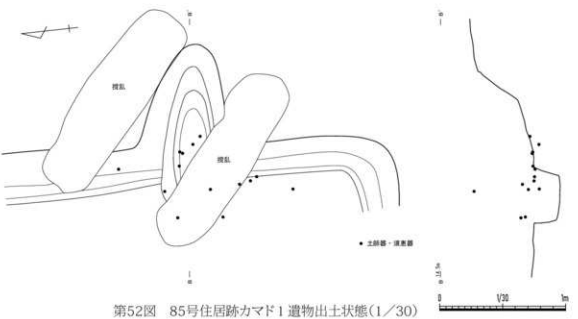
第49図　85号住居跡カマド２(１／30)



第50図　85号住居跡炉跡(1／30)



第51図　85号住居跡遺物出土状態(1／60)

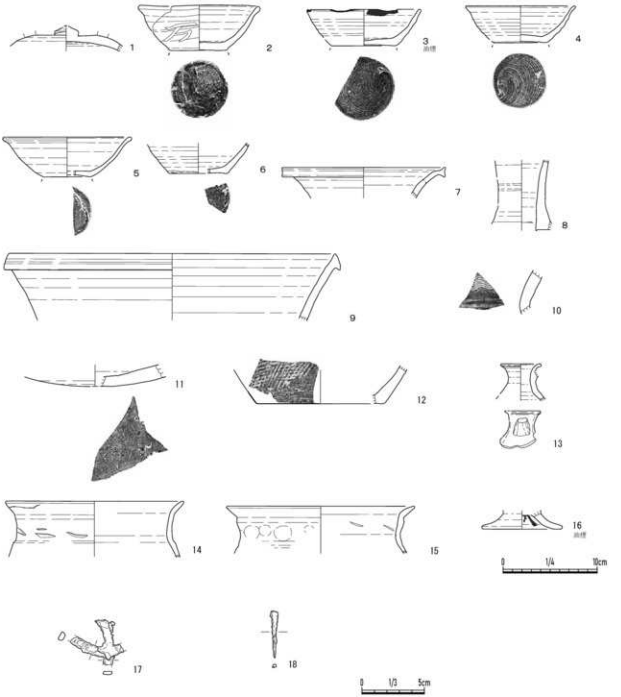


第52図　85号住居跡カマド１遺物出土状態(1／30)

明使用が想定される坏、墨書土器など覆土中上層から特徴的な遺物が出土している。後考を要する。また、床面中央には地床炉が検出されている。椀型滓が１点出土しているが、地床炉周辺に還元面や小鍛冶を伺わせる遺物もなく、その性格は不詳である。

遺　物（第53図、図版17－３・18－１、第13表）

１は須恵器蓋、２～６は須恵器坏、７・８は須恵器長頸瓶、９～12は須恵器大甕片である。２には「万」の墨書が、10には頸部上に櫛描波状文の一部が、11は丸底、12は平底となる。13は灰釉陶器の小型手付瓶の頸部、14・15は土師器甕、16は土師器の台付甕である。17・18は鉄製品である。



第53図　85号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

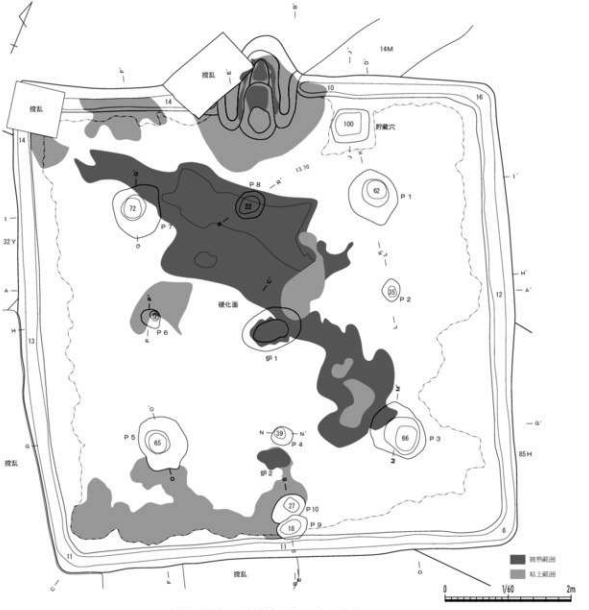
86号住居跡

遺　　構（第54～61図）

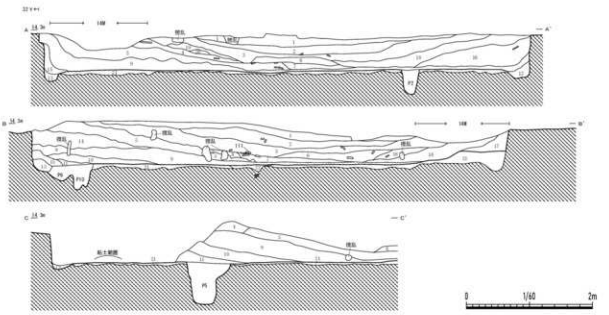
［位　　置］（L－８、M・N－７、L・M・N－８・９）グリッド

［検出状況］２区北東にて検出した。32Yを切り、85H、14M、308D、312Dに切られ、南西隅は近現代の撹乱を受ける。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸7.86m／短軸7.64m／深さ70cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N－25°－W。**壁溝**：カマドを除いて全周する。規模は上幅30cm前後／下幅15cm前後／深さ８～16cm。**床面**：貼床の厚さは４cm前後である。**カマド**：北壁中央に長軸167cm、短軸122cm、深さ56cmのカマドを検出。**炉１**：住居の中心に確認された。範囲は、長軸98cm／短軸53cm／深さ８cm。**炉２**：Ｐ４の南脇に粘土と焼土の分布を確認した。範囲は長軸／55cm、短軸35cm／深さ４cm。**貯蔵穴**：カマドの東脇で確認。範囲は、長軸70cm／短軸55cm／深さ101cm。**柱穴**：ピットが８本（主柱穴４本、補助柱４本）確認された。炉１を中心に住居コーナー対角線上に主柱穴４本をおき、各主柱穴を辺で結んだ



第54図　86号住居跡１（1／60）



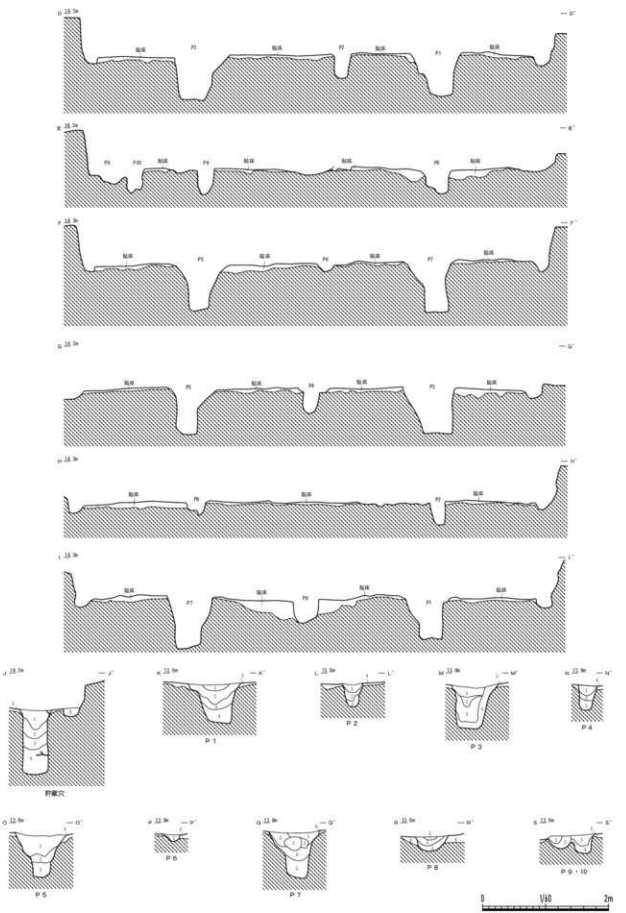
第55図　86号住居跡２(１／60)

間に補助柱穴４本を配する整った構成となる。深さは、主柱穴が62～72cm、支柱穴が９～35cmである。**入口施設**：南壁中央の壁際に重複ぎみに２本の出入口ピットが検出された。深さはＰ９が18cm、Ｐ10が27cm。

［**覆　　土**］覆土は22層に分層できた。上層（１・２層）は黒褐色土を主体とする自然堆積土で、中～下層（３～11層）は、粘土層、焼土層、ロームブロック層を含む人為的な堆積土（第56図、図版８－５・９－２）であった。この堆積土は、西壁から南コーナーを挟んだ南壁方向から人為的に埋め戻されたと想定され、当該土層北東側の中位から裾にかけて東西方向に不定に広がる焼土・粘土層がその上に被っている状況であった。炭化種子（モモ・スモモ）が260点余り、出土遺物の総点数も8000点を超えることから覆土形成過程に特異な状況が想定される。

［**遺　　物**］大量の遺物が出土し、完形品を含め混入した時代の資料も合わせた総破片点数は、8989点にのぼった。この内、住居に伴う遺物には土師器坏、高坏、鉢、甕、須恵器蓋、土製支脚、土製紡錘車、土製の装飾品類、ガラス小玉、穿孔貝巣穴跡軟質泥岩、磨石、鉄製品、鉄滓、炭化種子などがあり、図示したのは62点である。炭化種子については、［付編］自然科学分析を参照いただきたい。

出土状況は、床直とその周辺の遺物を除けば前述の３～11層を中心とする一括埋め土の中には遺物は少ない傾向で、埋め土の後に廃棄されたものが大部分である。その状況は第55図下段の埋め土のセクション図、そして遺物の平面分布と垂直分布を示した第61図に記録されている。また、炭化種子の大量出土も、この住居の特殊な埋没過程のあり方を考える時、極めて示唆的である。



第56図　86号住居跡3・貯蔵穴・ピット(1／60)

J－J′（貯蔵穴）
1層　極暗褐色土　ローム粒(φ1～4mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
5層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層粘性やや強い。しまり強い。
6層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ3～5mm)を少量、ロームブロック(φ10～20mm)をやや多く含む。壁溝。86H3層。粘性やや強い。しまり強い。

K－K′（P１）
1層　極暗褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒(φ1～8mm)・炭化粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量、焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～40mm)をやや多く含む。粘性やや強い。しまりあり。
5層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

L－L′（P２）
1層　褐灰色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～20mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

M－M′（P３）
1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～40mm)を少量、粘土粒・ブロック(φ3～30mm)・焼土粒・ブロック(φ2～30mm)・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
2層　極暗褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ6～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～60mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
5層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

N－N′（P４）
1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～30mm)を少量、粘土粒・焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ4～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～20mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

O－O′（P５）
1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～100mm)を少量、焼土粒・粘土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～9mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～30mm)を少量を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
4層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

P－P′（P６）
1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
2層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

Q－Q′（P７）
1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ3～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。均質土。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～60mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～60mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
6層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

R－R′（P８）
1層　極暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

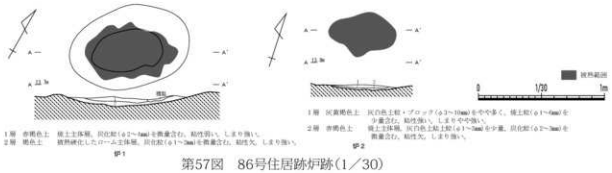
S－S′（P９・10）
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、粘土粒・焼土粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒・粘土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2～8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10～50mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
5層　黄褐色土　ハードローム主体層。ソフトローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。貼床。86H21層。粘性やや強い。しまり強い。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀後葉）。

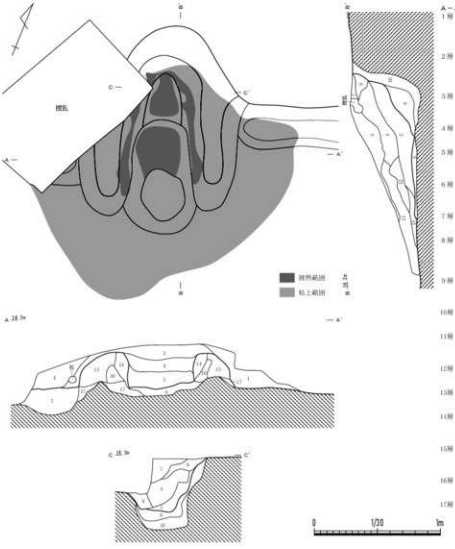
［所　　見］当86Hと88Hは確認面レベルで最短50cmの距離を隔てるのみで、88Hのカマドは先端を攪乱で失うが86Hの西壁に向かっており、概ね100cm前後の距離となっている。上屋構造の想定は、ここではできないが一般的に周堤又は軒先が接してしまうような距離と思われる。両住居の覆土内の遺物からは双方が併存した可能性もあるが、その位置関係からは一考を要する。第４章まとめにて若干の分析を試みたい。

遺　　物（第62～66図、図版18－２・19～21、第14表）

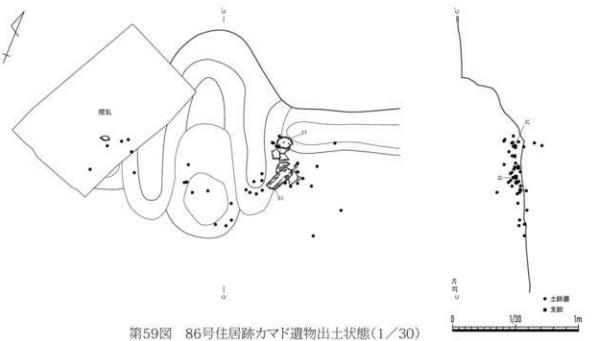
１は湖西産Ⅳ－１後期の須恵器坏蓋、２～27・29は土師器坏、28は土師器高坏、30は土師器鉢である。31は小形の土師器甕で、胴部の傾きに不安定要素をもつが、器形や器壁厚から85Hに伴う遺物の可能性がある。32～47は土師器甕、48は土師器甑である。49～51は土製支脚、52～54は土玉、55・56は勾玉形土製品で、57は形状から垂飾であろうか。59はいわゆる穿孔貝巣穴跡軟質泥岩、60～62は石製品で磨石、63は鉄製品で鏃である。



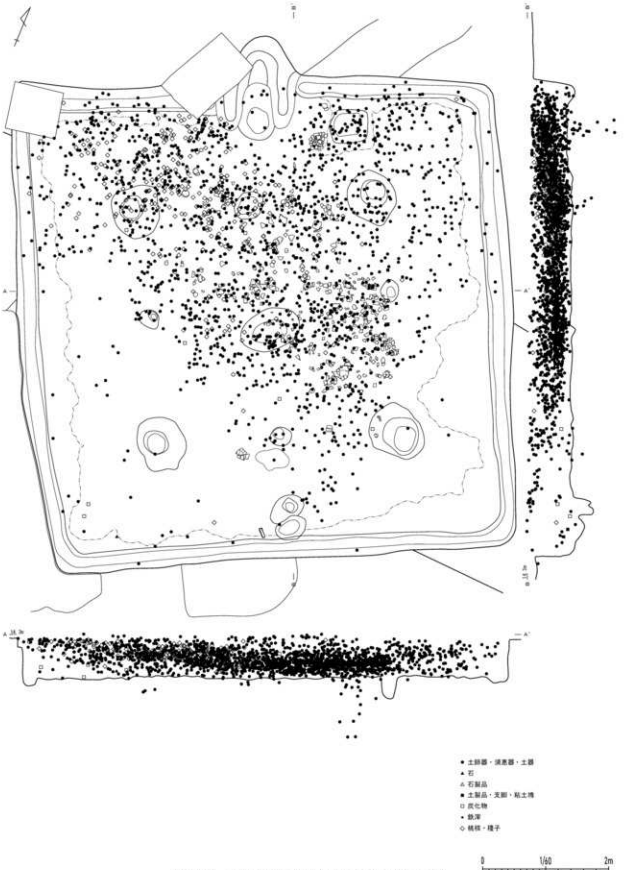
第57図　86号住居跡炉跡（1／30）



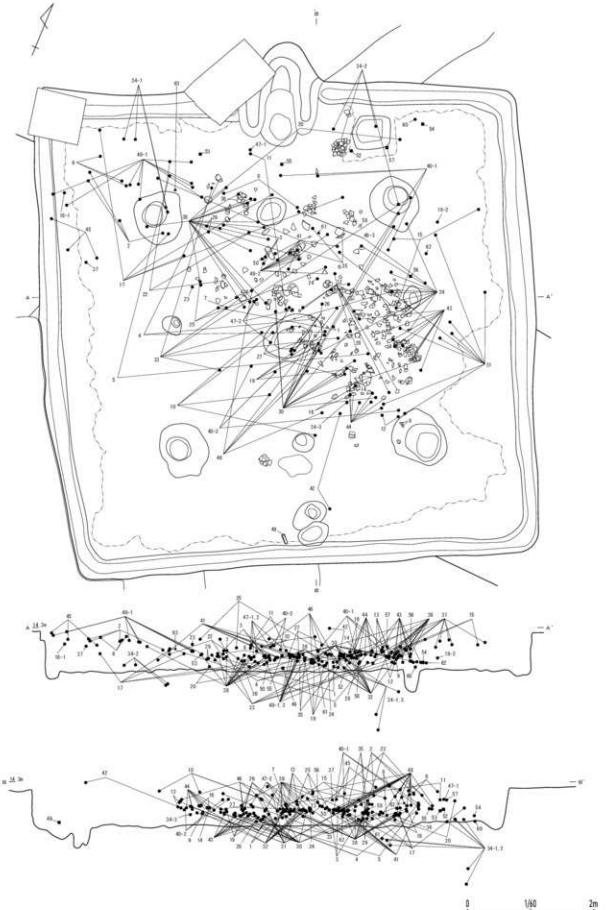
第58図　86号住居跡カマド(1／30)



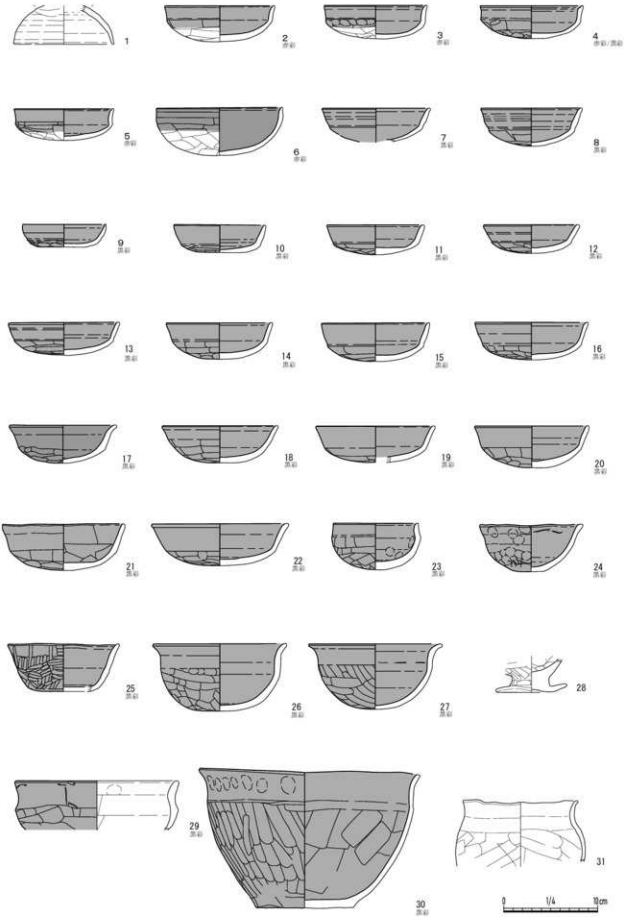
第59図　86号住居跡カマド遺物出土状態(1／30)



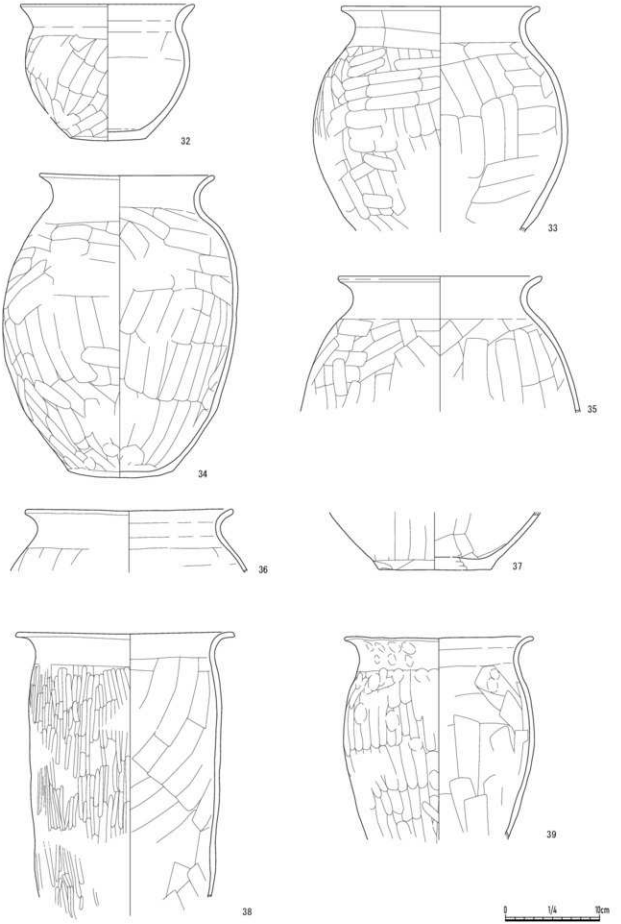
第60図　86号住居跡遺物出土状態１(１／60)



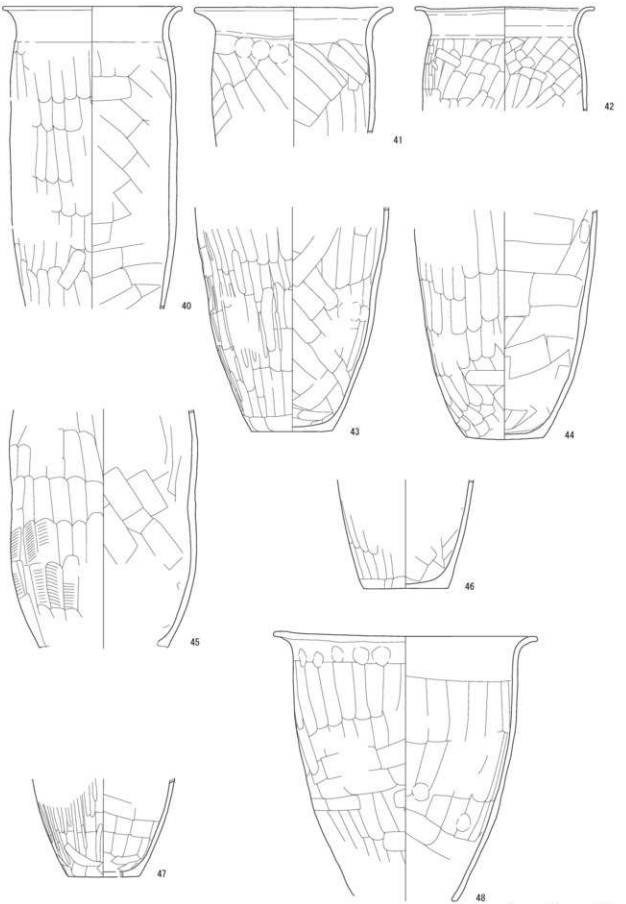
第61図　86号住居跡遺物出土状態２（1／60）



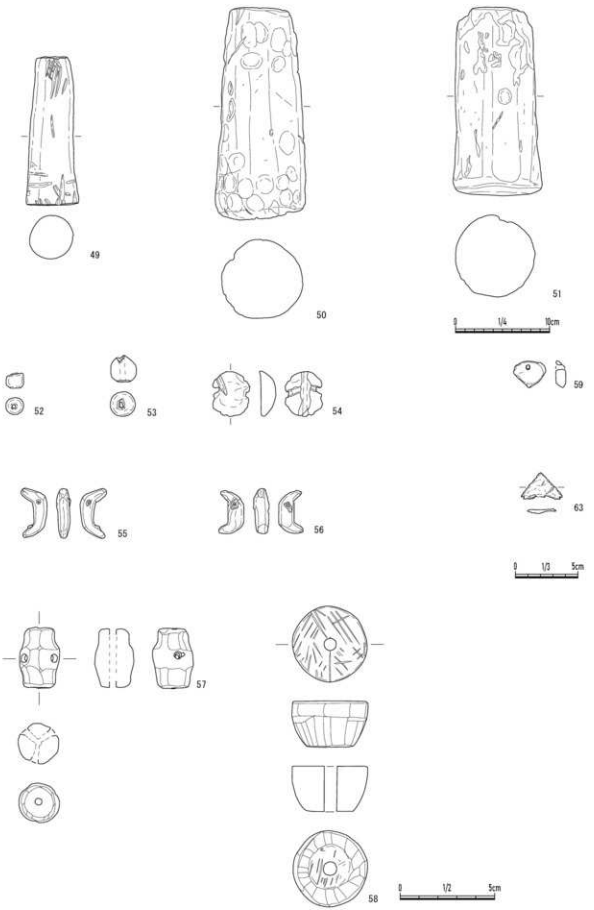
第62図　86号住居跡出土遺物１(１／４)



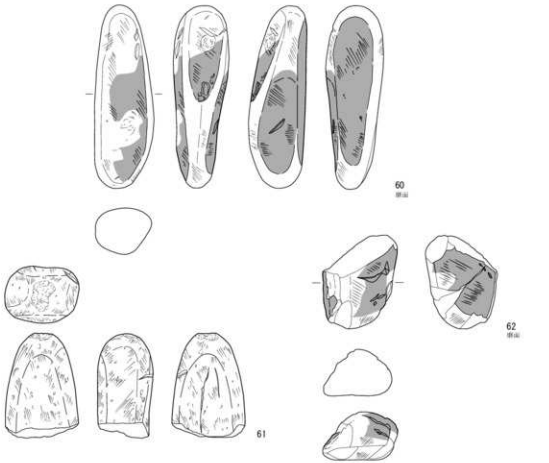
第63図　86号住居跡出土遺物２(１／４)



第64図　86号住居跡出土遺物３(１／４)



第65図　86号住居跡出土遺物４(１／４・１／３・１／２)



第66図　86号住居跡出土遺物５(１／３)

87号住居跡

遺　　構（第67・68図）

［位　　置］（J・K－11）グリッド

［検出状況］２区南西端で検出した。東南コーナー付近とカマドの一部が調査され、以外は西側調査区外となる。17Mと50Pに切られる。

［構　　造］**平面形：**不明。東南コーナーのみ検出。**規模：**不明。南壁検出長1.30m／東壁検出長0.90m／深さ36cm。**壁：**確認部分では75°で立ち上がる。**主軸方位：**N－42°－E。**壁溝：**調査部分では確認された。規模は上幅20～25cm／下幅10cm／深さ５cm。**床面：**貼床の厚さは５～７cm。**カマド：**調査できたのは全体の半分以下で、残りは北西調査区外となる。規模は不明。確認できた深さ56cm。**柱穴・入り口施設：**調査できた中では検出されなかった。

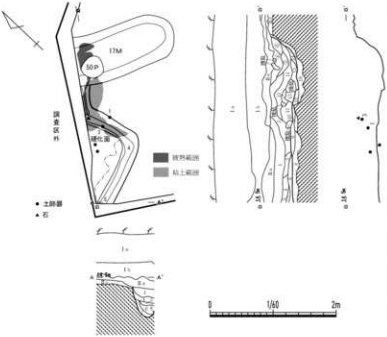
［覆　　土］16層に分層でき、上層は焼土・炭化物を含んだ褐灰色土と黒褐色土、中～下層は黒褐色土と暗褐色土を主体とる。

［遺　　物］須恵器１点、土師器及び土師質土器片22点ほか、混入と思われる緑泥石片岩製剥片１点が出土した。このうち、図示したのは３点である。

［時　　期］平安時代（８世紀後葉～９世紀前葉）。

遺　　物（第69図、図版22－１、第15表）

１・２は須恵器坏で、２はいわゆる内黒坏。底部は周辺ヘラ削り調整される。３は土師器台付甕の脚部付近の資料である。



A－A'・B－B'

1層　黒灰色土　ローム粒(φ1~3mm)・焼土粒(φ1~4mm)・炭化粒(φ1~2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

2層　褐灰色土　ローム粒(φ1~5mm)・粘土粒(φ1~3mm)・焼土粒・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

3層　黒褐色土　砂質のローム及びローム粒(φ1~6mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1~4mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

4層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ2~35mm)を少量、焼土粒(φ2~3mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

5層　黒褐色土　ローム粒(φ2~8mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

6層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~15mm)を少量含む。炭化粒(φ1~3mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

7層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量含む。焼礫、粘性やや強い。しまりやや強い。

8層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1~8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10~40mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む。粘質、粘性やや強い。しまりやや強い。

9層　黄褐色土　ハードローム土体層。焼土粒・粘土粒(φ2~8mm)を少量含む。カマド崩壊。粘性やや強い。しまり強い。

10層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2~8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10~30mm)を少量含む。焼礫、粘性やや強い。しまりやや強い。

11層　褐灰色土　ローム粒(φ1~3mm)を微量、粘土粒(φ2~8mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

12層　明褐灰色土　粘土主体層。焼土粒・ブロック(φ2~15mm)・炭化粒(φ2~5mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

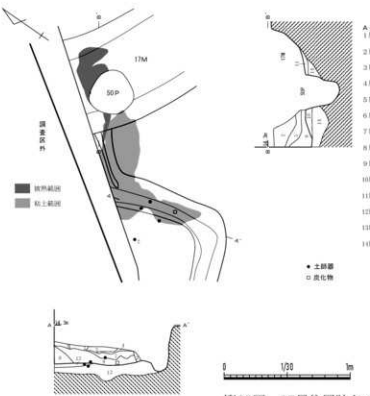
13層　にぶい赤褐色土　粘土粒(φ2~5mm)を微量焼土粒・ブロック(φ2~20mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

14層　赤褐色土　焼土主体層。焼熱硬化したローム粒・ブロック(φ1~15mm)を少量含む。焼土先端部。粘性強。しまり強い。

15層　褐灰色土　粘土粒・ブロック(φ2~15mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ2~15mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

16層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1~8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10~30mm)を少量、炭化粒(φ2~6mm)を微量含む。カマド崩壊。粘性やや強い。しまりやや強い。

第67図　87号住居跡(1／60)



A－A'・B－B'

1層　灰褐色土　粘土粒・ブロック(φ1~10mm)をやや多く、焼土粒・炭化粒(φ2~5mm)を少量含む。粘性あり。しまりやや強い。

2層　褐灰色土　ローム粒(φ1~3mm)を微量、粘土粒(φ2~8mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ2~15mm)を少量、粘土粒(φ1~6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

4層　灰褐色土　粘土粒・ブロック(φ2~20mm)をやや多く、焼土粒・炭化粒(φ2~5mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

5層　明褐灰色土　ローム粒(φ2~6mm)・焼土粒・炭化粒(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

6層　灰褐色土　粘土主体層。粘土粒・ブロック(φ2~15mm)・炭化粒(φ2~6mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

7層　褐灰色土　粘土粒・ブロック(φ2~15mm)・焼土粒・炭化粒(φ1~4mm)を少量含む。粘性あり。しまりやや強い。

8層　灰褐色土　粘土粒(φ2~5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1~6mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

9層　灰褐色土　粘土粒(φ1~6mm)を少量、焼土粒(φ2~5mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

10層　にぶい赤褐色土　粘土粒(φ2~5mm)を微量焼土粒・ブロック(φ2~30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

11層　明赤褐色土　焼土主体層。粘土粒(φ1~3mm)を微量含む。粘性大。しまり強い。

12層　黄褐色土　ハードローム主体層。焼土粒・粘土粒(φ2~8mm)を少量含む。カマド下層崩。粘性やや強い。しまり強い。

13層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2~5mm)をやや多く、ロームブロック(φ10~30mm)を少量含む。焼礫。粘性やや強い。しまりやや強い。

14層　黄褐色土　ソフトローム主体層。ハードロームブロック(φ10~20mm)を少量、焼土粒(φ2~5mm)を微量含む。粘性やや強い。しまり強い。

第68図　87号住居跡カマド(1／30)

第69図　87号住居跡出土遺物(1／4)

88号住居跡

遺　構（第70 ～ 78図）

［位　置］（L・M－９、L・M・N－10・11）グリッド

［検出状況］２区南西寄りに検出した。309 ～ 311D、14Mに切られ、カマド北端付近に攪乱を受ける。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸9.30m（張出含む）／短軸8.20m／深さ76cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N－10°－W。**壁溝**：カマドを除いて全周し、張出部は壁溝を埋め掘り直したものである。規模は上幅30cm／下幅15cm／深さ10 ～ 20cm。**床面**：貼床の厚さは２～６cmである。**カマド**：北壁中央に現況確認長軸120cm／現況確認短軸120cm／深さ68cmのカマドを検出。北側煙道部は攪乱を受け未検出。**炉**：住居の中心に確認された地床炉。範囲は、長軸72cm／短軸65cm／深さ５cm。**貯蔵穴**：カマドの東脇で確認。範囲は、長軸87cm／短軸27cm／深さ88cm。**柱穴**：ピットが11本（うち主柱穴４本、補助柱４本）確認された。地床炉を中心に住居コーナー対角線上に主柱穴４基をおき、各主柱穴を辺で結んだ間に補助柱穴４基を配する整った構成となる。深さは主柱穴が62 ～ 94cm、支柱穴が25 ～ 38cmである。**入口施設**：南壁中央の壁際に出入口ピットＰ４が、張出部の両基部にＰ10、Ｐ11が検出された。当初の入り口施設がＰ４により構成され、張出部分は壁溝を埋め拡張して作り直したものである。張出部の平面形状は、隅丸の台形状で長辺両基部にＰ10、Ｐ11を設ける。住居床面と同一面で構築されていた。規模は長辺3.00m／短辺1.20m／長辺短辺間の長さ1.40m。

［覆　土］覆土は黒色土を中心とする18層に分層できた。概ね自然堆積の様相を呈するが、古墳時代後期の当住居の覆土中には一定量の平安時代の遺物が含まれていた。垂直分布を確認したところ覆土の１・２層にほぼ重なることが判明し、住居廃絶後の埋没状況を示す。

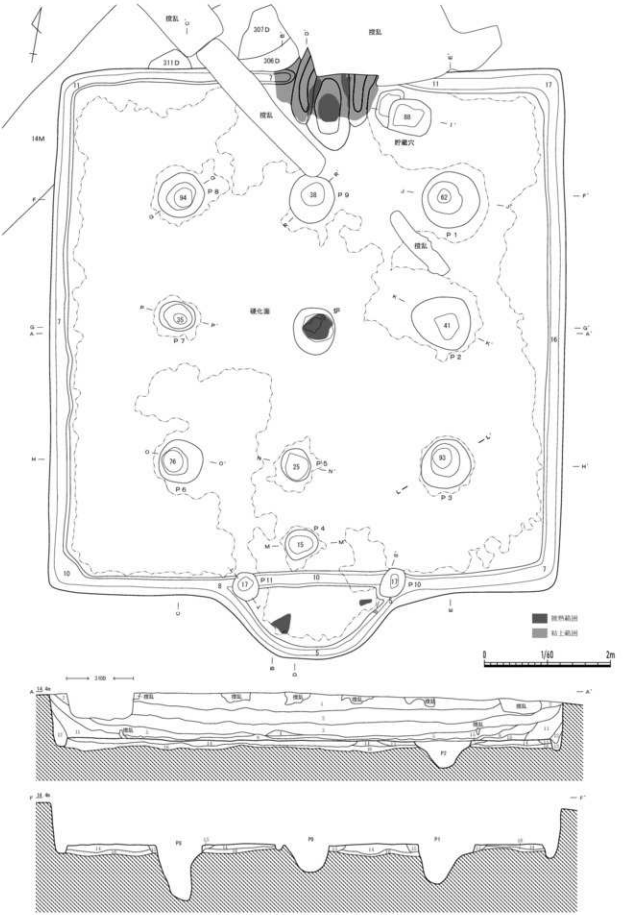
［遺　物］大量の遺物が出土し、完形品及び混入遺物も含め総破片点数は3508点であった。住居に伴う遺物は、須恵器坏蓋、土師器坏、高坏、壺、甕、丸玉、土玉があり、住居跡埋没最終段階に当る平安時代の遺物には須恵器蓋、坏、高台椀、小形長頸壺、甕、灰釉陶器があった。その他に鉄製品として釘と石製紡錘車が出土している。また、椀型滓が１点出土している。図示したのは45点である。

［時　期］古墳時代後期（７世紀末葉）。

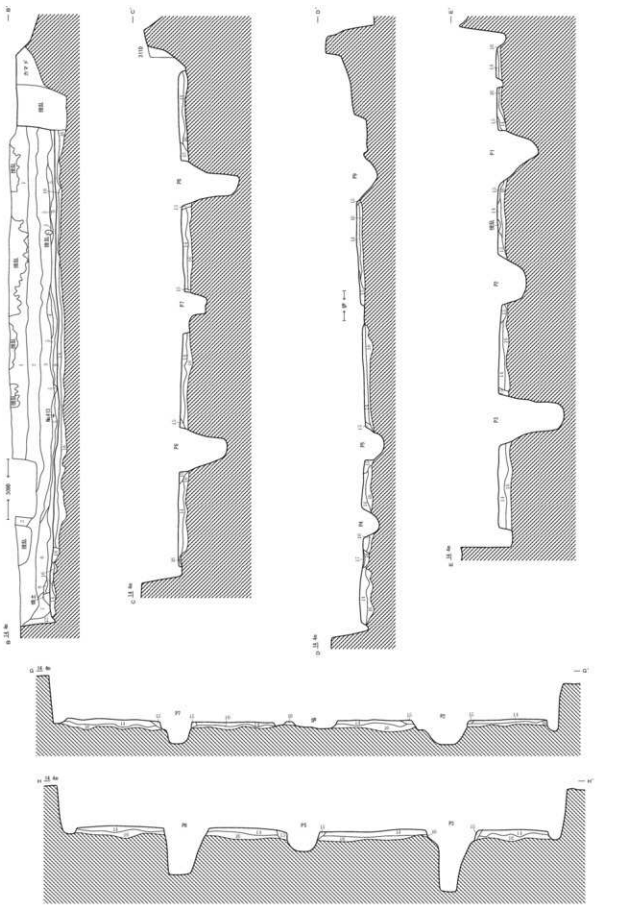
［所　見］古墳時代後期で、拡張後の最終段階ではあるがカマドの正対面に隅丸台形の張出部による入口施設を敷設した竪穴住居跡が確認されたのは、本市では初めてである。市内の調査では、調査地点の関係で完掘に至らない例も多く今後の調査動向に注目したい。また、当住居と76・86Hに共通して床面中央に地床炉を検出している。いずれの遺構も浅く皿状に掘りくぼめただけで被熱により硬化した燃焼面または焼土層をもつのみである。僅かに椀型滓が出土するも積極的に鍛冶を伺わせるような状況は確認できず、現状ではその可能性は低い。性格は不明で課題としておきたい。

遺　物（第79 ～ 80図、図版22－２・23・24－１、第16表）

１～３は湖西産Ⅳ－２期須恵器坏蓋、４～11は土師器坏、12は土師器高坏、13は比企型と同様に赤い胎土で赤彩（器面が荒れて内面以外剥離）された土師器の小形壺、14 ～ 26は土師器の甕で19と21はカマドの袖芯に使用されていたものである（第79図、図版10－６～８）。43はやや大きい土玉、44は石製丸玉、45は滑石製の紡錘車で、南西コーナーやや西寄りで床面から10cm程度浮いて出土した。27 ～ 42は平安時代の遺物である。27は須恵器蓋、28 ～ 38は須恵器坏、39は灰釉陶器の碗、40は須恵器高台碗、41は小形の長頸壺の頸部、42は甕の口縁部である。46は鉄製品の角釘であるが、住居内の攪乱からの一括遺物で帰属時期は不詳である。



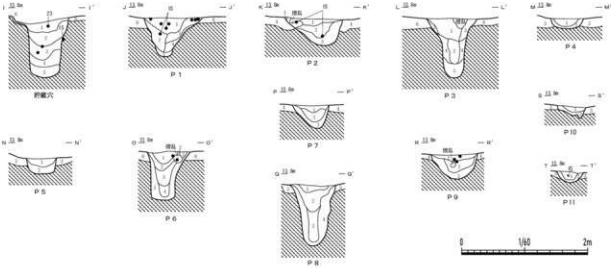
第70図　88号住居跡１(１／60)



第71図　88号住居跡２(1／60)

A－A′・B－B′・C－C′・D－D′・E－E′・F－F′・G－G′・H－H′

1層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～3mm)・焼土粒・炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗赤色土　　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。粘質土、粘性あり、しまりあり。
3層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)・焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐褐色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量、焼土粒(φ2～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
5層　黒赤土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)をやや多く含む。炭化粒・ブロック(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
6層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～5mm)・焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
7層　暗赤色土　　ローム粒・ブロック(φ2～5mm)・焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
8層　暗褐色土　　焼土粒・ブロック(φ2～10mm)を少量、炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
9層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量、焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
10層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
11層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒を微量含む。ごみ堆積。粘性やや強い、しまりやや強い。
12層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。焼質、粘性やや強い、しまりやや強い。
13層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～25mm)をやや多く含む。焼質、粘性やや強い、しまりやや強い。
14層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードローム粒ブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘質、粘性やや強い、しまりやや強い。
15層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。ピット埋土。粘性やや強い、しまりやや強い。
16層　明黄褐色土　　ハードローム粒ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒(φ2～3mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
17層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～5mm)を微量含む。白礫層上層。粘性やや強い、しまり強い。
18層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～5mm)を少量含む。白礫層下層。粘性やや強い、しまりやや強い。



I－I′（貯蔵穴）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～3mm)・粘土粒(φ1～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
4層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
6層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

J－J′（P1）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～6mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
4層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ4～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや強い。
6層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層粘性やや強い、しまり強い。

K－K′（P2）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～6mm)・焼土粒(φ3～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
4層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

L－L′（P3）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～6mm)・焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ15～40mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
6層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層粘性やや強い、しまり強い。

M－M′（P4）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ6～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
3層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

N－N′（P5）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
3層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

O－O′（P6）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～3mm)・焼土粒(φ2mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒(φ2～4mm)を少量、ロームブロック(φ20～25mm)・焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ3～30mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
4層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ6～20mm)を少量含む粘性やや強い、しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ15～40mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
6層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

P－P′（P7）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)・炭化粒(φ2～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。

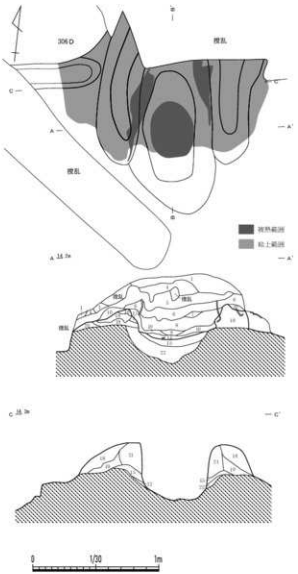
Q－Q′（P8）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～3mm)・焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒(φ2～4mm)を少量含む焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ3～30mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
5層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

R－R′（P9）
1層　黒褐色土　　ローム粒(φ2～5mm)・焼土粒(φ2～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒(φ3～6mm)・炭化粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
4層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

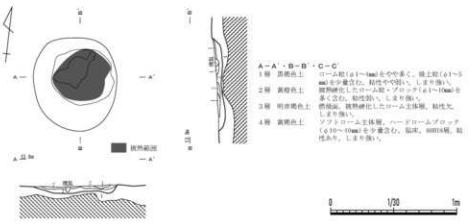
S－S′（P10）
1層　暗褐色土　　ローム粒・焼土粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ3～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層粘性、やや強い、しまり強い。

T－T′（P11）
1層　暗褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)を少量、ロームブロック(φ20～40mm)・焼土粒・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
3層　黄褐色土　　ソフトローム主体層、ハードロームブロック(φ10～40mm)を少量含む。粘質、80H10層、粘性やや強い、しまり強い。

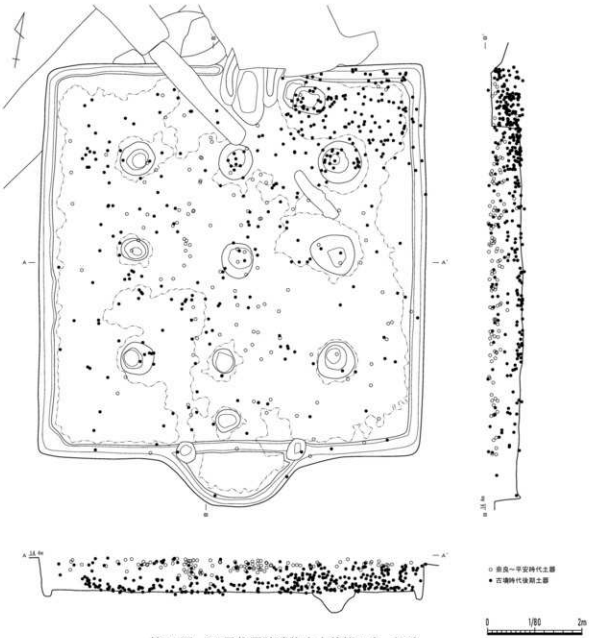
第72図　88号住居跡3（1／60）



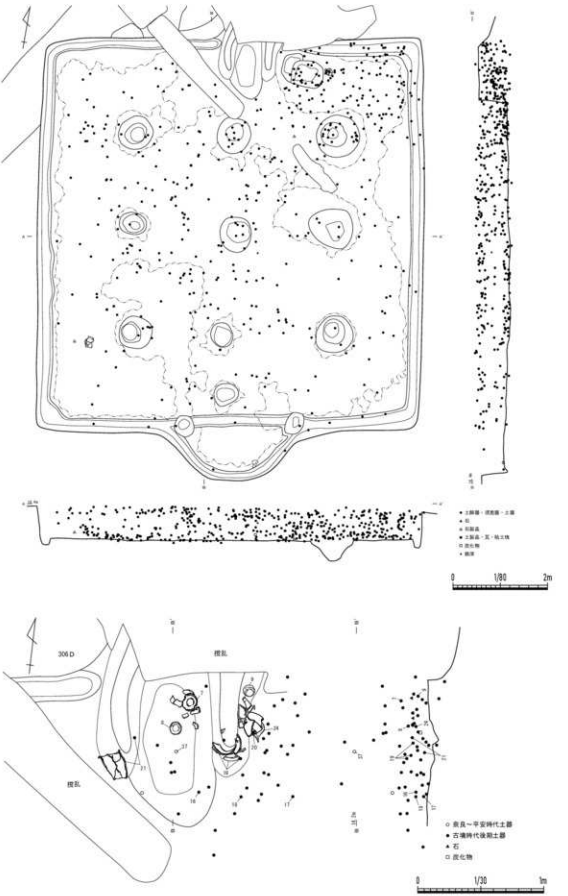
第73図　88号住居跡カマド(1／30)



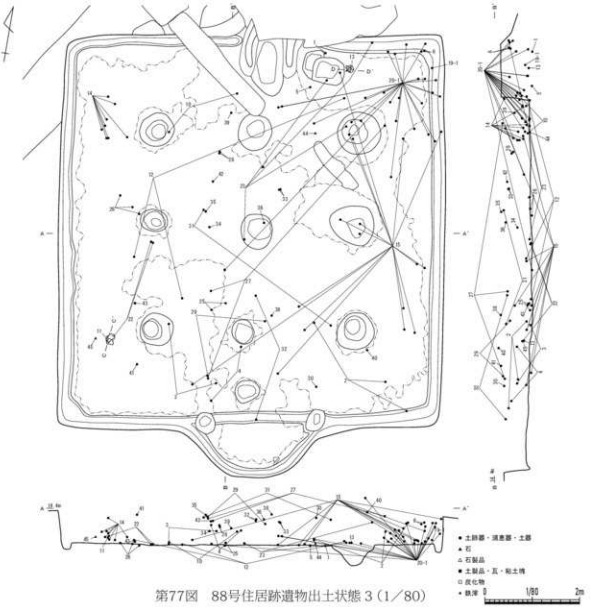
第74図　88号住居跡炉跡(1／30)



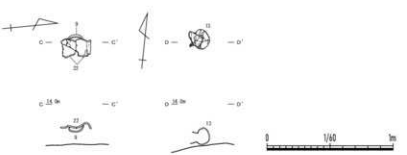
第75図　88号住居跡遺物出土状態１(１／80)



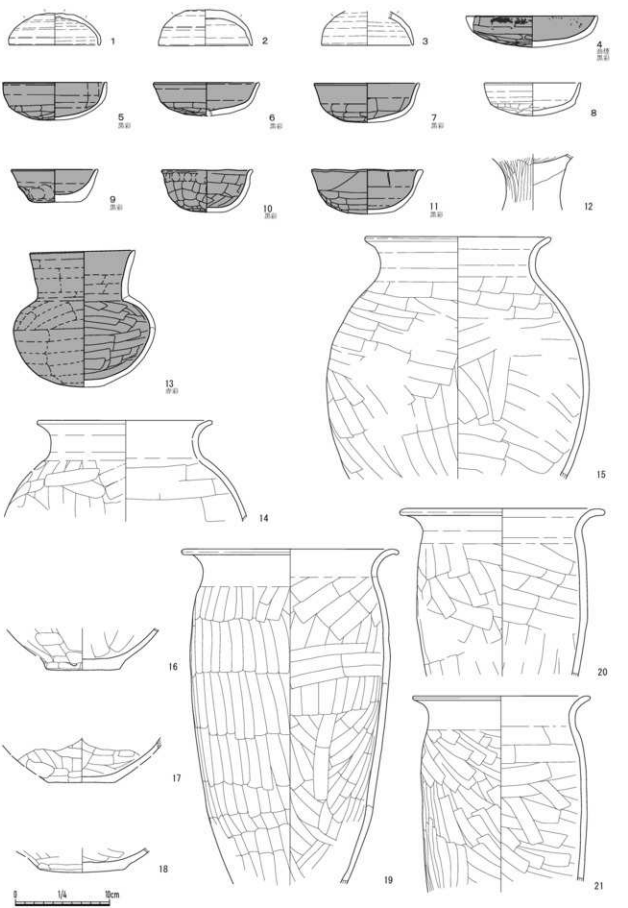
第76図　88号住居跡遺物出土状態２(１／80)・カマド遺物出土状態(１／30)



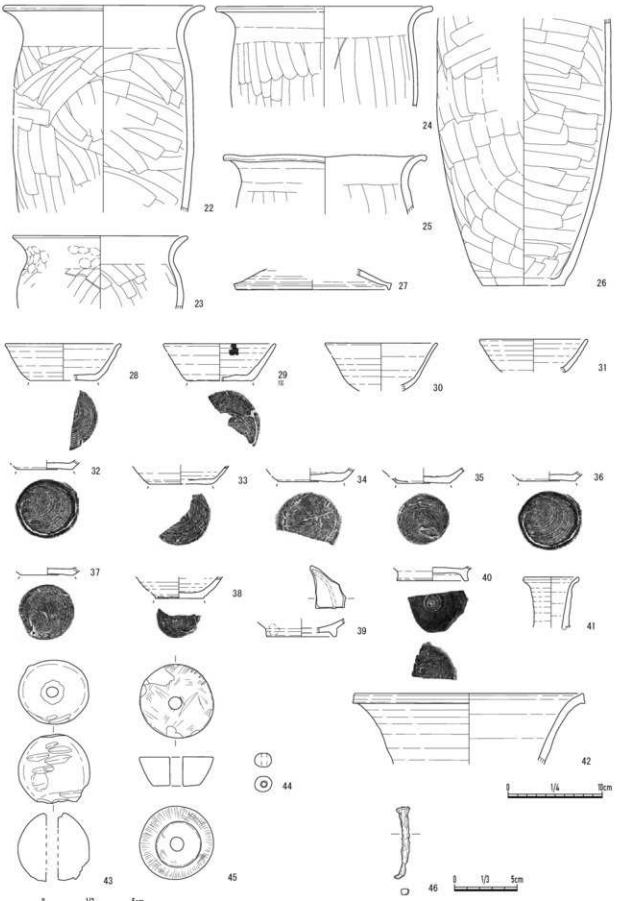
第77図　88号住居跡遺物出土状態３（1／80）



第78図　88号住居跡遺物出土状態４（1／60）



第79図　88号住居跡出土遺物１(１／４)



第80図　88号住居跡出土遺物２(１／４・１／３・１／２)

（３）掘立柱建築遺構

本遺構は調査段階では不詳であったが、整理段階において判明し設定したものである。

６号掘立柱建築遺構

遺　　構（第81図）

［位　　置］（Ｏ・Ｐ－８、Ｐ－９）グリッド

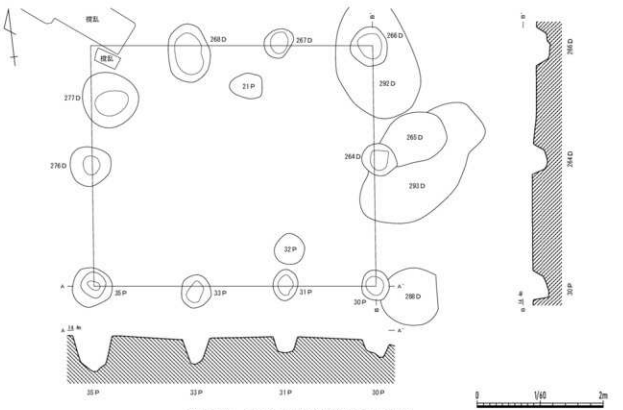
［建物構造］北西隅柱を欠き、梁行き２間で、桁行き３間の東西棟と推定される。構成する柱穴は30・31・33・35Ｐと264・266 ～ 268・276Ｄで、平面規模は268Ｄ以外50 ～ 60㎝の略円形を基調として比較的揃っている。

［覆　　土］いずれの覆土も平安時代又は平安時代以降の黒褐色土を主体としたものである。柱痕状の立ち上りや、柱の設置を反映したものか下方に逆凸形で分層できる覆土がそれぞれのピット、土坑に認められた。

［遺　　物］すべての柱穴を合わせて地点上げ遺物、一括遺物合わせて15点が出土した。３点の古墳時代後期の土師器片が混入する以外は、平安時代の土師器片、須恵器片であった。いずれも小片であるため不掲載。

［時　　期］平安時代。

［所　　見］81・83・85Ｈに囲まれた中のやや東寄りに、それら住居の主軸と柱筋を合わせて存在する。北西隅の柱を欠くが、梁行3.80m、桁行4.46mの２×３間に復元されよう。北西隅柱を欠き、柱間も不揃いな部分もあり小屋的な性格か、或は北西を北入口とする列柱による方形の区画の可能性もあるかもしれない。32Ｐと277Ｄもこの建物に関係する遺構の可能性がある。



第81図　６号掘立柱建築遺構（1／60）

（４）土坑

古墳時代後期と認識される土坑は検出されなかった。平安時代の土坑４基、平安時代以降の土坑39基が検出された。その内で調査時には確認できなかったが、平面図と土層、写真を検討した結果、81・83・85Hに囲まれた中に掘立柱建築遺構（264・266 ～ 268・276D、30・31・33・35Ｐより構成）が確認できた（前項掘立柱建築遺構を参照）。

252号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（Q－８）グリッド。76Hを切る。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁は段をもち、南壁は外反して立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸140㎝／短軸95㎝／深さ47㎝。**主軸方位**：N－20°－W。

［覆　　土］４層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物40点と地点上げ遺物９点として、弥生時代末～平安時代の遺物が出土。特に、76Hを切るため定量の古墳時代後期の遺物が混入。その内、図示したのは平安時代の内黒土器１点である。

［時　　期］出土遺物と覆土の観察により平安時代と想定される。

遺　　物（第86図、図版24－２－１、第18表）

１は酸化炎焼成の須恵器坏。口縁～体部中位付近の小片である。内面は黒色研磨されている。胎土に白色針状物質を含まない。口唇に油煙痕があり、灯明として使用か。

253号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（R－７）グリッド。76Hを切る。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形。**断面形**：北壁は70°で南壁は段をもって立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸142㎝／短軸120㎝／深さ33㎝。**主軸方位**：N－56°－W。

［覆　　土］４層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物９点と地点上げ遺物５点として、古墳時代後期～平安時代の遺物が出土。76Hを切るため古墳時代後期の遺物が混入。９世紀代の須恵器と土師器が出土しているが、小片のみの為不掲載。

［時　　期］出土遺物と覆土の観察により平安時代と想定される。

254号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（P－10）グリッド。更に東側調査区外に続く。

［構　　造］**平面形**：不明（円形か）。**断面形**：60°で壁は立ち上がる。底面中央がやや窪む。**規模**：長軸105㎝／短軸検出長50㎝／深さ50㎝。**主軸方位**：N－40°－E。

［覆　　土］３層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物２点と地点上げ遺物３点として、古墳時代後期～平安時代の遺物が出土。平安時

代の須恵器、土師器が出土したが小片の為不掲載。

［時　　期］出土遺物と覆土の観察により平安時代と想定される。

255号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（N－５）グリッド。更に西側調査区外に続く。

［構　　造］**平面形**：不明（楕円形か）。**断面形**：南西壁は60°、北東壁は35°で直線的に立ち上がる。底面は尖底状となる。**規模**：不明。長軸検出長55㎝／短軸55㎝／深さ34㎝。**主軸方位**：N－70°－W。

［覆　　土］３層に分層できた。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

256号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（N－４）グリッド。更に西側調査区外に続く。

［構　　造］**平面形**：不明（楕円形か）。**断面形**：南西壁は70°、北東壁は段を持ちながら20°前後で立ち上がる。底面は尖底状となる。**規模**：長軸検出長75㎝／短軸55㎝／深さ37㎝。**主軸方位**：N－60°－W。

［覆　　土］４層に分層できた。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

258号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（N－５）グリッド。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：南壁は55°、北壁は段を持ちながら30°前後で立ち上がる。底面中央はやや盛り上り、立ち上がり際が窪む。**規模**：長軸75㎝／短軸65㎝／深さ13㎝。**主軸方位**：N－37°－W。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

261号土坑

遺　　構（第82図）

［位　　置］（O－５）グリッド。14Mと重複するも新旧不明。

［構　　造］**平面形**：円形か。**断面形**：南壁は55°で直線的に、北壁は30°で緩やかに立ち上がる。底面中央はやや盛り上り、立ち上がり際が窪む。**規模**：長軸85㎝／短軸検出長65㎝／深さ14㎝。**主軸方位**：N－８°－W。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］一括で２点、地点上げ遺物で１点出土。古墳時代後期の土師器と平安時代の須恵器。いずれも小片の為、不掲載。
［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

262号土坑

遺　　構（第82図）
［位　　置］（Ｏ－６）グリッド。
［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：西壁は60°前後で内湾気味に緩やかに、東壁は45°で直線的に立ち上がる。底面は丸底。**規模**：長軸70㎝／短軸55㎝／深さ20㎝。**主軸方位**：Ｎ－87°－Ｗ。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］一括で３点出土。古墳時代後期から平安時代の土師器。いずれも小片の為、不掲載。
［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

263号土坑

遺　　構（第82図）
［位　　置］（Ｑ－８）グリッド。縄文時代の18Ｐを切る。
［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：浅い皿形を呈する。南壁、北壁とも25～30°で緩やかに立ち上がる。**規模**：長軸85㎝／短軸65㎝／深さ11㎝。**主軸方位**：Ｎ－37°－Ｗ。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

264号土坑

遺　　構（第82図）
［位　　置］（Ｐ－８）グリッド。縄文時代の293Dと平安時代以降の265Dを切る。
［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：西壁は55°で直線的に、東壁は30～50°で内湾して立ち上がる。底面は丸底気味である。**規模**：長軸60㎝／短軸47㎝／深さ21㎝。**主軸方位**：Ｎ－60°－Ｗ。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。
［所　　見］当264D及び266～268・276D、30・31・33・35Ｐにより北西隅を欠くが掘立柱建築遺構を構成する可能性が高い。いずれも、平安時代以降の遺構で、柱痕状の土層が確認できる。

265号土坑

遺　構（第82図）

［位　置］（P・Q－８）グリッド。縄文期の18Ｐを切る。平安時代の264Dに切られる。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：浅い皿状。東壁は20～50°で緩やかに立ち上がる。西壁は264Dに切られ残っていない。**規模**：長軸検出長110㎝／短軸75㎝／深さ17㎝。**主軸方位**：Ｎ－87°－Ｗ。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。264Dより古い。

266号土坑

遺　構（第82図）

［位　置］（Ｐ－８）グリッド。縄文時代の292Dを切る。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：完掘時には中央付近が盛り上がり立ち上り付近はやや窪む。北壁は20～50°で緩やかに立ち上がる。西壁は264Dに切られ残っていない。**規模**：長軸62㎝／短軸58㎝／深さ25㎝。**主軸方位**：Ｎ－87°－Ｗ。

［覆　土］２層に分層できた。上層の１層は下方凸形に堆積する。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。264Dより古い。

267号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（Ｐ－８）グリッド。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：中央付近が盛り上がり、立ち上り付近がやや窪む。南西壁は60°で、北東壁は70°それぞれ外反気味に立ち上がる。**規模**：長軸50㎝／短軸40㎝／深さ18㎝。**主軸方位**：Ｎ－58°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

268号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（Ｐ－８）グリッド。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：北側に低く底面はやや段をもち丸底である。南壁は20°、北壁は60°で立ち上がる。**規模**：長軸92㎝／短軸72㎝／深さ37㎝。**主軸方位**：Ｎ－７°－Ｅ。

［覆　土］３層に分層できた。

［遺　物］一括にて２点。縄文土器１点と古墳時代後期土師器小片。流れ込みのため、不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

269号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（P－10）グリッド。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：浅い皿形を呈する。北西壁、南東壁とも50°前後で立ち上がり、底面は平坦。**規模**：長軸115cm／短軸105cm／深さ14cm。**主軸方位**：N－50°－E。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］一括遺物で、古墳時代後期から平安時代の須恵器、土師器の小片が出土した。小片のため不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

270号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（O－９・10）グリッド。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：北西壁、南東壁とも30～50°前後で立ち上がる。**規模**：長軸116cm／短軸106cm／深さ12cm。**主軸方位**：N－50°－E。

［覆　土］３層に分層できた。

［遺　物］地点上げ遺物で４点、一括遺物で18点出土した。古墳時代後期から平安時代の須恵器、土師器の小片が出土した。小片のため不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

271号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（O－10）グリッド。

［構　造］**平面形**：不定形。**断面形**：南西壁はほぼ垂直に、北東壁はなだらかに20°で立ち上がる。**規模**：長軸82cm／短軸80cm／深さ９cm。**主軸方位**：N－26°－E。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］地点上げ遺物で３点、一括遺物で１点出土した。弥生時代後期から古墳時代初頭の甕形土器片、平安時代の土師器が出土した。小片のため不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

272号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（O・P－10）グリッド。41Pを切る。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：皿形。南西壁は50°で内湾して、北東壁は30°で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸65cm／短軸55cm／深さ10cm。**主軸方位**：N－34°－E。

［覆　土］単層。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

273号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（Ｏ－10）グリッド。

［構　造］**平面形**：不定形。**断面形**：立ち上がり中位に段を持つ。北西壁は30°で、南東壁は下位で50°、中段以降は30°で立ち上がる。**規模**：長軸55㎝／短軸50㎝／深さ12㎝。**主軸方位**：Ｎ－30°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］一括で土師器２点。小片の為、不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

274号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（Ｐ－９）グリッド。275Ｄと重複。新旧関係は不明。

［構　造］**平面形**：隅丸方形。**断面形**：すり鉢状を呈し、東壁、西壁とも50°で立ち上がる。**規模**：長軸55㎝／短軸55㎝／深さ31㎝。**主軸方位**：Ｎ－54°－Ｗ。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

275号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（Ｐ－９）グリッド。274Ｄと重複。新旧関係は不明。

［構　造］**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：底面はやや凸凹があり、北東側に小ピットをもつ。南西壁は60°、北東壁はほぼ垂直に立ち上がる。**規模**：長軸80㎝／短軸検出長60㎝／深さ27㎝。**主軸方位**：Ｎ－21°－Ｅ。

［覆　土］４層に分層できた。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

276号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（Ｏ・Ｐ－８）グリッド。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：底面狭く丸底気味。立ち上がりはロート状で、南壁は50°前後で中位に段をもって、北壁は、40°で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸65㎝／短軸60㎝／深さ27㎝。**主軸方位**：Ｎ－64°－Ｅ。

［覆　土］３層に分層できた。

［遺　物］地点上げ遺物で２点出土。古墳時代後期の土師器小片。流れ込みの為、不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

［所　見］６Ｔを構成する、柱穴と思われる。

277号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（O・P－８）グリッド。

［構　造］**平面形：**円形。**断面形：**底面はほぼ平坦。立ち上がりは、西壁、東壁とも直線的に50°で立ち上がる。**規模：**長軸90㎝／短軸85㎝／深さ24㎝。**主軸方位：**N－35°－W。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］一括遺物にて１点出土。土師器小片の為不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

278号土坑

遺　構（第83図）

［位　置］（O－９）グリッド。304Dを切る。

［構　造］**平面形：**不正円形。**断面形：**丸底の鉢状。立ち上がりは、内湾して西壁は、30°～ 40°で、東壁は20°～ 50°で立ち上がる。**規模：**長軸100㎝／短軸85㎝／深さ23㎝。**主軸方位：**N－60°－E。

［覆　土］２層に分層できた。上層の１層は波打った堆積である。

［遺　物］地点上げ遺物で古墳時代の土製支脚片、一括遺物で平安時代の土師器小片。流れ込み及び小片の為、不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

279号土坑

遺　構（第84図）

［位　置］（O－８）グリッド。280Dを切る。

［構　造］**平面形：**不正楕円形。**断面形：**丸底で立ち上がりは、南西壁は70°前後でやや段を持ち、北東壁は30°～ 60°前後で内湾気味に立ち上がる。**規模：**長軸50㎝／短軸30㎝／深さ26㎝。**主軸方位：**N－83°－E。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］一括遺物で平安時代の土師器が４点出土。小片の為、不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。280Dより新しい。

280号土坑

遺　構（第84図）

［位　置］（O－８）グリッド。279Dに切られる。

［構　造］**平面形：**円形。**断面形：**底面は狭くすり鉢状か。北東壁は30°前後で段をもって立ち上がる。**規模：**長軸検出長70㎝／短軸55㎝／深さ29㎝。**主軸方位：**N－52°－E。

［覆　土］２層に分層でき、一部に撹乱が入る。279Dより古い。

［遺　物］一括遺物で古墳時代後期から平安時代の土師器が５点出土。小片の為、不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

281号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（N－８）グリッド。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：底面はほぼ平坦。西壁は60°前後で、東壁は50°前後で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸110㎝／短軸104㎝／深さ19㎝。**主軸方位**：N－69°－E。

［覆　　土］２層に分層でき、一部に撹乱が入る。

［遺　　物］一括遺物で古墳時代後期から平安時代の土師器が６点出土。小片の為、不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

287号土坑

遺　　構（第85図）

［位　　置］（P－９）グリッド。24・27・28Pに切られる。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：浅い皿形で底面はほぼ平坦。西壁は40°～60°で内湾して立ち上がる。東壁は３つのピットに切られ残らない。**規模**：長軸検出長95㎝／短軸85㎝／深さ12㎝。**主軸方位**：N－57°－E。

［覆　　土］６層。24・27・28Pに切られた以外の部分に炭化材が充填されたように検出された。

［遺　　物］地点上げ遺物で縄文土器片１点、平安時代の土師器高台椀片１点、一括遺物で古墳時代後葉から平安時代の土師器が８点出土。その内、高台椀片を掲載。

［時　　期］覆土及び遺物の観察により10世紀を前後する時期の所産と想定される。

［所　　見］第160地点で唯一多量の炭化材が出土したが、性格は不詳である。

遺　　物（第86図、図版24－２－１、第18表）

１は酸化炎焼成の須恵器高台椀の破片である。胎土中に５mm前後の小礫をまとまって含み、雲母片を微量含む。内底面は、盛り上がって渦巻状にロクロ目が顕著に残る。

288号土坑

遺　　構（第85図）

［位　　置］（P・Q－８・９）グリッド。305Dを切り、81Hに切られる。30Pと重複するも新旧関係は不詳。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：浅い皿状。底面はほぼ平坦。西壁は70°前後で内湾して、北壁は20°で直線的緩やかに立ち上がる。**規模**：長軸検出長100㎝／短軸90㎝／深さ12㎝。**主軸方位**：N－57°－E。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］地点上げ遺物で土師器甕片１点、一括遺物で平安時代の須恵器、土師器片。いずれも小片の為、不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

297号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（P－９）グリッド。

［構　　造］**平面形**：不正楕円形。**断面形**：立ち上り際がやや低く、底面中央は高くほぼ平坦である。

東壁、西壁とも50°前後で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸115cm／短軸90cm／深さ21cm。**主軸方位**：N－47°－E。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物で平安時代の須恵器、土師器片６点が出土。いずれも小片の為、不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

300号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（Ｏ－８）グリッド。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：底面は丸底気味で、西壁は40°で直線的に、東壁は50°前後で内湾気味に立ち上がる。**規模**：長軸60cm／短軸55cm／深さ16cm。**主軸方位**：Ｎ－56°－Ｅ。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物で土師器甕片が１点出土。小片の為、不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

301号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（Ｏ－９）グリッド。302Dを切り、37Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：底面は丸底気味で、西壁は60°で直線的に、東壁は40 ～ 60°前後で内湾気味に立ち上がる。**規模**：長軸60cm／短軸40cm／深さ21cm。**主軸方位**：Ｎ－74°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

302号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（Ｏ－９）グリッド。303Dに切られ北西側を撹乱により壊されている。

［構　　造］**平面形**：不明。**断面形**：底面は皿状で底面はほぼ平坦。北東壁は60°前後で、南西壁は30°それぞれ直線的に立ち上がる。**規模**：長軸検出長120cm／短軸検出長60cm／深さ24cm。**主軸方位**：Ｎ－23°－Ｅ。

［覆　　土］４層に分層できた。

［遺　　物］地点上げ遺物９点、一括遺物８点出土。いずれも古墳時代後期～平安時代にかけての土師器甕、坏などで小片の為不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

303号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（Ｏ－９）グリッド。302Dを切る。北西側を撹乱により破壊されている。

［構　造］**平面形**：不明。**断面形**：底面は丸底。北東壁、南西壁とも30°前後で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸55cm／短軸検出長30cm／深さ16cm。**主軸方位**：N－18°－E。
［覆　土］２層に分層できた。
［遺　物］一括遺物で縄文時代早期末葉の土器片１点出土。小片の為不掲載。
［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。

304号土坑

遺　構（第84図）
［位　置］（O－８・９）グリッド。278Dに切られる。
［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：浅い皿形で底面は平坦。西壁、東壁とも30°前後で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸82cm／短軸80cm／深さ14cm。**主軸方位**：N－68°－W。
［覆　土］２層に分層できた。
［遺　物］確認面最上層で土師質の小皿状製品が出土。写真掲載。
［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。
遺　物（図版24－２－１）
１は小皿であろうか。酸化炎焼成で底部は摩滅しており判然としないがヘラ削り調整と解される。口唇部はとがり、立ち上がりの内外面には回転台を利用した横位の擦痕が観察される。胎土中に微細な金雲母と砂粒が含まれる。10世紀中葉以降の小皿と想定しておくが、或いは中世段階のカワラケとなる可能性もあるかもしれない。

306号土坑

遺　構（第84図）
［位　置］（L・M－９）グリッド。307Dを切り、北東側は撹乱により壊されている。
［構　造］**平面形**：不明（楕円型か）。**断面形**：底面は平坦。西北壁、東南壁とも60°前後で直線的に立ち上がる。**規模**：長軸検出長85cm／短軸80cm／深さ24cm。**主軸方位**：N－40°－E。
［覆　土］単層。
［遺　物］一括遺物で縄文時代中期の土器片１点、古墳時代後期から平安時代の土師器、須恵器片出土。古墳時代以降の遺物は小片の為、不掲載。縄文土器は、遺構外遺物として掲載（第98図）。
［時　期］覆土及び遺物の観察により平安時代以降と想定される。307Dより新しい。

307号土坑

遺　構（第84図）
［位　置］（L・M－９）グリッド。306Dに切られ、北東側を撹乱により壊されている。
［構　造］**平面形**：不明（楕円形か）。**断面形**：底面はほぼ平坦。西北壁は50°前後で外反して立ち上がる。**規模**：長軸検出長105cm／短軸90cm／深さ32cm。**主軸方位**：N－67°－E。
［覆　土］３層に分層できた。
［遺　物］なし。
［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。306Dより古い。

308号土坑

遺　構（第84図）

［位　置］（Ｍ－８・９）グリッド。86Hを切る。

［構　造］**平面形**：不明（円形か）。**断面形**：底面は平坦。北西壁はほぼ垂直に、南東壁は立ち上がり下端で45°前後で内湾し、以降はオーバーハング気味に立ち上がる。**規模**：長軸105㎝／短軸100㎝／深さ38㎝。**主軸方位**：Ｎ－５°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層できた。最上層に撹乱層が入る。

［遺　物］地点上げ遺物で３点、一括遺物で11点出土した。古墳時代後期の土師器、平安時代の土師器・須恵器が出土し、平安時代の須恵器には南比企産が含まれていた。いずれも、小片の為不掲載。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。86Hより新しい。

309号土坑

遺　構（第85図）

［位　置］（Ｍ－11）グリッド。88Hを切る。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：浅い皿形。底面は中央が最も深く緩やかな弧を描き、立ち上がり際に向かって高さを増す。西壁、東壁とも30°前後で緩やかに内湾して立ち上がる。**規模**：長軸135㎝／短軸85㎝／深さ９㎝。**主軸方位**：Ｎ－55°－Ｗ。

［覆　土］単層。

［遺　物］地点上げ遺物で１点、一括遺物で19点出土した。弥生時代末～古墳時代初頭の甕形土器片。古墳時代後期～平安時代の土師器。７世紀末葉～８世紀初頭の須恵器坏片、平安時代の須恵器片などが出土。何れも小片であるが、当土坑が88Hを切るため、同住居跡に関わる遺物として混入した可能性もあり写真掲示（図版24－２－309D）。

［時　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。88Hより新しい。

遺　物（図版24－２－309D）

１は須恵器坏の口縁から立ち上り付近の小片である。口唇部はややとがり気味に造り、立ち上がり体部はハの字に直線的な立ち上がりを基調とするが、僅かに内湾傾向を伺うことができる。当該資料には底部が遺存しないが外面の腰部と内面の立ち上りの形状から、その形状は丸底となることが想定される。焼成は、還元炎焼成で胎土も混ざりものの少ない精良なものである。

310号土坑

遺　構（第85図）

［位　置］（Ｌ－10）グリッド。88Hを切る。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：略箱型を呈する。底面は、一部に凹凸が認められるが、ほぼ平坦である。西壁、東壁ともほぼ垂直に立ち上がる。**規模**：長軸120㎝／短軸90㎝／深さ42㎝。**主軸方位**：Ｎ－69°－Ｗ。

［覆　土］４層に分層できた。一部に撹乱が入る。

［遺　物］地点上げ遺物で１点、一括遺物で４点出土した。古墳時代後期～平安時代の土師器、須恵器片でいずれも、小片の為不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。88Hより新しい。

311号土坑

遺　　構（第85図）

［位　　置］（L－９・10）グリッド。88Hを切る。14Mとも重複するも新旧関係は不明。

［構　　造］**平面形**：不定形。**断面形**：底面は、ほぼ平坦。北壁は60°前後で直線的に立ち上がる。南壁は30°前後で緩やかに立ち上がり中位以上を失う。**規模**：長軸90cm／短軸70cm／深さ46cm。**主軸方位**：N－０°－W。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］一括遺物で４点出土した。古墳時代後期～平安時代の土師器小片の為不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。88Hより新しい。

312号土坑

遺　　構（第85図）

［位　　置］（M－８）グリッド。86Hを切る。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：底面は、東にやや傾斜するもほぼ平坦。東壁は40°前後で直線的、西壁は中位まで30°で直線的に、上位は80°で鋭角に立ち上がる。**規模**：長軸85cm／短軸75cm／深さ24cm。**主軸方位**：N－20°－E。

［覆　　土］２層に分層できた。86Hより新しい。

［遺　　物］地点上げ遺物で15点、一括遺物で38点出土し、ほぼ古墳時代後期の土師器片であり、86Hに関わるものと推定される。遺構に伴わない為不掲載。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。88Hより新しい。

314号土坑

遺　　構（第85図）

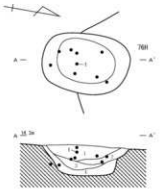
［位　　置］（N－12）グリッド。

［構　　造］**平面形**：不正楕円形。**断面形**：緩やかなすり鉢状。底面は、狭く丸底気味で、南西壁、北東壁ともに中位に腰を持ち40°前後で緩やかに逆ハの字開いて立ち上がる。**規模**：長軸105cm／短軸70cm／深さ24cm。**主軸方位**：N－40°－E。

［覆　　土］３層に分層できた。

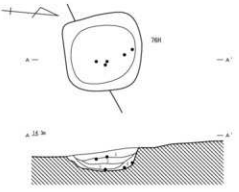
［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察により平安時代以降と想定される。



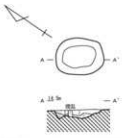
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒(φ2～9mm)を少量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量。炭化粒(φ2～3mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ3～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

252号土坑



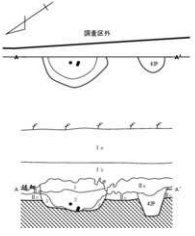
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を少量。焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を少量。焼土粒(φ2～5mm)・炭化粒(φ5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ3～15mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ5～20mm)を少量。焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

253号土坑



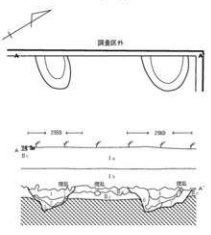
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

258号土坑



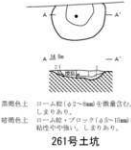
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

254号土坑



1層　褐灰色土　ローム粒(φ2～8mm)・焼土粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒(φ4～8mm)をやや多く。ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　褐灰色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。均質土。粘性あり。しまりあり。
5層　褐灰色土　ローム粒(φ2～8mm)・焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
6層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
7層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2～8mm)をやや多く。ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

255号土坑・256号土坑

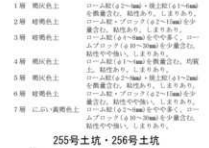


1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ5～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

261号土坑

1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・焼土粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

263号土坑

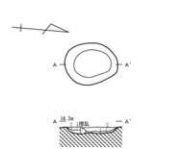


1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。均質土。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

264号土坑・265号土坑

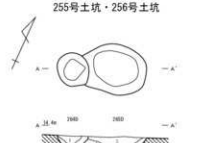
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

262号土坑



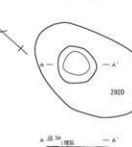
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・焼土粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

263号土坑



1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。均質土。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

264号土坑・265号土坑

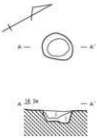


1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

266号土坑

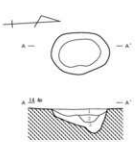
0　1/60　2m

第82図　平安時代土坑１(1／60)



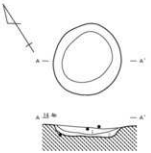
1層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ3～15mm）・焼土粒（φ2～6mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ロームブロック（φ10～30mm）をやや多く含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

267号土坑



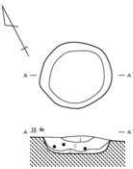
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～8mm）を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～8mm）を少量、ロームブロック（φ10～15mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ4～15mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

268号土坑



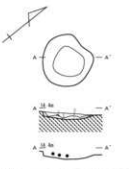
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒（φ4～6mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）を微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

269号土坑



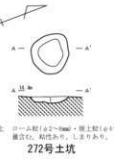
1層　黒色土　　ローム粒（φ1～3mm）を微量含む。均質土。粘性あり。しまりやや弱い。
2層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒（φ2～4mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）を少量含む。粘性あり。しまりあり。

270号ピット



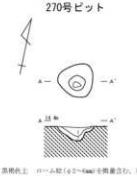
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒・炭化粒（φ1～4mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ4～12mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

271号土坑



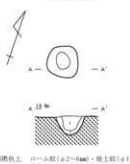
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。

272号土坑



1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒・炭化粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～15mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

273号土坑

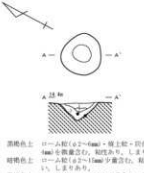


1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ4～15mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

274号土坑

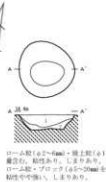
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ1～4mm）を微量、炭化粒・ブロック（φ4～10mm）を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・炭化粒（φ2～6mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～20mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～15mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

275号土坑



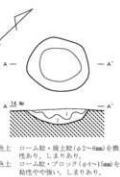
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒・炭化粒（φ2～6mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ2～15mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
3層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

276号土坑



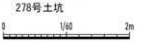
1層　黒褐色土　　ローム粒（φ2～6mm）・焼土粒（φ1～3mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ5～20mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

277号土坑

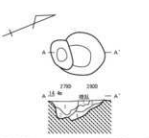


1層　黒褐色土　　ローム粒・焼土粒（φ2～6mm）を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　　ローム粒・ブロック（φ4～15mm）を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

278号土坑

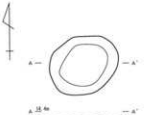


第83図　平安時代土坑２（1／60）



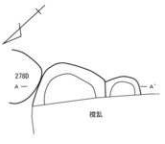
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。均質土。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

279号土坑・280号土坑



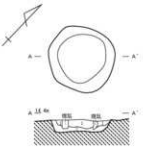
1層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

297号土坑



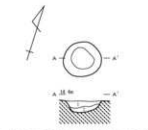
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム・ブロック(φ10～20mm)を中～多く含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ6～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
5層　黒褐色土　ローム粒(φ2～3mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
6層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

302･303号土坑



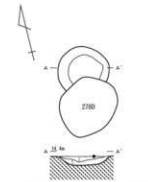
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

281号土坑



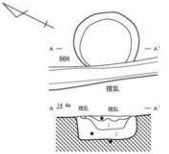
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

300号土坑



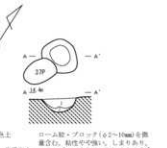
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

304号土坑



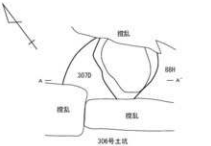
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)・ロームブロック(φ20～40mm)・焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ3～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

308号土坑

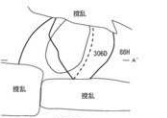


1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム・ブロック(φ10～20mm)を中～多く含む。粘性やや強い、しまりあり。

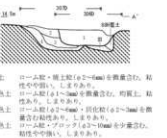
301号土坑



306号土坑



307号土坑

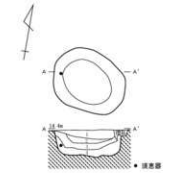


1層　黒色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。均質土。粘性あり、しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・炭化粒(φ2～3mm)を微量含む粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

306･307号土坑

0　1/40　2m

第84図　平安時代土坑３(1／60)

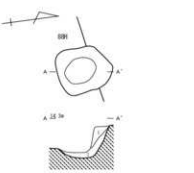


1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～4mm)・炭化粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～4mm)・炭化粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～3mm)・炭化粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや弱い。

310号土坑

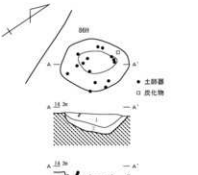
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～2mm)・焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。

309号土坑



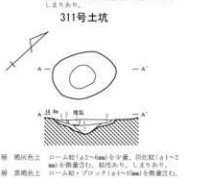
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。

311号土坑



1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

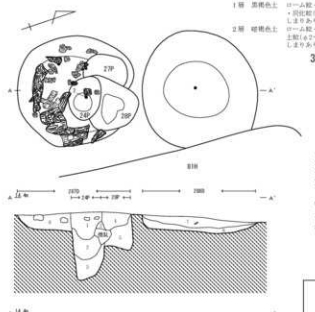
312号土坑



1層　褐灰色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、焼土粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～5mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。

314号土坑

0　1/60　2m

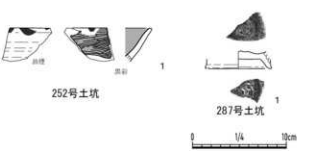


1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)・炭化粒(φ1～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)・炭化粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
5層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～6mm)を少量、炭化粒・ブロック(φ2～10mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
6層　褐灰色土　ローム粒(φ2～6mm)・炭化粒・焼土粒(φ1～3mm)を少量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
7層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。均質土。粘性あり。しまりあり。
8層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性あり。しまりやや強い。

287号土坑・288号土坑・24号ピット・28号ピット

0　1/60　1m

第85図　平安時代土坑４(1／60)



252号土坑

287号土坑

0　1/4　10cm

第86図　252・287号土坑出土遺物(1／4)

（５）溝跡

14号溝跡

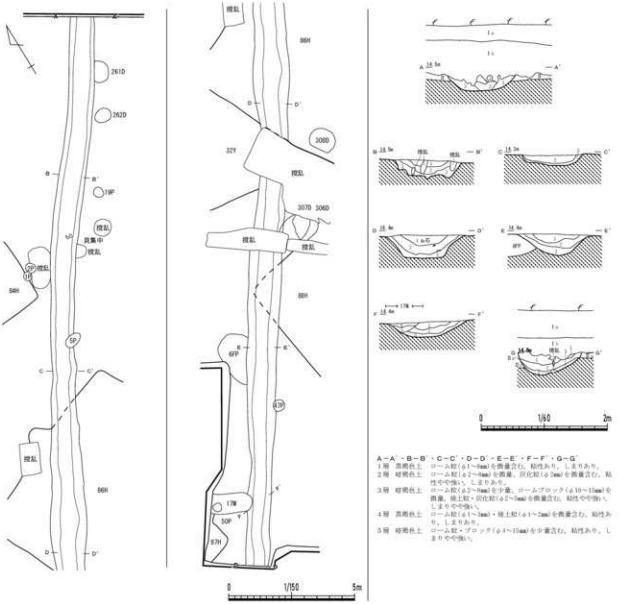
遺　　構（第87・88図）

［位　　置］（Ｏ－５）～（Ｋ－11）グリッド。６FP、86・88Hを切る。17Mに切られる。216・307・311・312D、47Ｐと重複する。新旧は不明。

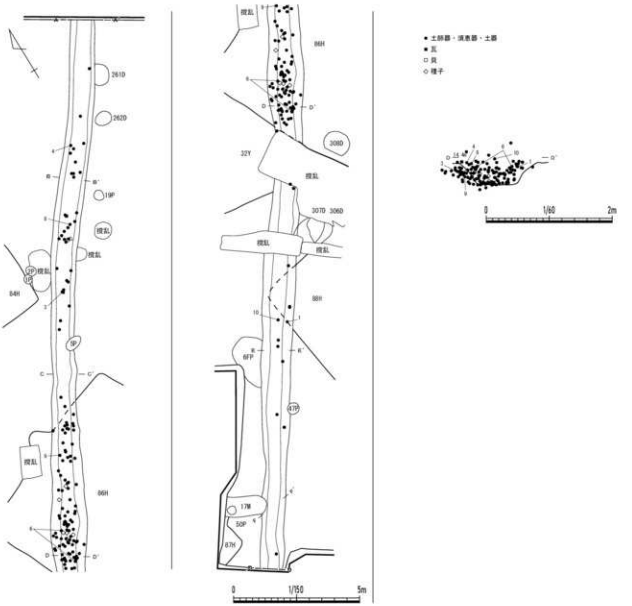
［構　　造］**平面形**：直線的。**断面形**：底面平坦又は丸底で60°前後で外反して立ち上がる部分、浅い皿状で平坦な底面から30°～40°で緩やかに立ち上がる部分、丸底の底面から30°～60°立ち上がる部分、底面に凹凸が目立つ部分など安定しない。**規模**：長軸検出長30.75m／短軸0.60m／深さ36cm。**主軸方位**：Ｎ－35°－Ｅ。

［覆　　土］５層に分層できた。

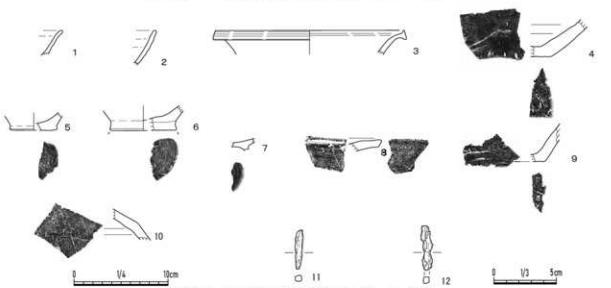
［遺　　物］地点上げ遺物で157点、一括遺物で1204点出土した。弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期と平安時代の遺物が出土しているが、多くの遺物は86・88Hを切るため古墳時代後期の遺物で



第87図　14号溝跡（1／150・1／60）



第88図　14号溝跡遺物出土状態(1／150・1／60)



第89図　14号溝跡出土遺物(1／4・1／3)

あった。掲載したのは遺構時期である平安時代以降に関わる、平安時代から中世前期の12点である。

［時　　期］第131地点の成果より平安時代（９世紀後葉）以降。

［所　　見］溝の走行方向は平安時代の遺構群の主軸とは異なる。

遺　　物（第89図、図版24－３・25－１、第17表）

１～７は須恵器である。１・２は坏、３は小形の甕か長頸瓶の口縁部であろう。４は平底の大甕底部である。５は小さな底部から僅かに底を高く造る。底部調整は摩滅しているが周辺ナデを施し中心部は皺状痕跡を残す。６は埦で、低いながらも底部を柱状にするもので、細い糸切りの痕跡ときめ細かい胎土は12世紀代の柱状高台土器に近い。７は酸化炎焼成の高台坏か。８は小片ながら所謂常陸型または常総型の土師器甕で口縁部の頸部より上の部分。９は陶器の甕、10は常滑大甕の胴部小片で叩き目が残る。薄く白色の釉が掛けられ、器壁も薄い。12世紀末～13世紀初頭か。11・12は鉄製品で釘であろう。

17号溝跡

遺　　構（第90図）

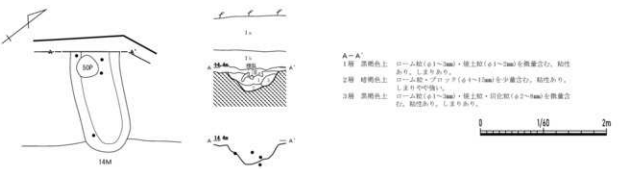
［位　　置］（K－11）グリッド。87H、14Mを切る。西側調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形**：溝。**断面形**：逆台形。底面は、中央が最も低く、壁は60°前後で外反気味に立ち上がる。**規模**：長軸検出長1.46m／短軸0.80m／深さ29㎝。**主軸方位**：N－61°－E。14Mにほぼ直行。

［覆　　土］５層に分層できた。

［遺　　物］地点上げ遺物で４点、一括遺物で１点が出土した。小片または流れ込みの遺物の為、不掲載。

［時　　期］平安時代（９世紀後葉）以降で、14Mよりは新しい。北西壁セクションで薄くⅡa層に覆われていた。



第90図　17号溝跡（1／60）

（６）ピット（第91～95図）

ピットは64本検出された。そのうち古墳時代以降と想定されるピットは10本、平安時代以降と想定されるピットは54本であった。分布の傾向は、平安時代及び平安時代以降のピットを合わせると①O－７～10南北列、O～R－７東西列の内側にまとまりがあり土坑と同様の傾向が伺える。②81～84・87Hと重複または周辺にピットが認められた。③それらの中で、土坑の頁で述べたとおり81・83・85Hに囲まれた中に掘立柱建築遺構の存在が想定された。また古墳時代後期以降のピットは、２区の南西側の主に２か所に遍在した。いずれも覆土と出土遺物が確実に結びつく事例はなかったため一覧表（第７表）での報告とする。

７号ピット

遺　構（第91図）

［位　置］（Ｏ－７）グリッド

［検出状況］調査区やや北東寄りで検出し、奈良時代の83Hを切る。

［構　造］**平面形：**隅丸方形。**断面形：**壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。**規模：**長軸120cm／短軸95cm／深さは23cm。

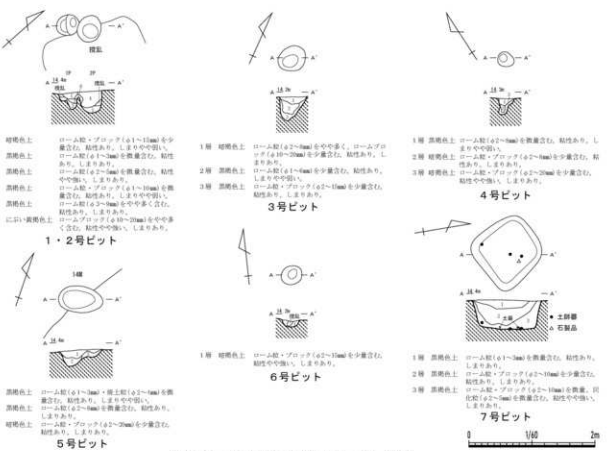
［覆　土］３層に分層できた。83Hより新しい。

［遺　物］地点上げ遺物として４点、一括遺物として28点が出土しており、古墳時代後期と平安時代の須恵器が確認でき、平安時代の資料に、底部成形、調整にバリエーションが伺われるものが存在する。その内、掲示するのは平安時代の内黒土器である。

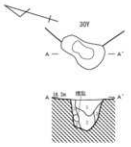
［時　期］覆土と出土遺物から平安時代（10世紀後葉～11世紀初頭）と推測する。

遺　物（第96図、図版25－２、第19表）

１は須恵器の坏で内面は黒色処理された内黒土器である。底面は、完存しないが同心状の砂粒の移動痕が見え、回転ヘラ削りと理解できよう。回転の中心と思しき所が僅かに膨らんで残る。底径は不明ながら、内底径は４cm強程度と推測される。このほか小片の為、図示しないが底部調整がヘラ切りと推測される須恵器坏（図版25－２－２）の底部や小形の高台椀、坏の口縁部などが出土している。

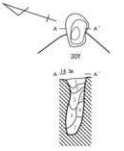


第91図　古墳・平安時代ピット１(１／60)



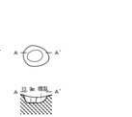
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ3～15mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりあり。

8号ピット



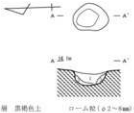
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ3～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
5層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
6層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。
7層　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

9号ピット



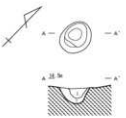
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりあり。

10号ピット



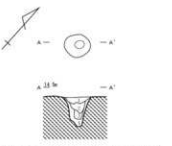
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を少量、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性あり、しまりあり。

11号ピット



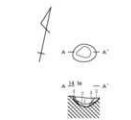
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

12号ピット



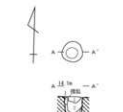
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

13号ピット



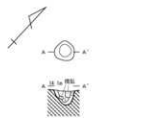
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ8～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ10～30mm)をやや多く含む。粘性やや強い、しまりやや強い。

14号ピット



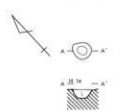
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。

15号ピット



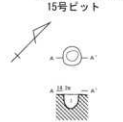
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

16号ピット



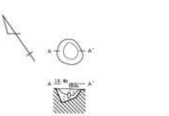
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

17号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。均質土。粘性やや強い、しまりやや強い。

18号ピット

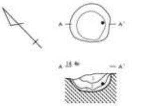


1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

19号ピット

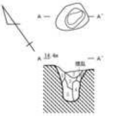
0　1/60　2m

第92図　古墳・平安時代ピット2(1／60)



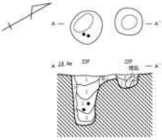
1層　極暗赤褐色　ローム粒(φ2~6mm)・焼土粒(φ2~8mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　極暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~15mm)を少量、焼土粒・炭化粒(φ2~8mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~20mm)を少量、焼土粒・ブロック(φ2~15mm)・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む、粘性やや強い、しまりあり。

20号ピット



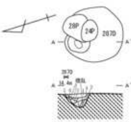
1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ6~20mm)を少量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~15mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ2~8mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
5層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~20mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりあり。

21号ピット



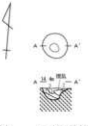
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~10mm)を微量含む、粘性あり、しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒(φ2~8mm)をやや多く、ロームブロック(φ10~30mm)を少量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~20mm)を少量含む、粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~15mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ10~30mm)をやや多く含む、粘性やや強い、しまりあり。
6層　黒褐色土　ローム粒(φ10~30mm)・炭化粒(φ1~3mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
7層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~10mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。

22・23号ピット



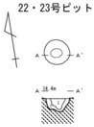
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1~3mm)を微量含む、均質土、粘性あり、しまりやや弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~10mm)を少量、焼土粒(φ2~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~15mm)を少量含む、粘性あり、しまりあり。
5層　黒褐色土　ローム粒(φ2~4mm)・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む、287D4層粘性あり、しまりやや強い。
6層　黒褐色土　ローム粒(φ1~4mm)・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む、287D2層粘性あり、しまりあり。

27号ピット



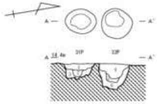
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2~4mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2~8mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ10~20mm)をやや多く含む、粘性やや強い、しまりやや強い。

25号ピット



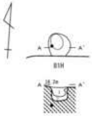
1層　黒褐色土　ローム粒・炭化粒(φ1~4mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~10mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりやや強い。

26号ピット



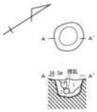
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2~8mm)・焼土粒(φ1~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1~3mm)を微量含む、均質土、粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~15mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ2~6mm)・焼土粒(φ1~4mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ10~20mm)をやや多く含む、粘性やや強い、しまりやや強い。
6層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~15mm)を微量含む、粘性あり、しまりやや強い。

31・32号ピット



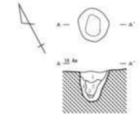
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2~4mm)を微量含む、粘性あり、しまりやや弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2~8mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。

29号ピット



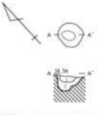
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2~4mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4~10mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりあり。

30号ピット



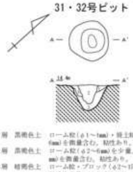
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1~4mm)・焼土粒・炭化粒(φ3~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2~6mm)・炭化粒(φ2~4mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ10~20mm)をやや多く、焼土粒(φ2~4mm)を微量含む、柱痕アタリ部分、粘性やや強い、しまり強い。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ3~15mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりやや強い。

33号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒(φ2~4mm)を微量含む、均質土、粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ3~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。

34号ピット

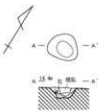


1層　黒褐色土　ローム粒(φ1~4mm)・焼土粒・炭化粒(φ2~6mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2~6mm)を少量、焼土粒(φ1~8mm)を微量含む、粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2~15mm)を少量含む、粘性やや強い、しまりあり。

35号ピット

0　1/60　2m

第93図　古墳・平安時代ピット３（1／60）

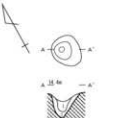


1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～6mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

36号ピット

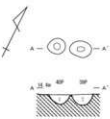
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

37号ピット



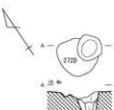
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

38号ピット



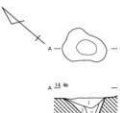
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

39・40号ピット



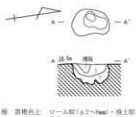
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

41号ピット



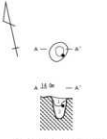
1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ4～8mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～20mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

43号ピット



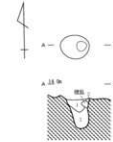
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)・焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

44号ピット



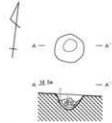
1層　黒色土　ローム粒・焼土粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

45号ピット



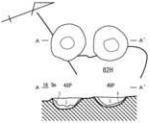
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～8mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ4～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

46号ピット



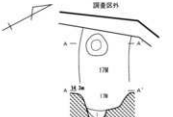
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ6～15mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

47号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ2～6mm)を少量、ローム・ブロック(φ15～20mm)・焼土粒(φ2～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりあり。

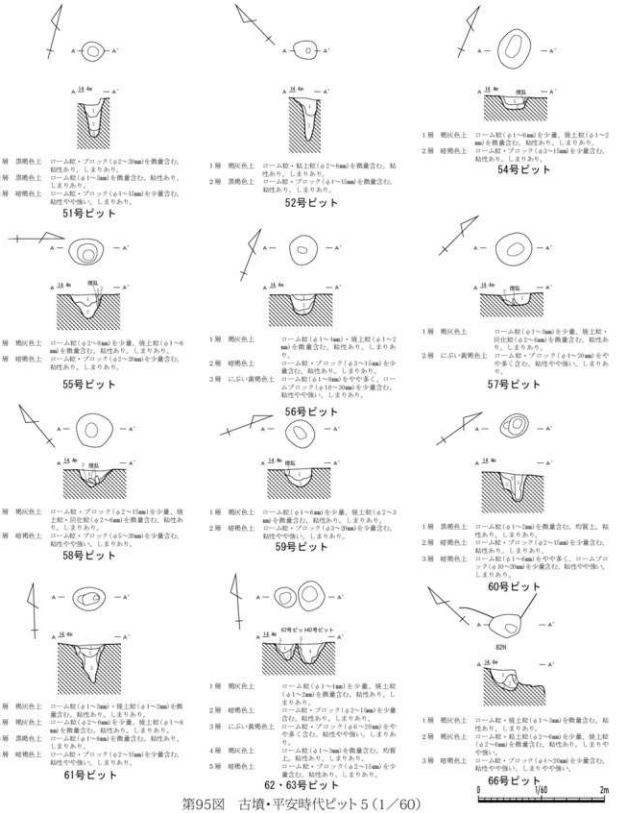
48・49号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ2～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～15mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

50号ピット

第94図　古墳・平安時代ピット４(1／60)



第95図　古墳・平安時代ピット５(１／60)

第96図　７号ピット出土遺物(１／４)

遺構名	グリッド	形　状	主軸方位	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺物の有無	推定年代	備　考（主な覆土、重複関係）
1P	N 6	円形	N－31°－E	35	35	26	無	平安	暗褐色土　2P重複
2P	N 6	円形	N－37°－W	45	40	33	有	平安	黒褐色土　1P重複
3P	Q 7	円形	N－30°－E	45	40	37	有	平安	暗褐色土
4P	M 6	円形	N－40°－W	37	32	25	有	平安	黒褐色土　84H重複
5P	N 7	楕円形	N－80°－E	70	42	23	有	平安～	黒褐色土
6P	M 6	円形	N－85°－W	35	30	11	無	平安～	暗褐色土　84H重複
7P	O 7	隅丸方形	N－73°－W	120	95	23	有	平安～	黒褐色土　83Hより新
8P	P 9	不定形	N－10°－E	70	30	47	有	平安～	黒褐色土　30Y重複
9P	Q 9	不定形	N－80°－E	55	30	88	無	平安～	黒褐色土　30Y重複
10P	P 9	円形	N－78°－W	40	30	11	無	平安～	黒褐色土　30Y重複
11P	Q 9	不定形	N－0°	55	40	19	無	平安～	黒褐色土　81H重複
12P	N 4	円形	N－0°	55	45	24	無	平安～	黒褐色土
13P	N 5	円形	N－61°－E	40	35	46	有	平安～	黒褐色土
14P	R 7	楕円形	N－68°－E	35	30	14	有	平安～	黒褐色土
15P	R 7	円形	N－12°－E	35	30	46	無	平安～	黒褐色土
16P	Q 8	円形	N－50°－W	32	30	22	無	平安～	黒褐色土
17P	Q 8	円形	N－14°－W	30	25	13	無	平安～	黒褐色土
18P	Q 8	円形	N－0°	32	27	22	無	平安～	黒褐色土
19P	N 6	不定形	N－15°－W	45	35	19	有	平安～	黒褐色土
20P	P 7・O 6	円形	N－84°－W	65	60	26	有	平安～	極暗赤褐色土
21P	P 8	不定形	N－49°－W	52	40	48	無	平安～	暗褐色土
22P	M 7	円形	N－6°－W	55	50	76	有	平安	黒褐色土
23P	M 7	円形	N－44°－W	47	45	21	無	平安	黒褐色土
24P	P 9	円形	N－47°－W	35	25	53	無	平安	黒褐色土　28D・27・28P重複
25P	O 7	円形	N－25°－W	40	35	18	無	平安	黒褐色土
26P	O10・P10	円形	N－80°－W	40	40	21	無	平安	黒褐色土
27P	P 9	隅丸長方形	N－40°－E	40	15	22	有	平安	暗灰色土　28D・24・28P重複
28P	P 9	不定形	N－80°－E	47	30	27	無	平安	黒褐色土　28D・24・27P重複
29P	Q 8	円形	N－30°－W	40	30	22	有	平安	黒褐色土　30SD重複
30P	P 8・9	円形	N－19°－W	50	45	27	無	平安	黒褐色土　28SD重複
31P	P 8	円形	N－6°－E	50	40	25	有	平安	黒褐色土
32P	P 8	円形	N－8°－W	50	45	30	有	平安	黒褐色土
33P	P 8・9	円形	N－20°－E	50	45	48	有	平安	黒褐色土
34P	O 9	円形	N－53°－W	40	35	24	有	平安	黒褐色土
35P	O 8	円形	N－15°－E	65	60	41	有	平安～	黒褐色土
36P	O 9	不定形	N－48°－E	50	40	17	有	平安～	黒褐色土
37P	O 9	隅丸長方形	N－50°－E	60	40	13	無	平安～	黒褐色土　30D重複
38P	O10	不定形	N－37°－W	65	50	25	有	平安～	黒褐色土
39P	O10	円形	N－53°－E	30	25	13	無	平安～	黒褐色土
40P	P10	楕円形	N－54°－E	35	25	14	無	平安～	黒褐色土
41P	O10・P10	不定形	N－77°－E	40	35	33	無	平安～	黒褐色土　27D重複
42P	P 7	不定形	N－36°－W	67	50	39	有	平安～	黒褐色土
44P	R 7・8	不定形	N－0°	60	40	32	有	平安～	黒褐色土
45P	O 7・P 7	隅丸長方形	N－26°－E	42	25	32	有	平安～	黒色土　83H重複
46P	O 7	円形	N－53°－W	40	35	45	無	平安～	黒褐色土　83H床下
47P	L10・11	円形	N－43°－E	45	45	25	無	平安～	黒褐色土　14M重複
48P	N12	円形	N－27°－W	60	50	17	有	平安～	黒褐色土　82H重複
49P	N12	円形	N－80°－E	55	50	15	有	平安～	黒褐色土　82H重複
50P	K11	円形	N－55°－E	35	30	24	有	平安～	黒褐色土　17Mより古
51P	L 9	円形	N－70°－E	35	30	50	無	平安～	黒褐色土　32Yより新
52P	L 9	隅丸長方形	N－20°－W	45	30	67	無	平安～	暗灰色土　32Yより新
53P	N12	不定形	N－88°－W	45	35	35	有	平安	暗灰色土・黒褐色土　82Hカマドより新
54P	O11	楕円形	N－15°－W	60	50	20	無	古墳～	暗灰色土
55P	O11	楕円形	N－10°－E	50	40	37	無	古墳～	暗灰色土
56P	O11	円形	N－10°－W	50	45	31	無	古墳～	暗灰色土
57P	N12	円形	N－34°－E	55	50	18	無	古墳～	暗灰色土
58P	M12	円形	N－50°－E	60	50	26	無	古墳～	暗灰色土
59P	N12	円形	N－30°－E	45	40	27	無	古墳～	暗灰色土
60P	P10	円形	N－10°－E	45	35	41	無	古墳	黒褐色土・暗褐色土　柱痕状堆積あり
61P	O11	楕円形	N－86°－E	50	35	60	有	古墳	暗灰色土・暗褐色土　柱痕状堆積あり
62P	M12	円形	N－44°－W	35	25	26	有	古墳～	暗灰色土
63P	M12	円形	N－20°－E	50	40	31	有	古墳～	暗灰色土
64P	O10	円形	N－34°－W	65	50	22	有	平安	暗灰色土　313Dより新
66P	N12	不定形	N－43°－W	50	35	33	有	平安～	暗灰色土　82Hカマドより新

第7表　ピット一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (㎝)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第28図７ 図版14-7	土師器 坏	完形	口11.0 高3.1	貯蔵穴付近床面上	いわゆる比企型坏／口縁部はやや外傾する／口唇内面に沈線がめぐる／口縁部と底部の境に弱い段をもつ／内面及び外面口縁部赤彩／人間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ／以下ヘラ削り	茶褐色粒子・砂粒・小石を含む	にぶい橙色
第28図８ 図版14-8	土師器 坏	60%	口10.0 高3.8	貯蔵穴付近覆土中	いわゆる比企型坏／口縁部はやや外傾する／口唇内面に沈線がめぐる／口縁部と底部の境に弱い段をもつ／内面及び外面口縁部赤彩／遺存底部の８割程度は黒彩／人間系土師器	内面：横ナデ、底部はナデ／外面：口縁部横ナデ、口縁部と底部境直下に横位ヘラ削り、以下ヘラ削り／	砂粒・小石をやや多く含む	赤褐色
第28図９ 図版14-9	土師器 坏	完形	口11.2 高4.0	貯蔵穴付近ほぼ床面上	いわゆる比企型坏／口縁部はやや外反する／口唇内面に沈線がめぐる／口縁部と底部の境に弱い段をもつ／内面及び外面口縁部赤彩／人間系土師器	内面：横ナデ、底部はナデ／外面：口縁部横ナデ、口縁部と底部境直下に横位ヘラ削り、以下ヘラ削り／	茶褐色粒子・砂粒・８mm前後のやや大きなものを含め小石をやや多く含む	明赤褐色 (赤彩部分：赤色)
第28図10 図版14-10	土師器 坏	40%	口10.2 高3.8	旧カマド左袖覆土中	いわゆる比企型坏／口縁部は中位で僅かに括れ外反する／口唇内面に沈線はめぐらない／口縁部と底部の境に弱い稜をもつ／内面及び外面口縁部赤彩／人間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り／	茶褐色粒子・砂粒・小石を含む	明赤橙色を基調とする
第28図11 図版14-11	土師器 坏	完形	口15.6 高5.4	旧カマド右袖前方覆土中	いわゆる続比企型坏／大型／丸底気味の底部から内湾傾向で立上り、殆ど境なく口縁部となる／内面及び外面口縁部濃い赤彩／外面立上りは薄い赤彩、底部付近は黒彩	内面：横ナデ、底部付近はヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り／	茶褐色粒子・砂粒・小石を含む	明赤褐色
第28図12 図版14-12	土師器 坏	完形	口10.6 高3.1	貯蔵穴付近床面上	有段坏／口縁部と底部の境に小さな段をもつ／口縁部は直立気味ながら内湾傾向／全面が薄く煤けた黒彩となる	内面：口縁部から頸部付近まで横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	金雲母・砂粒を含む	橙色を基調とし、内面黒く煤ける
第28図13 図版14-13	土師器 坏	40%	口11.1 高3.5	Ｐ５及びＰ５付近床面上	有段坏／口縁部と底部の境に小さな段をもつ／口縁部は外傾しつつ内湾傾向／底部内面中心が僅かに出っ張る／回転台使用による在地系か／全面が薄く煤けた黒彩となる	内面：口縁部から頸部付近まで横ナデ、以下同心状にヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒と僅かに小石・角閃石細片を含む	外面：灰黄褐色 内面：黒色
第28図14 図版14-14	土師器 坏	完形	口10.2 高3.1	Ｐ２付近床面上	有段坏／口縁部と底部の境に沈線がめぐり形骸化した段を形成する／口縁部は僅かに外傾する／全面黒彩	内面：口縁部から頸部付近まで横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・金雲母を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：黒褐色
第28図15 図版14-15	土師器 坏	80%	口9.7 高3.0	貯蔵穴付近床面上	有段坏／口縁部と底部の境に僅かな段を形成する／口縁部は僅かに外傾する／内面黒彩、外面は口縁部及び底部の一部が煤け黒彩	内面：口縁部から頸部付近まで横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・金雲母を含む	にぶい橙色
第28図16 図版14-16	土師器 坏	完形	口11.1 高3.4	貯蔵穴付近床面上	口縁部と底部の境が僅かに段をなす／口縁部は内湾気味に外傾する／底部内面中央がヘソ状となり僅かにへこむ部分と膨らむ部分がある、外面は平底気味／全体に器壁が厚手／全面黒彩ながら内面及び外面口縁部は特に濃い	内面：口縁部は横ナデ、以下ヘラナデ、／外面：口縁部横ナデ、口縁との境に一周する横位の連続ヘラ削り、以下ヘラ削り	砂粒・小石・金雲母を含む	橙色を基調とする
第28図17 図版14-17	土師器 坏	60%	口10.4 高3.3	中央から北西覆土中に散在	口縁部と底部の境には弱い段をもつ／口縁部は外傾する／全体にうっすらと煤けた黒彩	内面：口縁部から底部付近まで横ナデ、以下ヘラナデ、／外面：口縁部横ナデ、段下を１周横位ヘラ削り、以下ヘラ削り	砂粒・小石・角閃石細粒を含む	にぶい赤橙色を基調とする
第28図18 図版14-18	土師器 坏	完形	口10.4 高3.4	Ｐ６付近床面上	口縁部と底部の境には弱い稜をもつ／口縁部は内湾気味に外傾する／内面底部中心が僅かに窪む／全体にうっすらと煤け部分的に濃く残る部分があり黒彩と判断する	内面：口縁部から底部にかけて同心状の横ナデ、回転台使用か／外面：口縁部横ナデ、段下を１周横位ヘラ削り、以下ヘラ削り	砂粒・小石・金雲母・角閃石細粒を含む	橙色を基調とする
第28図19 図版14-19	土師器 坏	略完形	口9.6 高3.4	貯蔵穴付近床面上	口縁部と底部の境は僅かに段をもつ／口縁部はほぼ直立する／内面底部中心が僅かに窪む／内面及び口縁外面黒彩、底部外面はうっすらと煤ける	内面：口縁部から頸部下まで横ナデ、以下ナデ、回転台使用か／外面：口縁部横ナデ、段下を横位ヘラ削り、以下ヘラ削り	砂粒・小石・金雲母・茶褐色粒子を含む	黒褐色
第28図20 図版14-20	土師器 坏	略完形	口11.0 高3.0	Ｐ７付近覆土中	口縁部と底部の境は弱い段をもつ／口縁部は外傾する／中央にヘソ状の僅かな窪み／内面と外面は口縁を中心に部分的に煤け，黒彩と判断した	内面：口縁部から底部付近まで横ナデ、以下ヘラナデ、／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・小石・角閃石細粒を含む	淡赤橙色を基調とする
第28図21 図版14-21	土師器 坏	95%	口11.6 高3.7	貯蔵穴付近床面上	口縁部と底部の境が僅かに段をなす／口縁部は内湾気味に外傾する／全面煤ける黒彩	内面：口縁部は横ナデ，以下回転台を用いた同心状痕跡を残すナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・金雲母・角閃石細粒を含む	にぶい橙色を基調とする

第８表　76号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (㎝)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第28図22 図版14-22	土師器 坏	完形	口11.4 高3.8	東側ほぼ床面上	口縁部と底部の境が僅かに段をなす／口縁部は内湾気味に外傾する／底面は平底気味／内面は煤け、外面は口縁を中心に濃い部分を有し、全面黒彩か	内面：口縁部から頸部付近まで横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り、底面を平らに削る	砂粒・小石・角閃石細粒を含む	明灰色
第28図23 図版14-23	土師器 坏	95%	口10.8 高4.0	P10付近覆土中	口縁部と底部の境は弱い段による／口縁部は内湾気味にほぼ直立する／底部は丸底となる／内面には放射状の暗文を模したものか針状工具による刻線が４本施される	内面：口縁部から頸部下まで横位のミガキ、以下同心状のナデ／外面：口縁部横ナデ後ミガキ、以下ヘラ削り	砂粒・金雲母・茶褐色粒子を含む	にぶい黄橙色を基調とする
第28図24 図版14-24	土師器 坏	95%	口11.8 高3.7	炉付近ほぼ床面上	口縁部と底部の境は段をなす／口縁部は外傾する／底部内面中央にヘソ状の窪みと僅かに膨らむ部分がある、外面は平底気味／内面は薄っすら煤け、外面は口縁を中心に部分的に煤ける、黒彩と判断した	内面：口縁部は横ナデ、以下ヘラナデ、／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り、底面に弧線状痕が見られる	砂粒・小石・角閃石細粒を含む	にぶい橙色を基調とする
第28図25 図版14-25	土師器 坏	完形	口11.7 高4.4	第28図28の上に重なる	有段坏／口縁部と底部の境に小さな段をもつ／口縁部はほぼ直立／内外面底部付近以外と全面が薄く煤けた黒彩となる	内面：口縁部から頸部付近まで横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・金雲母を含む	にぶい褐色
第28図26 図版14-26	土師器 坏	完形	口9.6 高3.5	Ｐ３とＰ８の間床面上 北側覆土中	口縁部と底部のの境にヘラ削りによる稜を形成する／口縁部は外傾する／内面と外面の一部が煤ける黒彩の部分と底部の一部が赤採される混在タイプ／在地系の金属器模倣坏か	内面：口縁部は横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・金雲母と僅かに小石を含む	にぶい橙色
第28図27 図版14-27	土師器 坏	完形	口9.5 高2.9	炉とＰ３の間床面上	口縁部と底部の境は稜による／口縁部は外傾する／底部は丸底となる／内面と外面の一部が薄っすらと赤斑状になる／在地系	内面：口縁部横ナデ後ミガキ。以下ヘラナデ、底部周辺横位ミガキ／外面：口縁部横なで後ミガキ。以下ヘラ削り	砂粒・小石・茶褐色粒子、角閃石細粒を含む	にぶい橙色
第28図28 図版14-28	土師器 坏	完形	口10.9 高4.3	炉とＰ３の間床面上	口縁部と底部の境は稜による／口縁部は外傾する／底部は丸底となる／外面の一部が薄っすらと黒斑状及び赤斑状となる／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・小石・金雲母・角閃石細粒を含む	内面外面：橙色 外面に黒斑有り
第28図29 図版14-29	土師器 坏	完形	口11.4 高7.1	貯蔵穴付近覆土中	口縁部と体部の境はほぼ見られず、調整により区別される／口縁部は直線的に外反する／底部は丸底風となる／口縁部外面下に粘土紐が見られる／内面の一部に赤斑状の痕跡が見られる、外面の一部に黒斑状に煤ける部分と薄っすらと赤斑される部分が見られる／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ後、部分的に仕上げに磨きが施される／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後、口縁部上端を中心にミガキを施す	砂粒・小石・金雲母・角閃石細粒を含む	にぶい橙色を基調とする
第28図30 図版14-30	土師器 坏	90%	口11.3 高5.0 底5.5	炉付近覆土中	口縁部と体部の境は僅かに段をもつ／口縁部は直立する／体部は外傾して立ち上がる／底部は平底風となる／内面中央が出べそ状盛り上がる／外面の一部に薄く赤化した部分がある／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後ミガキ	砂粒・小石・茶褐色粒子、角閃石細粒を含む	にぶい黄橙色を基調とする
第28図31 図版14-31	土師器 坏	40% (器体に歪みがあるか)	口12.3 高6.0 底3.8	中央から西側覆土中に散在	口縁部と体部の境は僅かに稜をもつ／口縁部は外反する／体部は外傾して内湾気味に立ち上がる／底部は平底となる／内外面部分的に煤ける。	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り	砂粒・小石・角閃石細粒を含む	橙色を基調とする
第28図32 図版14-32	土師器 坏	60%	口11.4 高7.0	南コーナー覆土中	口縁部と体部の境は稜による／口縁部は直立し、上端は緩やかに外反する／底部から体部は丸底風となる／外面の一部に黒斑状に煤ける／在地	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後部分的なミガキを施す	砂粒・小石・茶褐色粒子、角閃石細粒を含む	にぶい黄橙色を基調とする
第28図33 図版14-33	土師器 坏	70%	口10.5 高8.8 底3.8	東側覆土中	口縁部と体部の境は稜による／口縁部は内傾する／体部は丸みをもって立ちあがる／底部は平底となる	内面：口縁部下まで横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り、一部ミガキが見られる	砂粒・小石・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする
第28図34 図版14-34	土師器 坏	完形	口9.8 高3.8	Ｐ３とＰ８の間床面上 北側覆土中	口縁部と底部の境は調整の別による／口縁部は直立する／底部は丸底となる／内面の一部に最終段階のナデによる補修痕跡／畿内系暗文土器	内面：口辨内側は小さく内傾、口縁部横位ミガキ後、口辨以下を中心に放射状暗文磨き、／外面：口縁部横ナデ後ミガキ、以下指頭押捺による成形痕	砂粒・小石を含む	橙色
第29図35 図版15-35	土師器 鉢	40%	口24.4 高13.0 底7.5	中央から南側ほぼ床面上	体部下半から口縁部にかけて緩やかに開き、口縁部は外反する／底部に木葉痕	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面はヘラ削り／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後部分的にナデ（スリップか）	砂粒・小石・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする
第29図36 図版15-36	土師器 丸甕	40%	口20.8 高29.5	西側床面上から覆土中に散在	胴部上半に最大径を持ち口縁部は「コ」の字状／在地系	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面はヘラ削り後上部は横方向、中位付近は縦又は斜位にナデ（スリップか）後ミガキ、遺存する下部は削りのまま	砂粒・小石・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする

第８表　76号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第29図37 図版15-37	土師器 甕	60%（口縁部は欠損が大きい）	口16.4 高37.5 底6.0	炉付近覆土中	復元実測では胴部中位付近に最大径を持ち、口縁部は外反する／底部に木葉痕／外面中位から底部にかけて部分的に煤ける／在地系	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面はヘラ削り後上部は縦位中位以下は粗く斜位にナデ	砂粒・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする
第29図38 図版15-38	土師器 甕	30%	口20.7 高[19.5]	西側P３付近覆土中	胴中位以下を欠失するが口縁部に最大径をもつと想定され、口縁部は大きく外反する／在地系	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面はヘラ削り後ナデ（スリップか）	砂粒・小石・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする
第29図39 図版15-39	土師器 甕	30%	口20.8 高[15.0]	東側と西側覆土中に散在	胴中位以下を欠失するが口縁部に最大径をもつと想定され、口縁部は大きく外反する／在地系	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面はヘラ削り後頸部下は横位ナデ、中位付近は縦方向のナデ（スリップか）、その後にミガキか	砂粒・小石・金雲母・角閃石細粒含む	胎土はにぶい橙色を基調とする
第29図40 図版15-40	土師器 甕	20%	口20.8 高[15.1]	P２・P７付近覆土中	胴中位以下を欠失するが口縁部に最大径をもつと想定され、胴部は遺存する上半がやや膨らむ、口縁部は大きく外反する／在地系	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面はヘラ削り後斜位ナデ	砂粒・小石・茶褐色粒子・角閃石細粒含む	胎土はにぶい橙色を基調とする
第29図41 図版15-41	土師器 甕	10%	口20.8 高[15.2]	西側P３付近覆土中	胴中位以下を欠失するが口縁部に最大径をもつと想定され、胴部は遺存する上半が僅かに膨らみ底部に向かってつぼまる、口縁部は大きく外反する／遺存する外面胴部は黒彩の可能性もある／在地系	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ、外面は縦位ヘラ削り後ナデ、その後横位のミガキか	砂粒・小石・茶褐色粒子・金雲母・角閃石細粒含む	外面：褐灰色 内面：にぶい褐色
第30図42 図版15-42	土師器 甑	75%	口32.8 高30.9 底11.6	中央付近床面上～床下	筒抜け式／口縁部に最大径をもち、胴部は上半が僅かに膨らみ緩やかにすぼまる、口縁部は若干くの字状に屈曲して外反する／外面は大きく黒斑する部分と橙斑する部分が見られる	口縁部内外面：横ナデ、以下内面はヘラナデ後中下位以外をミガキ、外面はヘラ削り後ナデ、その後上半を中心に所々ミガキ	砂粒・小石・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする
第30図43 図版15-43	土製品 支脚	80%（詳細は不詳）	—	東側覆土中	支脚／現存高14.7cm・下底径9.0cm／中心部は下部まで穿孔される／底面は部分的に薄く剥離し僅かに木葉状の痕跡が確認される／外面は薄っすらと白味を帯びる	表面は全面指頭痕がみられ中央付近は手で握ったような痕跡である	砂粒・金雲母・角閃石細粒含む	にぶい橙色を基調とする
第30図44 図版15-44	石製品 磨石	—	—	P３とP７の間床面上	長さ17.9cm・幅4.8cm・厚さ5.6cm・重さ795.0g／全体に磨り痕がみられ頂部に敲打痕、基部周辺を中心に凹	—	砂岩	—

第８表　76号住居跡出土遺物一覧（３）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第33図１ 図版16-1-1	須恵器 坏	胴部～底部破片	高[1.5] 底7.5	南側覆土中	内底面中心部は強く窪む／東金子窯製品か	ロクロ成形／底面に糸切り離し痕が残る	砂粒・橙色粒子・小石少量含む	にぶい橙色
第33図２ 図版16-1-2	須恵器 坏	口縁部破片	高[3.9] 厚0.5	覆土中	口縁は直線的／東金子窯製品か	ロクロ成形／胴部内面のロクロ目が顕著に見られる	砂粒・褐色土粒	橙色
第33図３ 図版16-1-3	土師器 甕	口縁部～胴部破片	口(29.6) 高[9.9]	東側床面上	口縁は強く屈曲し、口唇端面は１段窪み、下端がやや張り出す／胴部はなだらかに膨らみ最大径を測る／常陸または常総型	口縁内外面横位ナデ、以下内面は横位ヘラナデ、外面はヘラ削り後縦位・斜位のヘラナデ／内外面に指頭圧痕が多数観察される	砂粒・白色・赤褐色粒子含む	にぶい橙色

第９表　81号住居跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第37図１ 図版16-2-1	須恵器 蓋	80%	口15.8 高4.3	北側床面上に散在	口縁は波状に歪む／鈕は擬宝珠形で、１／４程度欠損／口縁端部は僅かに内湾する／外面の胴部中位に「山田二」の墨書／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は左回転／鈕周辺はヘラ削り調整	砂粒多量・小石少量含む	浅黄橙色
第37図２ 図版16-2-2	須恵器 蓋	60%	口15.7 高3.7	北側床面上	鈕は扁平な擬宝珠形で、口縁端部は僅かに内湾／東金子窯製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は左回転／天井外面に糸切痕が残り、周辺の肩部にヘラ削り調整	砂粒・白色粒子多量、小石わずかに含む	灰黄色
第37図３ 図版16-2-3	土師器 甕	口縁部～胴部片	口17.8 高[15.3]	カマド内覆土中	口縁は強く外反、胴部上方は口縁と同値であり、最大径を測る／外面に薄っすら煤付着／武蔵型	口縁内外面は横位ナデ以下横位ヘラナデ、外面は斜位ヘラ削り	砂粒・石英・雲母・茶褐色粒含む	にぶい赤褐色
第37図４ 図版16-2-4	土師器 甕	口縁部破片	口20.8 高[7.0]	53P付近床面上	口縁は外反し、胴部との境に弱い稜を有する／いわゆる武蔵型	口縁内外面は横位ナデ、外面には横位の連続した刻みが残る／以下内面は横位ヘラナデ、外面は横位ヘラ削り	砂粒・石英・雲母含む	灰褐色

第10表　82号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第37図５ 図版16-2-5	土師器 甕	口縁部破片	口13.0 高[4.9]	53P付近床面上	口縁は緩やかに外反する／口縁と胴部の間に弱い稜を有する／いわゆる武蔵型	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ヘラナデ、外面は横位ヘラ削り／いわゆる武蔵型	砂粒・石英・雲母含む	にぶい橙色
第37図６ 図版16-2-6	土師器 甕	底部破片	高[8.9] 底4.6	カマド正面覆土中	底部から胴部は直線的に外傾し、上方は内湾気味に立ち上がる	内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後ナデ／いわゆる武蔵型	砂粒・茶褐色粒多量含む	にぶい褐色
第37図７ 図版16-2-7	鉄製品 刀子か	全形	－	西側壁溝内床下	長さ13.8cm・幅1.4cm・厚さ0.6cm・重さ12.2g／全面錆に覆われ、部分的に錆ぶくれも目立つ／刀身と茎の断面は長三角形、茎の断面は長方形である	－	－	－

第10表　82号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第42図１ 図版16-3-1	須恵器 蓋	天井部～口縁部15%	高[2.5] 底18.8	南コーナー床面上	天井から口縁にかけ僅かに弓なりに成形され、口縁端部は直角に垂下する／東金子窯製品	ロクロ成形／天井部はヘラ削り調整	白色砂粒多量含む	内面：黄灰色 外面上部：灰黄褐色 下部：黒褐色
第42図２ 図版16-3-2	須恵器 坏	底部片	高[1.1] 底6.4	カマド正面覆土中	胴部は緩やかに立ち上がる／南比企製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に糸切り離し痕が僅かに残り、外周はヘラ削り調整／底面に粘土の削り屑が付着	砂粒多量、石英・白色針状物質含む	灰白色
第42図３ 図版16-3-3	須恵器 坏	完形	口(11.8) 高4.0 底6.8	南側壁溝付近覆土中	胴部は僅かに内湾しつつ外傾する／口辨内側がやや薄く調整される／胴部から底面にかけ火襷が見られる／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に糸切り離し痕が残り、外周はヘラ削り調整	細礫を少量含む	灰黄色
第42図４ 図版16-3-4	須恵器 坏	口縁部～底部30%	口12.3 高3.9 底7.0	西側壁溝付近覆土中	胴部は直線的に外傾し、口縁部は僅かに外反する／内底面に煤付着／南比企製品／H－Ⅳ期	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に糸切り離し痕が残り、外周はヘラ削り調整	白色砂粒多量、白色針状物質含む	灰オリーブ色
第42図５ 図版16-3-5	須恵器 坏	底部片	高[1.0] 底7.2	西側覆土中	胴部は底面から緩やかに立ち上がる／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に糸切り離し痕が残り、外周はヘラ削り調整が２段にわたり施される	砂粒・小石含む	灰白色
第42図６ 図版16-3-6	須恵器 坏	口縁部～底部片	口11.8 高3.6 底6.8	中央覆土中	胴部はやや腰が張り、直線的に外傾する／底部は平底／東金子窯製品	ロクロ成形／底面に糸切り離し痕が残る	砂粒・白色粒多量、小石少量含む	灰色
第42図７ 図版16-3-7	須恵器 甕	胴部～底部破片	高[9.8] 底(9.1)	南側覆土中と床面上	ロクロ成形／底面外周にヘラ削り調整痕が残る／東金子窯製品	胴部内面にヘラナデと多数の指頭圧痕が見られる／外面下部にも指頭圧痕／内外面共に自然釉が付着、特に外面は艶がある	砂粒・白色粒多量、小石わずかに含む	外面：オリーブ黒色 内面：灰色
第42図８ 図版17-1-8	土師器 台付甕	口縁部～胴下部片	高13.1 底[13.2]	カマド右袖付近床面上	口縁は緩やかに外反する／胴部中央部で最大径を測る／胴部外面に煤付着／いわゆる武蔵型	口縁部内外面横位ナデ、以下内面は横位ヘラナデ、外面は胴上部に横位ナデと指頭押圧が施され、下部は斜位のヘラ削り	細粒砂・白色砂粒含む	外面：褐色 内面：暗褐色
第42図９ 図版17-1-9	土師器 甕	口縁部～底部80%	口20.7 高27.1 底3.9	カマド内及びカマド周辺と南側覆土中と床面上に散在	口縁部で最大径を測る長胴甕／口縁は緩やかに外傾し、端部は僅かに内湾／胴部中位は丸みをもち、下位でやや括れて底部に至る／胴部外面に煤付着／いわゆる武蔵型	口縁部内外面横位ナデ、以下内面横位ヘラナデ、外面は縦位・斜位のヘラ削り後ナデ調整	細粒砂・長石・雲母含む	橙色
第42図10 図版17-1-10	土師器 甕	口縁部～胴部片	口13.5 高[8.1]	南東側床面上	口縁は緩やかな「コ」の字形を呈す／胴部は丸みが強く、中央付近で最大径を測る／内外面に煤付着／いわゆる武蔵型	口縁内外面は横位ナデ、外面には連続した２段の指頭圧痕も見られる／以下内面は横位のヘラナデ、外面は横位→斜位のヘラ削り	砂粒・石英・雲母多量含む	暗赤褐色
第42図11 図版17-1-11	土師器 台付甕	口縁部片	口10.4 高[3.3]	南東側覆土中	小ぶりの台付甕／口縁は中位で強く屈曲し、外傾する／いわゆる武蔵型	口縁部内外面横位ナデ、内面に粘土接合痕が明瞭に残り、外面には強いヘラナデが見られる／以下内面は丁寧なナデ、外面は横位のヘラ削り	砂粒・石英・雲母・白色粒子含む	暗赤褐色
第42図12 図版17-1-12	土師器 台付甕	脚台接合部	高[5.8]	南側と北側床面上に散在	胴部は僅かに内湾しつつ立ち上がる／いわゆる武蔵型	内面は縦位のヘラナデ後丁寧なナデにより艶がある／外面は斜位のヘラ削り後、脚部との境目付近に横位ナデが施される	細粒砂少量、石英・角閃石わずかに含む	外面：明赤褐色 内面：黒褐色
第42図13 図版17-1-13	土師器 台付甕	脚台部	高[3.6] 底(9.3)	南側と南東側床面上	裾部は下方で大きく開く／底面と裾部の器壁は薄い／いわゆる武蔵型	内面は斜位の丁寧なナデ、外面は胴部との境に１条の沈線を巡らせ、以下は縦位のナデ	細砂粒少量、赤褐色粒子含む	にぶい赤褐色
第42図14 図版17-1-14	土師器 甕	胴下部～底部片	高[5.5] 底5.0	カマド内覆土中から煙道上	胴部は直線的に外傾し、底部は丸みをもつ／いわゆる武蔵型	内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位の粗いヘラ削り	砂粒多量、雲母少量含む	外面：にぶい褐色 内面：にぶい橙色

第11表　83号住居跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第46図1 図版17-2-1	須恵器 坏	胴部～底部破片	高[1.9] 底5.8	カマド内覆土中	体部はわずかに内湾する／内底面中央はやや窪む／新聞紙製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部には回転糸切痕が残る	雲母・砂粒含む	橙色
第46図2 図版17-2-2	須恵器 坏	底部破片	高[1.1] 底4.9	中央よりやや南側床面上	胴部は外反し、底面はやや上げ底状／新聞紙製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部には回転糸切痕が残る	小石・砂粒・石英含む	にぶい褐色
第46図3 図版17-2-3	須恵器 坏	底部破片	高[1.6] 底5.2	覆土中	内底面の外縁は浮む／内底面の調整からいわゆる「円柱造り」との関連を思わせる／新聞紙製品か	ロクロ回転は右回転／内底面・底部共に回転糸切痕が残る／底面に「×」字状の墨記号が見られる	砂粒・白色粒子含む	にぶい黄橙色
第46図4 図版17-2-4	須恵器 坏	底部破片	高[1.2] 底5.8	覆土中	内底面の外縁は浮む／新聞紙製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部は糸切痕が残る	砂粒・赤色粒子含む	にぶい橙色
第46図5 図版17-2-5	土師器 甕	口縁部～胴部破片	□9.7 高[5.9]	東側間溝上層覆土中	口縁は直線的に外傾し、口縁部でさらに外反／口縁部で最大径を測る／胴部は上方が張り出す／外面は横ほういわゆる武蔵型	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ後、損傷による亜痕が見られ、外面は縦位のヘラ削りが粗く施される	砂粒・雲母含む	外面：黒褐色 内面：にぶい黄橙色
第46図6 図版17-2-6	土製品 土錘	完形	—	覆土中	長さ1.8 cm・幅0.8 cm・孔径0.1 cm・重さ1.4g／長楕円形／本体に対して斜位に穿孔される	表面は滑らかに調整される	砂粒少量含む	灰褐色

第12表　84号住居跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第53図1 図版17-3-1	須恵器 蓋	縁～天井部片	高[2.7]	南西コーナー付近覆土中	扁平な擬宝珠状の摘貼付／東金子製製品	ロクロ整形、天井部周辺をヘラ削り調整	砂粒含む	浅黄色
第53図2 図版17-3-2	須恵器 坏	75%	□12.5 高4.9 底6.0	中央付近覆土中	胴部は緩やかに内湾しつつ外傾／口縁部はさらに外反し、歪みが強い／胴部外面に「万」の墨書が見られる／東金子製製品	ロクロ回転は右回転／底部は糸切痕が残る	砂粒・小石含む	黄灰色
第53図3 図版17-3-3	須恵器 坏	口縁～底部片	□11.9 高3.6 底6.7	カマド左前方覆土中	体部は僅かに内湾しつつ外傾する／口縁内面に沈帯の痕跡が観察される／東金子製製品	ロクロ回転は右回転／底面に糸切痕が残る	小石・砂粒・黒色粒子含む	黄灰色
第53図4 図版17-3-4	須恵器 坏	70%	□11.4 高3.9 底5.6	北西側床下	口縁は強く外反する／胴部の稜が目立つ／内外面に薄く煤が付着／南比企製品／H～U層期	ロクロ回転は右回転／底部は回転糸切痕が残る	砂粒・白色針状物質含む	黄灰色
第53図5 図版17-3-5	須恵器 坏	口縁～底部片	口(13.4) 高4.2 底(5.0)	カマド1左袖付近覆土中	器壁は薄い／、胴部は大きく外傾し、口縁でさらに外反する／口縁部の一部に自然釉付着／東金子製製品	ロクロ回転は右回転／底面は回転糸切痕が残る	白色粒子含む	灰色
第53図6 図版17-3-6	須恵器 坏	胴～底部破片	高3.2 底6.5	中央付近覆土中	胴部はわずかに内湾しつつ外傾する／東金子製製品	ロクロ回転／底面には糸切痕が残る	砂粒・白色粒子多量含む	オリーブ灰
第53図7 図版17-3-7	須恵器 蓋	口縁～頂部破片	□17.3 高[3.2]	地床炉付近覆土中	口縁部は強く外反し、口辺部は摘み出されるように整形される／東金子製製品	内外面横位ナデ	小石・砂粒含む	灰黄色
第53図8 図版17-3-8	須恵器 長頸壺	頸部破片	高[7.5]	カマド2前方周辺覆土中	頸部は緩やかに外傾する／外面中位に2本の平行沈線が巡る／東金子製製品	ロクロ回転は右回転／内外面横位ナデ	白色砂粒・小石含む	灰色を基調とする
第53図9 図版18-1-9	須恵器 甕	口縁～頸部破片	□34.6 高[7.2]	炉付近覆土中	頸部は直線的に外反する／口辺上下端部は鍛角／外面は自然釉がかかり艶がある／東金子製製品	内外面はナデ調整される	砂粒多量・小石含む	暗オリーブ灰
第53図10 図版18-1-10	須恵器 甕	頸部破片	高4.0 厚1.2	南側覆土中	頸部は外傾する／東金子製製品か	ロクロ成形／内外面横位ナデ／外面は7本以上の櫛描による波状文が施される	白色・褐色粒子多量含む	黄灰色
第53図11 図版18-1-11	須恵器 甕	底部破片	高[2.2] 厚1.5	中央より東側覆土中	胴部に向かって緩やかに立ち上がる／南比企製品	ロクロ成形／内面は自然釉がザラメ状に付着／外面は横位ナデ	砂粒・白色針状物質・白色粒子含む	外面：オリーブ黒 内面：灰褐色
第53図12 図版18-1-12	須恵器 甕	胴～底部破片	高[4.0] 底12.5	カマド1右袖付近覆土中	胴部は直線的に外反する	内面は横位ナデ、外面は横位ナデ後、叩き目が格子状に施される	砂粒・白色粒子多量含む	にぶい黄褐色
第53図13 図版18-1-13	灰釉 手付小瓶	口縁～肩部破片	口4.2 高3.9	中央より東側覆土中	口縁は緩やかに外反し端部で強く外反する／頸部は中ほど1カ所に把手の欠損が見られる	口縁内面と外面に灰釉が施される	砂粒含む	灰オリーブ
第53図14 図版18-1-14	土師器 甕	口縁～頸部破片	口18.8 高[5.0]	炉内及び北側床面上に散在	口縁は「コ」の字形に外反する／外面に煤付着／いわゆる武蔵型	口縁部内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面は横位ヘラケズリ調整	砂粒多量含む	にぶい赤褐色
第53図15 図版18-1-15	土師器 甕	口縁～頸部破片	□19.8 高5.0	南東コーナー覆土中	口縁は「コ」の字形に強く外反する／外面に煤付着／いわゆる武蔵型	口縁～頸部まで内外面は横位ナデ、外面には指頭圧痕が連続して施される	砂粒多量含む	橙
第53図16 図版18-1-16	土師器 台付甕	脚部破片	高2.0 底8.3	南側覆土中	「ハ」の字状で、裾部はさらに開く／内面の中心付近にまだらに油膜が付着	内外面横位のナデ	砂粒少量含む	にぶい赤褐色

第13表　85号住居跡出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第53図17 図版18-1-17	鉄製品	不明	—	覆土中	器種不明／長さ4.7cm・幅4.4cm・厚さ0.4cm・重さ5.5g／弧線が交差した形状／３方は先端が欠損	断面は扁平な四角形	—	—
第53図18 図版18-1-18	鉄製品	全形	—	覆土中	針状の製品／長さ3.7cm・幅0.5cm・厚さ0.2cm・重さ1.1g／上方から下方に向かって細くなる	中位の断面は台形	—	—

第13表　85号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第62図１ 図版18-2-1	須恵器 蓋	口縁部～天井部破片 20%	口10.6 高4.1	地床炉１付近覆土中	口縁部は内湾しながら垂下する／口縁部外面に僅かに自然釉が付着する／湖西産、Ⅳ・２後期	ロクロ成形／ロクロ回転は左回転／天井部外面は回転ヘラ削り調整	黄褐色粒子・黒色粒子含む	黄灰色
第62図２ 図版18-2-2	土師器 坏	70%	口11.6 高3.8 底11.1	Ｐ７付近と北西側覆土中	いわゆる比企型坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁はやや外反する／内外面赤彩／入間系土師器	口縁内外面は横位ナデ、以下内面はナデ、外面は粗いヘラ削り	砂粒・小石多量含む	橙色
第62図３ 図版18-2-3	土師器 坏	80%	口10.8 高3.6	Ｐ８付近覆土中に散在	いわゆる比企型坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁は直立し、口縁内面に浅い沈線を１条巡らせる／内外面赤彩／入間系土師器	口縁内外面横位ナデ、以下内面はナデ、外面はヘラ削り後、稜直下に指頭圧痕が連続して施される	砂粒・小石含む	赤褐色
第62図４ 図版18-2-4	土師器 坏	80%	口10.8 高3.5	炉１周辺と北側覆土中	いわゆる比企型坏／口縁と底部の間に明瞭な稜を有する／口縁は直立気味に開き、口唇内側に沈線を１条巡らせる／内外面は赤彩で、底面の８割が黒彩／入間系土師器	口縁部内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	小石・砂粒・橙色粒子含む	赤褐色
第62図５ 図版18-2-5	土師器 坏	70%	口10.5 高3.4	東側と北側覆土中	いわゆる比企型坏／口縁と底部の間に明瞭な稜を有する／口縁は外反しつつ直立／内面と外面底部以外の部分に赤彩	口縁内外面は横位ナデ、口唇内面に幅約１mmの沈線がめぐる／以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り後ナデ	砂粒・小石わずかに含む	赤褐色
第62図６ 図版18-2-6	土師器 坏	80%	口13.4 高5.1 底8.0	北西コーナーからＰ７付近覆土中	いわゆる続比企型坏／深身のもの／底部から口縁まで丸みをもって立ち上がり、口縁は短く直立／口縁内側に１条沈線を巡らせる／内外面赤彩	口縁内外面横位ナデ、以下内面は丁寧なナデ、外面はヘラ削り	砂粒・赤色粒子含む	赤褐色
第62図７ 図版18-2-7	土師器 坏	50%	口11.4 高3.7 底9.9	Ｐ６付近覆土中	有段口縁坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁は厚みを持って外傾し、口唇部はさらに外反する／内外面は煤けているため黒彩と思われる／在地系	口縁内外面横位ナデ、以下内面ナデ、外面はヘラ削り調整と見られるが、器壁の剥落が著しく、図化は困難である	砂粒・石英含む	赤褐色
第62図８ 図版18-2-8	土師器 坏	80%	口10.6 高4.0	Ｐ８付近覆土中	有段口縁坏／口縁と底部の間に明瞭な稜を有する、口縁外面中ほどに２本の沈線を巡らせる／内外面黒彩／在地系	口縁内外面横位ナデ／以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	砂粒・石英含む	褐灰色
第62図９ 図版18-2-9	土師器 坏	25%	口8.8 高2.4 底5.1	Ｐ３内覆土中	有段坏／口縁と底部の間に明瞭な稜を有する／口縁外面は膨らみを持ち、やや内湾しつつ外傾する／内外面黒彩／在地系	口縁内外面横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	砂粒・石英多く含む	にぶい橙色
第62図10 図版18-2-10	土師器 坏	80%	口9.7 高3.0 底5.7	中央から南側覆土中に散在	有段坏／底面と口縁の間に稜を有する／口縁はやや厚みがあり、直線的に外傾する／内外面黒彩／在地系	口縁内外面横位のナデ、以下内面は横位のナデ、外面はヘラ削り	砂粒多量に含む	外面：にぶい褐色 内面：黒褐色
第62図11 図版18-2-11	土師器 坏	略完形	口10.1 高3.2 底9.0	カマド左袖側と炉１付近覆土中	有段坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁は厚みを持ち、直線的に外傾する／内外面黒彩／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	砂粒多量、小石わずかに含む	にぶい橙色
第62図12 図版18-2-12	土師器 坏	口縁部～底部破片 50%	口10.0 高3.0	Ｐ３付近覆土中	有段坏／口縁と底部の間に明瞭な稜を有し、口縁中ほどに１条の沈線を巡らせる／口縁は直線的に外反／内外面はうっすら煤けており、黒彩と思われる／在地系	口縁内外面横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	砂粒多量含む	にぶい褐色
第62図13 図版18-2-13	土師器 坏	75%	口11.6 高3.5 底10.0	Ｐ２付近覆土中	有段坏／口縁と底部の間に明瞭な稜を有する／口縁は直線的に外傾する／外面口唇下部に１条の沈線を巡らせる／内外面は薄く煤けているため黒彩と思われる／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	砂粒多量・石英含む	にぶい橙色
第62図14 図版18-2-14	土師器 坏	75%	口11.1 高3.9	炉１とＰ３の間粘土上	有段坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁部は直線的に外傾する／内外面黒彩／在地系	口縁部内外面横位ナデ以下内面ナデ、外面ヘラ削り	砂粒・石英多量含む	外面：にぶい橙色 内面：暗赤褐色
第62図15 図版18-2-15	土師器 坏	50%	口11.3 高4.1	北東側覆土中に散在	有段坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁は僅かに内湾しつつ外傾する／内外面は薄く煤けているため黒彩と思われる／在地系	口縁内外面横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り後ナデ	砂粒・白色粒子多く含む	にぶい橙色

第14表　86号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第62図16 図版18-2-16	土師器 坏	□縁部～底部 破片	□11.7 高4.0	炉１とP３の間 覆土上	有段坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁部は直線的に外傾する／全体が偏けているため内外面黒彩であろう／在地系	□縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り後ナデ	砂粒やや多く、石英・金雲母含む	橙色
第62図17 図版19-17	土師器 坏	75%	□11.2 高3.9	北側覆土中に散在	有段坏／口縁部と底部の間には稜を有する／口縁は厚みがあり、強く外反する／内外面黒彩／在地系	□縁内外面横位ナデ、以下内面はナデ、外面は粗めのヘラ削り	砂粒・石英含む	外面：にぶい橙色 内面：オリーブ黒
第62図18 図版19-18	土師器 坏	75%	□12.1 高4.0	西側と東側覆土中に散在	有隆坏／口縁から底部までなだらかに移行／口縁部は僅かに外反する／内外面黒彩／在地系	□縁内外面横位のナデ、以下内面は横位のナデ、外面は粗いヘラ削り後ナデ	砂粒多量、小石わずかに含む	にぶい橙色
第62図19 図版19-19	土師器 坏	□縁部～底部 30%	□12.4 高3.9	中央から東側覆土中に散在	有段坏／口縁と底部の間に弱い稜を有する／口縁は直線的に外傾する／内外面とも僅けているところから黒彩と思われる／在地系	□縁内外面横位のナデ、以下内面は横位のナデ、外面はヘラ削り	砂粒多量に含む	灰褐色
第62図20 図版19-20	土師器 坏	75%	□12.0 高4.4	P７付近と貯蔵穴付近覆土中と床面上	有段坏／口縁部と底部の間には稜を有する／口縁は直線的に外反する／内外面とも僅けていることから黒彩と思われる／在地系	□縁内外面横位ナデ、以下内面は丁寧な横ナデ、外面は粗いヘラ削り後ナデ	砂粒多量、白色粒を少量含む	にぶい橙色
第62図21 図版19-21	土師器 坏	70%	□12.8 高4.9	カマド右袖上粘土上	有段坏／口縁部と底部の間には稜を持ち、口縁部は僅かに外反する／口縁端部は歪む／内外面はうっすら僅けているため黒彩であろう／在地系	□縁部内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面はヘラ削り	砂粒多量含む	橙色
第62図22 図版19-22	土師器 坏	70%	□14.3 高4.5	北西側覆土中に散在	有段坏／口縁と底部の間に稜を有する／口縁部は直線的に大きく開き、口界部はさらに外反する／内外面黒彩／在地系	□縁内外面は横位ナデ、以下内面は丁寧な横ナデ、外面は粗いヘラ削り後ナデ	砂粒多量、赤褐色粒子少量含む	外面：灰褐色 内面：にぶい赤褐色
第62図23 図版19-23	土師器 坏	80%	□18.9 高4.9	P６付近覆土中	有段坏／深身のもの／口縁部との境には稜を有し、口縁部は中央内傾／内外面黒彩／在地系	□縁内外日は横位ナデ、以下内面は横位ナデ後指頭圧痕が残り、外面は縦かたへラ削りで丸みが調整される	砂粒多量含む	にぶい橙色
第62図24 図版19-24	土師器 坏	□縁部～底部 (略完形)	□10.8 高5.0	炉１付近覆土中	深身のもの／口縁から底部へ丸みを帯びて内湾し、口界部は外反する／口縁から胴部はやや歪む／内外面黒彩／在地系	□縁内外面は横位ナデ、以下へラナデ／外面は横位ナデ、以下へラ削りが強まれ、端日には指頭による圧痕が連続して見られる	砂粒少量、石英・雲母・角閃石わずかに含む	にぶい橙色
第62図25 図版19-25	土師器 坏	□縁部～底部 30%	□11.6 高5.0 底4.9	P６付近覆土中に散在	深身のもの／口縁部は直線的に外傾し、口界部でさらに外反する／底部は平底／口縁部はやや歪む／内外面黒彩／在地系	内面は横位ナデ／外面は横位ナデ後、縦・横・斜位の細かな磨き調整が外面下方を中心に施される	小石・砂粒・石英含む	にぶい橙色
第62図26 図版19-26	土師器 坏	□縁部～底部	□14.0 高7.1	炉１上及び付近覆土中	深身のもの／口縁は外反し、底部との境に弱い稜を有する／内外面黒彩／在地系	□縁内外面は横位のナデ、以下内面は丁寧なナデ、外面はヘラ削り後横・斜位のヘラナデ／稜付近には指頭圧痕も見られる	砂粒多量、石英・金雲母わずかに含む	にぶい橙色
第62図27 図版19-27	土師器 坏	□縁部～底部	□13.9 高6.9	炉１上及び付近覆土中	深身のもの／口縁は外反し、底部との境に弱い稜を有する／内外面黒彩／在地系	□縁内外面は横位のナデ、以下内面は横位の丁寧なナデ、外面はヘラ削り後横・斜位のヘラナデ	砂粒多量、石英わずかに含む	内面は灰褐色で、外面はにぶい橙色
第62図28 図版19-28	土師器 器台	胴部～脚台部片	高[3.8] 底7.5	炉１付近粘土上	脚裾部は大きく歪み、脚部は短く直立する／胴部は内湾しながら立ち上がる	胴内面はナデと指頭圧痕が多く見られ、外面は横・斜位のヘラナデ／底面には粗い縦と目の調整痕が顧著される	砂粒多量、赤褐色粒少量含む	にぶい橙色
第62図29 図版19-29	土師器 坏	□縁部～胴部	□17.0 高[5.3]	P７の付近覆土中	有段坏／口縁は強く外反し、胴部との境に明瞭な稜を有する／外面黒彩	□縁部内外面横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面は横位ヘラ削り	砂粒多量含む	内面：にぶい橙色 外面：オリーブ黒色
第62図30 図版19-30	土師器 鉢	略完形	□23.1 高14.9 底10.3	中央から東側及びP１覆土中に散在	胴部はやや扁平気味に潰れ、口縁も歪む／口縁は外反し、胴部との境に弱い稜を有する／内外面僅付着	□縁内外面横位のナデ□縁外面に指頭圧痕も見られる／以下内面は斜位のヘラナデ／外面は胴部に斜位のヘラ削り後、ヘラ磨き調整／底部付近は横位のヘラ削り	砂粒・石英多量含む	にぶい赤褐色
第62図31 図版19-31	土師器 甕	□縁部～胴部片	□12.0 高[7.1]	東側覆土中に散在	胴部上方で最大径を測る小型の丸甕／口縁は緩やかに外反し、歪む／外面に薄く僅付着／在地系	□縁内外面横位ナデ、以下内面は斜位のヘラナデ、外面はヘラ削り後斜位のヘラナデ	砂粒多く含む	橙色
第63図32 図版19-32	土師器 甕	□縁部～底部片 50%	□18.2 高14.5 底8.0	中央から南西側覆土中に散在	口縁部で最大径を測る小型の丸甕／口縁内側が肥厚し、外反する／外面に薄く僅付着／在地系	□縁部内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面は斜位のナデ	砂粒多量含む	橙色
第63図33 図版19-33	土師器 甕	□縁部～胴部片	□20.5 高[25.9]	中央から北側覆土中と床面上に散在	胴部中央で最大径を測る丸甕／口縁は外反する／内外面僅付着／在地系	□縁内外面は横位ナデ／以下内面は縦・横位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後、縦・横位の丁寧なヘラナデ	砂粒・石英多量、白色粒少量含む	にぶい赤褐色
第63図34 図版19-34	土師器 甕	□縁部～底部片 50%	□18.5 高32.0 底11.2	北側及びP１・P７覆土中と床面上に散在	胴部で最大径を測る丸甕／底面は丸み を持つ／在地系	□縁内外面は横位ナデ／以下内面は縦位のヘラナデ後斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後、縦・斜位のナデ（スリップ）／底部周辺には指頭圧痕も見られる	砂粒多量含む	にぶい橙色

第14表　86号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第63図35 図版19-35	土師器 甕 (丸底)	口縁部破片	□21.3 高[14.0]	P 8付近覆土中	胴部で最大径を測る丸底／口縁は外反する／外面に濃く煤付着／在地系	□縁内外面は横位ナデ／以下内面は縦・斜位のヘラナデ、外面は横・斜位のヘラ削り後丁寧なナデ	砂粒・石英多量含む	内面：にぶい橙色 外面：黒褐色
第63図36 図版19-36	土師器 甕	口縁部破片	□21.6 高[7.2]	P 8付近覆土中	胴部上方で最大径を測る丸底／口縁は外反する／内外面に薄く煤付着／在地系	□縁部内外面は横位のナデ／以下内面は横位のナデ、外面は縦位のヘラナデ	砂粒多量混入	橙色
第63図37 図版19-37	土師器 甕	胴部～底部片	高[6.3] 底11.6	北西明溝付近覆土中	丸底／胴部は僅かに外反しながら外傾する／在地系	内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後、ナデ（スリップか）／底部周辺のみ横位ヘラナデ	砂粒・白色粒子多含む	にぶい橙色
第63図38 図版19-38	土師器 甕	口縁部～胴部片	□24.2 高[30.9]	中央から北側覆土中に散在	胴部上位で最大径を測る／口縁は強く外反する／外面に煤付着／在地系	口縁部内外面は横位のナデ／以下内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後幅狭のヘラ磨き	砂粒・石英・黄褐色粒子多量含む	にぶい橙色
第63図39 図版20-39	土師器 甕	口縁部～胴部片	□19.5 高[22.0]	東側と北側覆土中に散在	胴部上位で最大径を測る／口縁は外反する／内外面に煤付着／在地系	口縁部内外面は横位のナデ／以下内面は縦・横・斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後ヘラ磨き／所々光沢を帯びる／口縁から胴部上方に指頭圧痕が観察される	砂粒・石英多量含む	灰黄褐色
第64図40 図版20-40	土師器 甕	口縁部～胴部片	□18.7 高[31.9]	炉1周辺とカマド正面付近覆土中	口縁部で最大径を測る長胴甕／口縁は外反する／内外面に薄く煤付着／在地系	口縁部内外面は横位のナデ／以下内面は横・斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後縦位の丁寧なナデ（スリップか）	砂粒・石英多量に含む	にぶい橙色
第64図41 図版20-41	土師器 甕	口縁部～胴部片	□20.6 高[14.9]	P 8とP 7の周辺覆土中に散在	口縁部で最大径を測る長胴甕／口縁は外反する／在地系	口縁部内外面は横位のナデ／以下内面は縦・斜位のヘラナデ、外面はヘラ削り後斜位の丁寧なナデ（スリップか）／口縁部直下に連続した指頭圧痕が見られる	砂粒多量、小石少量含む	にぶい橙色
第64図42 図版20-42	土師器 甕	口縁部～胴部片	□18.7 高[11.0]	P10付近と南側覆土中	口縁部で最大径を測る長胴甕／口縁は外反し、歪む／在地系	口縁部内外面は横位ナデ／以下内面は斜位のヘラナデ、外面はヘラ削り後斜位のナデ（スリップか）	砂粒・石英多量に含む	にぶい橙色
第64図43 図版20-43	土師器 甕	胴部～底部片	高[23.7] 底8.6	東側覆土中	底部から胴部上方に向かって緩やかに開く長胴甕／内外面に煤付着／在地系	内面は縦・斜位のヘラナデ、一部に指頭圧痕が見られる／外面は縦位のヘラ削り後、底面付近は横位のヘラ削り、さらに縦位の丁寧なナデが施される	砂粒・石英多量に含む	にぶい赤褐色
第64図44 図版20-44	土師器 甕	胴部～底部片	高[24.5] 底8.2	炉1とP 3の間付近覆土中	長胴甕の胴部／底面は僅かに丸みを持つ／在地系	内面は横・斜位のヘラナデ／外面は底部付近が斜位、胴部が縦位のヘラ削り後、縦位の丁寧なナデ	—	にぶい橙色
第64図45 図版20-45	土師器 甕	胴部片	高[25.1]	北西側覆土中	長胴甕の胴部／胴部は緩やかな肩れをもつ／在地系	内面は斜位のヘラナデ／外面は縦位のヘラ削り後丁寧なヘラナデ、胴部のほとから下部にかけてヘラナデの中に等間隔の波板状圧痕が多数観察される	砂粒多量、小石わずかに含む	橙色
第64図46 図版20-46	土師器 甕	胴部～底部片	高[11.5] 底9.0	炉1周辺覆土中に散在	直線的に外傾する胴部／底面は平底／在地系	内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後ナデ、底面周辺のみ横位のヘラナデ	砂粒多量、小石わずかに含む	内面：橙色 外面：褐色
第64図47 図版20-47	土師器 甕	胴部～底部片	高[10.7] 底7.5	中央とカマド左袖前覆土中	長胴甕／胴部は内湾しながら立ち上がる／在地系	内面は横位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後、縦位の丁寧なヘラナデ	砂粒・石英多量に含む	にぶい橙色
第64図48 図版21-48	土師器 鉢	口縁部～底部 30%	□27.0 高28.0 底10.8	北西側覆土中散在	筒振り式／口縁で最大径を測り、底部に向かって緩やかにすぼまる／口縁部は強く外反する／内外面に煤付着／在地系	口縁部内外面は横位のナデ、口縁外面には指頭圧痕が等間隔で観察される／以下内面は縦位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後、縦・横位の丁寧なナデ	砂粒多量、小石少量含む	橙色
第65図49 図版21-49	土製品 支脚	完形	—	P 9付近床面上	現存高さ15.6cm・上底径3.2cm・下底径5.5cm／形状は緩広がり／断面は円形	全体に丁寧なナデ調整／上下端部に横・斜位の煤みが施される	石英・チャート・長石含む	橙色
第65図50 図版21-50	土製品 支脚	完形	—	P 8とP 1の間覆土中	現存高さ22.5cm・上底径5.7cm・下底径8.5cm／形状は緩広がり／断面は円形	縦位のヘラ削り調整後、上下端部中心に指頭による圧痕が多数見られる	砂粒・茶褐色粒子含む	黄橙色
第65図51 図版21-51	土製品 支脚	75%	—	カマド右袖上転土上	現存高さ19.9cm・上底径4.7cm・下底径9.4cm／形状はやや緩広がり／断面は円形	縦位の粗いヘラ削り調整が施される／一部指頭圧痕もみられる	茶褐色粒子含む	橙色
第65図52 図版21-52	土製品 土玉	完形	—	貯蔵穴付近覆土中	長さ0.8cm・幅0.9cm・孔径0.4cm・重さ1.0g／円筒状で上下は平坦／上面の穴端が僅かに陥起	—	砂粒少量含む	明灰黄
第65図53 図版21-53	土製品 土玉	完形	—	P 7付近覆土中	長さ1.5cm・幅1.4cm・孔径0.2cm・重さ2.8g／いびつな球状で、穿孔もやや斜方向になされる	穿孔の断面は三角形／上面は粘土が裂けたような裁断状で、下面は平坦である	砂粒・赤褐色粒子少量含む	明褐色
第65図54 図版21-54	土製品 土玉	50%	—	貯蔵穴付近覆土中	長さ2.4cm・幅2.0cm・孔径0.4cm・重さ3.7g／球状の土製品が中心の穿孔を端に割れたもの	外面にはナデと斜位の刻みが施される／中位の両端から中心の上下方向の穿孔に向かってそれぞれ穿孔されている	砂粒・赤褐色粒含む	にぶい褐色

第14表　86号住居跡出土遺物一覧（3）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (㎝)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第65図55 図版21-55	勾玉形 土製品	完形	—	カマド南側覆土中	長さ2.7㎝・幅0.8㎝・厚さ0.8㎝・重さ2.5g／蒲鉾状の粘土の両端を屈曲させ、勾玉に似た形状	全体の２／３ほどの所にφ１㎜の穿孔がなされる／片穴の端部が僅かに隆起する	石英・白色砂粒含む	黒褐色
第65図56 図版21-56	勾玉形 土製品	完形	—	Ｐ２の付近覆土中	長さ2.4㎝・幅0.8㎝・厚さ0.8㎝・重さ2.2g／蒲鉾状の粘土の両端を屈曲させ、勾玉に似た形状	全体の２／３ほどの所にφ１㎜の穿孔／穴の両端は楕円形に窪む／片穴の端部が僅かに隆起する	砂粒含む	明褐色
第65図57 図版21-57	土製品 垂飾か	完形	—	貯蔵穴付近覆土中	長さ3.2㎝・幅2.1㎝・厚さ2.1㎝・重さ14.0g／円筒状粘土の両端に指頭圧痕を連続して施され径1.4㎝ほどにすぼめられた形状／胴中央部３方から中心の縦位の貫通孔に横位の穿孔が施される	—	石英・白色砂粒含む	にぶい黄褐色
第65図58 図版21-58	土製品 紡錘車	完形	—	Ｐ１の付近覆土中	高さ2.5㎝・上底径3.8㎝・下底径2.4㎝重さ43.1g／上下面平滑で、側面はやや膨らみを持つ／中心にφ５～６㎜の穿孔	上下面には擦痕が多く見られる／側面は上面周縁が横位のヘラ削り、下面周縁が縦位のヘラ削り調整	砂粒・黄褐色粒子含む	褐灰色
第65図59 図版21-59	泥岩	全形	—	覆土中	長さ2.1㎝・幅2.6㎝・厚さ0.9㎝・重さ2.3g／φ３㎜の穿孔が見られ、両面に煤けたような部分も見られる／穿孔貝巣穴跡軟質泥岩	—	—	浅黄橙色
第66図60 図版21-60	石器 磨石	完形	—	貯蔵穴付近床面上	長さ14.5㎝・幅4.7㎝・厚さ3.7㎝・重さ352.0g／細長い礫を使用／全面に擦痕・敲打痕・磨跡が見られる	—	—	—
第66図61 図版21-61	石器 磨石	下部欠損	—	Ｐ８の付近覆土中	長さ8.2㎝・幅5.8㎝・厚さ4.5㎝・重さ322.5g下部欠損／扁平な礫を使用／前面に擦痕、頂部に敲打痕が観察される	—	閃緑岩	—
第66図62 図版21-62	石器 磨石	上部欠損	—	Ｐ１の付近覆土中	長さ7.5㎝・幅6.0㎝・厚さ3.7㎝・重さ176.8g／石英脈のある砂岩使用／表裏面と端面に擦痕・磨跡が見られる	—	—	—
第65図63 図版21-63	鉄製品 鏃	鏃身部	—	Ｐ７の付近覆土中	長さ2.2㎝・幅3.2㎝・厚さ0.4㎝・重さ1.9g／茎部欠損／鏃身部の両端部に1.5㎜の抉りが入る	—	—	—

第14表　86号住居跡出土遺物一覧（４）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (㎝)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第69図１ 図版22-1-1	須恵器 坏	胴部～底部片	高[2.5] 底6.6	東コーナー覆土中	胴部はわずかに外反する／東金子窯製品	ロクロ回転は右回転／底部糸切り後、周辺ヘラ削り調整	砂粒・赤褐色粒子多料含む	にぶい褐色
第69図２ 図版22-1-2	土師器 坏	胴部～底部片	高[2.7] 底7.1	カマド左袖前床面上	胴部はやや内湾する／内底面中位から中央に向かって凹む／内面は黒色処理が施され、光沢を帯びる	ロクロ成形／底部は糸切後周辺へラ削り調整／内面横位の丁寧な磨き調整／外面横位のナデ、無彩	砂粒・白色針状物質多量、橙色粒子含む	外面：にぶい橙色 内面：黒色
第69図３ 図版22-1-3	土師器 台付甕	脚台部片	高[3.2]	東コーナー覆土中	胴部と脚の裾部欠損／脚は「ハ」の字状に開く／いわゆる武蔵型	胴部内面はナデ／脚部内面の胴部付け根付近は横位ナデ、以下斜位のヘラナデ／外面は胴部が縦位ナデ、以下縦位ヘラ削り後横位ナデ	砂粒・石英・褐色粒子多量含む	橙色

第15表　87号住居跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (㎝)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第79図１ 図版22-2-1	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部80%	口9.5 高3.4	貯蔵穴付近床面上	天井部～口縁まで丸みを帯び、口縁部は内湾気味に垂下する／湖西産、Ⅳ－２期	ロクロ成形／ロクロ回転は左回転／外面の天井部外縁はヘラ削り調整／天井部内面のロクロ目顕著	砂粒・長石含む	灰色
第79図２ 図版22-2-2	須恵器 坏蓋	略完形	口9.6 高3.7	南東側覆土中に散在	天井部から口縁まで丸みを帯び、天井と口縁の間に稜を有する／稜と口縁内面に１条の沈線がめぐる／湖西産、Ⅳ－２期	ロクロ成形／ロクロ回転は左回転／外面の天井部と天井部周辺は回転ヘラ削り調整	細粒砂・白色粒砂含む	外面：灰色 内面：灰褐色
第79図３ 図版22-2-3	須恵器 坏蓋	肩部～底部50%	口9.6 高[3.6]	Ｐ４・Ｐ６付近覆土中と床面上	天井部から口縁の境に弱い稜を１段有する／天井部から稜まで丸みを帯び、口縁部は垂下する／湖西産、Ⅳ－２期	ロクロ成形／口縁内面に１条の沈線がめぐる	白色砂粒少量、石英わずかに含む	外面：青灰色 内面：灰黄褐色

第16表　88号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量（㎝）	出土位置	特徴	調整	胎土（石材）	色調
第79図４ 図版22-2-4	土師器 坏	口縁部～底部	口13.7 高2.9	Ｐ４・Ｐ５付近覆土中	いわゆる続比企型坏／浅身のもの／口縁と底部の間に弱い稜を有する／口縁は外傾する／内外面黒彩／口縁内外面に油煙が少量付着	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は丁寧な横位ナデ、外面はヘラ削り後ヘラナデ	砂粒・角閃石・雲母少量含む	橙色
第79図５ 図版22-2-5	土師器 坏	完形	口10.7 高4.0	貯蔵穴付近床面上	口縁と底部の間に稜を有する／口縁は外面が膨らみを持ち、僅かに外傾／内外面黒彩／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は縦・横位のヘラナデ、外面はヘラ削り後ヘラナデ	砂粒・石英多量含む	外面：橙色 内面：黒色
第79図６ 図版22-2-6	土師器 坏	口縁部～底部	口11.0 高3.5	北東コーナー上層覆土中	口縁と底部の間に稜を有する／口縁は僅かに外反しつつ外傾する／内外面薄く煤けているため、黒彩と思われる／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ナデ、外面は粗いヘラ削り	白色粒子・砂粒多量含む	にぶい黄褐色
第79図７ 図版22-2-7	土師器 坏	略完形	口11.0 高4.2	カマド内覆土中	口縁と底部の間に稜を有する／口縁部は外傾し、底面中心部は薄く成形される／内外面黒彩／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位のヘラナデ、外面はヘラ削り後ナデ	砂粒多量、石英含む	外面：にぶい橙色 内面：黒褐色
第79図８ 図版22-2-8	土師器 坏	完形	口10.0 高3.5	カマド内覆土中	口縁と底部の間に稜を有する／口縁は僅かに内湾しながら外傾する／口縁外面に極わずかに煤が付着する／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位のヘラナデ、外面はヘラ削り	砂粒、石英多量含む	橙色
第79図９ 図版22-2-9	土師器 坏	略完形	口9.0 高3.5 底4.5	カマド右袖奥粘土中	口縁部と底部との間に稜を有し、口縁部は直線的に外傾する／内外面は薄く煤けていることから、黒彩されたと思われる／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位のヘラナデ、外面はヘラ削り後横位ナデ、さらに指頭圧痕が連続して施され、口縁直下は括れる	砂粒、石英多量含む	橙色
第79図10 図版22-2-10	土師器 碗	略完形 60%	口9.4 高4.5	Ｐ８上層とカマド左袖前方覆土中と床面上	深身のもの／底面から口縁まで丸みを持って立ち上がり、口縁は僅かに外反する口縁と底部の間に弱い稜を有する／内外面は薄く煤けていることから、黒彩と思われる	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横・斜位のナデ、外面は横位の細かなヘラ削り	細砂粒少量、石英・チャート微量含む	外面：赤褐色 内面：明褐色
第79図11 図版22-2-11	土師器 坏	略完形	口11.5 高4.8	南西側覆土中	口縁と底部の間、底面よりに弱い稜を有する／口縁は肥厚し、波状に歪む／内外面は薄く煤けていることから、黒彩と思われる／在地系	口縁内外面は強めの横位ナデにより、明瞭なナデ痕が残る／以下内面は横位ナデ、外面は稜を挟んで底面の接地面まで粗いヘラ削りとヘラナデ、接地面のみ横位のヘラナデ	砂粒多量、茶褐色粒含む	にぶい黄褐色
第79図12 図版22-2-12	土師器 高坏	脚台部片	高[5.9]	西側と北東側の床面上から覆土中に散在	胴部との接合部に向かって緩やかに外反する／破断面に粘土接合痕が明瞭に残る	胴部内面は縦位のヘラナデ／外面は縦位のヘラ削り後、幅狭のヘラ磨き	細粒砂少量、長石わずかに含む	にぶい橙色
第79図13 図版22-2-13	土師器 壺	80%	口(11.0) 高14.5	貯蔵穴付近覆土中	胴部上方で最大径を測る壺／口縁から頸部は僅かに外反しつつ上方にのびる／胴部中位から丸底の底部までなだらかに移行する／内外面赤彩	口縁から頸部は内外面横位のヘラナデ、以下内面は横・斜位のヘラナデ、外面は胴部上方が横・斜位のヘラナデ、胴部下方が横位のヘラナデ／外面の器壁の剥落が著しい	細礫を少量、白色粒子含む	外面：赤褐色 内面：明赤褐色
第79図14 図版22-2-14	土師器 甕	口縁部～胴部	口18.2 高[10.9]	北西側覆土中	胴部中ほどで最大径を測る丸甕／口縁は丸みを持って外反する／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は横位ヘラナデ、外面はヘラ削り後縦位・横位のヘラナデ	砂粒多く含む	にぶい橙色
第79図15 図版22-2-15	土師器 甕	口縁部～胴部	口19.5 高[25.6]	Ｐ１・Ｐ２内と東側から南側床面上の覆土中に散在	胴部中ほどで最大径を測る丸甕／口縁は丸みを持って外反する／在地系	口縁内外面は横位のヘラナデ、以下内面は横・斜位の丁寧なヘラナデ、外面はヘラ削り後、横・斜位の丁寧なナデ（スリップか）	細粒砂少量、細礫わずかに含む	にぶい橙色
第79図16 図版22-2-16	土師器 甕	胴下部～底部片	高[4.5] 底7.7	カマド内覆土中	丸甕／底面は平底／在地系	内面は斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラナデ、底面周辺は粗い横位ヘラナデ	砂粒・茶褐色粒多量含む	にぶい橙色
第79図17 図版22-2-17	土師器 甕	胴部～底部片	高[4.6] 底7.1	カマド右袖前方ほぼ床面上	胴部が緩やかに立ち上がる丸甕／在地系	内面総は横・斜位のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後ヘラナデ、底部周辺は横位のヘラナデ	砂粒多量、石英・角閃石含む	褐灰色
第79図18 図版22-2-18	土師器 甕	胴部～底部片	高[2.7] 底9.2	カマド右袖前方覆土中	丸甕／底面は丸みを帯びる／在地系	内面は斜位のナデ、外面は縦位のナデ、底面の周囲は横位ナデ	砂粒・茶褐色粒多量含む	外面：暗赤褐色 内面：橙色
第79図19 図版23-19	土師器 甕	口縁部～胴下部片	口22.0 高[35.7]	カマド右袖粘土内	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／在地系	内外面横位のナデ／以下内面は多方向のヘラナデ、外面は縦位のヘラ削り後ヘラナデ	砂粒やや多く、細礫少量、石英をわずかに含む	橙色
第79図20 図版23-20	土師器 甕	口縁部～胴部中	口20.5 高[18.0]	北東コーナー及び中央・カマド右袖覆土中と床面上に散在	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／在地系	口縁内外面は横位ナデ、以下内面は縦・横位のヘラナデ、外面はヘラ削り後ナデ（スリップか）	砂粒やや多く角閃石・金雲母をわずかに含む	にぶい橙色
第79図21 図版23-21	土師器 甕	口縁部～胴下部	口18.4 高[20.9]	カマド左袖前方粘土中	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／在地系	口縁内外面は横位のナデ、以下内面は横・斜位のヘラナデ、外面は縦・斜位のヘラ削り後ナデ（スリップか）	細粒砂・白色粒子含む	浅黄橙色
第80図22 図版23-22	土師器 甕	口縁部～胴部	口20.6 高[22.3]	Ｐ６・Ｐ７の付近床面上と覆土中	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／在地系	口縁内外面は横位のナデ、以下内面斜位のヘラナデ、外面ヘラ削り後縦・斜位のナデ（スリップか）	細礫少量、石英・金雲母をわずかに含む	明黄褐色

第16表　88号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第80図23 図版23-23	土師器 甕	口縁部～胴部	口(18.4) 高[7.7]	貯蔵穴・炉・北東壁溝上層の覆土中と床面上	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／在地系	口縁外面は横位のナデ、以下内面は斜位のヘラナデ、外面はヘラ削り後斜位のヘラナデ／頸部外面に指頭圧痕がまとまって見られる	砂粒多量、石英含む	外面：灰黄褐色 内面：橙色
第80図24 図版23-24	土師器 甕	口縁部～胴部片	口(22.8) 高[10.7]	カマド右袖ほぼ床面上	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／在地系	口縁内外面横ナデ／以下内面は縦位のヘラナデ、外面はヘラ削り後丁寧なナデ（スリップか）	砂粒・石英多く含む	橙色
第80図25 図版23-25	土師器 甕	口縁部～胴部	口(21.6) 高[6.2]	Ｐ５付近床面上	口縁で最大径を測る長胴甕／口縁は強く外反する／口唇部は玉縁状／在地系	口縁部内外面横位ナデ、以下内面は縦位のヘラナデ、外面は縦位ヘラ削り後ヘラナデ	石英・砂粒多量含む	にぶい橙色
第80図26 図版23-26	土師器 甕	胴部～底部	高[28.6] 底8.6	Ｐ７付近床面上	胴部中位が張り出す長胴甕／在地系	内外面横位のナデ、以下内面は横・斜位のヘラナデ、外面は粗いヘラ削り後粗いヘラナデ／底部周縁のみ横位のヘラナデ	細礫少量、石英・雲母をわずかに含む	橙色
第80図27 図版23-27	須恵器 蓋	口縁部～天井部片	口(16.2) 高[2.2]	Ｐ５付近覆土中	胴部は直線的に口縁に至り、口縁端部は内湾する／口縁外面端部と内面に自然釉がまばらに付着した痕が残る／東金子窯製品か	ロクロ成形	砂粒含む	にぶい黄橙色
第80図28 図版23-28	須恵器 坏	口縁部～底部	口13.0 高3.9 底7.0	Ｐ９付近覆土中	やや腰が張り、口縁は強めに外反する／東金子窯製品	ロクロ成形／底面に糸切り離し痕が残る	白色砂粒多量、小石わずかに含む	黄灰色
第80図29 図版23-29	須恵器 坏	口縁部～底部片	口11.7 高3.9 底6.7	Ｐ５付近覆土中	口縁は直線的に外傾する／内底面中央は薄く成形される／口縁内面に少量の油煙付着／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面には糸切り離し痕が残る	砂粒多量、黒褐色粒・小石わずかに含む	灰黄褐色
第80図30 図版23-30	須恵器 坏	口縁部～胴部片	口11.8 高5.0	南側覆土中	深身で器壁は薄手／胴部は直線的に外傾する／東金子窯製品	ロクロ成形／外面のロクロ目がやや顕著	砂粒・白色粒子多量、小石少量含む	灰白色
第80図31 図版23-31	須恵器 坏	口縁部～底部片	口(11.3) 高3.5	Ｐ３・Ｐ７付近覆土中に散在	口縁部は直線的に外傾する／東金子窯製品	ロクロ成形／内外面のロクロ目顕著	砂粒・白色粒子多量、小石少量含む	灰色
第80図32 図版23-32	須恵器 坏	胴部～底部片	高[1.5] 底7.3	Ｐ４・Ｐ５付近覆土中	胴部は僅かに外反し、底面は上げ底状／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面には糸切り離し痕が残る	白色砂粒多量、小石わずかに含む	灰色
第80図33 図版23-33	須恵器 坏	底部片	高[2.0] 底6.6	炉付近覆土中	胴部は直線的に立ち上がる／東金子窯製品	ロクロ成形／底部は糸切り離し痕が残る	砂粒・茶褐色粒・小石含む	灰白色
第80図34 図版23-34	須恵器 坏	胴部～底部片	高[1.5] 底6.6	Ｐ７と炉の間覆土中	胴部は丸みを帯びて立ち上がる／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面には糸切り離し痕が残る／内底面にナデによる稜が１段巡る	砂粒多量、小石少量含む	橙色
第80図35 図版23-35	須恵器 坏	胴部～底部	高[1.6] 底5.6	Ｐ７と炉の間覆土中	胴部は緩やかに立ち上がる／外底面中央付近はやや上げ底状／東金子窯製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面に糸切り離し痕が残る	砂粒・茶褐色粒子含む	灰黄褐色
第80図36 図版23-36	須恵器 坏	底部	高[1.0] 底5.8	炉の上層覆土中	内底面の周縁はやや窪む／外底面中央付近はやや上げ底状／東金子窯製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面には糸切り離し痕が残る	砂粒多量、小石わずかに含む	灰色
第80図37 図版24-1-37	須恵器 坏	底部	高[0.8] 底5.5	カマド内覆土中	底面は僅かに上げ底状／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面に糸切り離し痕が残る	白色砂粒多量、小石わずかに含む	灰色
第80図38 図版24-1-38	須恵器 坏	胴下部～底部片	高[2.3] 底5.0	Ｐ５付近覆土中	胴部は僅かに内湾しつつ立ち上がる／東金子窯製品	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部糸切り離し痕が残る	砂粒・黄色粒子含む	灰黄色
第80図39 20-39 図版24-1-39	灰釉陶器 高台付碗	底部片	高[1.9] 底7.4	Ｐ９付近覆土中	高台は直角に付く	底面には糸切り離し痕が僅かに残る／内底面と外面の一部に灰釉を施釉／内底面には重ね焼き痕も見られる	微砂粒含む	灰白色
第80図40 図版24-1-40	須恵器 高台付碗	底部	高[1.5] 底7.5	Ｐ３付近覆土中	高台は「ハ」の字状に開く／底面は平底で、内面外縁に向かって薄くなる／新開窯製品か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／内底面のロクロ目は顕著／外底面には糸切り離し痕が残り、周辺ヘラ削り調整が観察される	砂粒・金雲母多量、赤色粒子僅かに含む	にぶい橙色
第80図41 図版24-1-41	須恵器 長頸壺	口縁部～頸部片	口6.0 高5.5	Ｐ６付近覆土中	上方に向かって直線的に外傾し、口縁部で外反しつつ開く／口唇内面はやや内湾する／内面上方はそぼろ状、外面は全面に自然釉が掛かり、艶がある	ロクロ成形／頸部の屈曲部内面に粘土接合痕が見られる	砂粒・白色粒子含む	外面：オリーブ褐色 内面：黄灰色
第80図42 図版24-1-42	須恵器 甕	口縁部片	口(24.3) 高[7.5]	Ｐ８と炉の間覆土中	頸部は直線的に外傾し、口縁部はさらに外反する／口唇端部は平坦で、下端部は外へ少し張り出す	ロクロ成形	砂粒多量、小石少量含む	褐灰色
第80図43 図版24-1-43	土製品 土玉	完形	—	Ｐ６付近覆土中	長さ3.7cm・幅3.7cm・孔径0.6cm・重さ47.8g／やや扁平な球状／上下端が僅かに欠損	全体は滑らかに整えられ、側面に丸棒状工具による横位の圧痕が見られる	砂粒含む	にぶい褐色
第80図44 図版24-1-44	石製品 丸玉	完形	—	Ｐ１とＰ９の間床面上	長さ0.7cm・幅0.7cm・孔径0.25cm・重さ0.78g／上下端面は平坦に整えられ、中心に穿孔	全面丁寧に磨かれ、鈍い光沢がある	—	黒色
第80図45 図版24-1-45	石製品 紡錘車	完形	—	Ｐ６付近覆土中	高さ1.5cm・上底径3.9cm・下底径2.4cm重さ39.5g／上下面は平滑／側面はやや膨らむ／上表面に剥離が見られる	側面に縦位の微細な擦痕が施され、上面に多方向・強めの擦痕が観察される	滑石製	オリーブ褐色（赤褐色結晶多く含む）

第16表　88号住居跡出土遺物一覧（３）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土 (石材)	色調
第80図46 図版24-1-46	鉄製品 釘か	完形	—	覆土中	長さ5.7cm・幅1.1cm・厚さ0.5cm・重さ4.8g／頭部は平坦に僅かに張り出す／先端は細く、「J」字状に屈曲する／断面は方形	—	—	—

第16表　88号住居跡出土遺物一覧（４）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第89図１ 図版24-3-1	須恵器 坏	口縁部片	高[2.7] 厚0.5	88H北西コーナー付近覆土中	器壁は薄く、口唇部がやや強く外反する／東金子窯製品か	ロクロ成形／内外面横位ナデ	砂粒多量、茶褐色粒含む	灰色
第89図２ 図版24-3-2	須恵器 坏	口縁部片	高[4.0] 厚0.5	覆土中	口縁部は僅かに内湾しつつ外傾する／東金子窯製品	ロクロ成形／内外面のロクロ目顕著	白色砂粒多量、小石わずかに含む	黄灰色
第89図３ 図版24-3-3	須恵器 甕	口縁部片	口20.0 高[2.1]	84H南コーナー付近床面下	口縁は大きく外反し、口唇下端部が外へ張り出す／口唇端面には２本の沈線がめぐる／東金子窯製品	ロクロ成形／内外面横位ナデ／外面に自然釉の付着が見られる	白色砂粒多量、小石わずかに含む	灰色
第89図４ 図版24-3-4	須恵器 甕	胴部～底部破片	高4.0 厚1.5	262土坑の西側覆土中	胴部は大きく外傾する／東金子窯製品	ロクロ成形／内外面に自然釉が付着し、外面は艶がある／外面の一部に細いハケ目、底部との境に数か所の刻み目が観察される	白色砂粒多量、小石わずかに含む	灰色
第89図５ 図版24-3-5	須恵器 坏	胴部～底部破片	高[1.9] 底4.5	覆土中	胴部と底面の境目が窪む	ロクロ成形／外面の摩滅が著しく、底面の成形は観察できない	砂粒・赤褐色粒多量含む	にぶい橙色
第89図６ 図版24-3-6	須恵器 埦	胴部～底部破片	高[2.7] 底6.9	Dセク付近覆土中	胴部と底部の間に粘土接合痕が観察されるため、通常の底部ではなく円柱状の底部を意識した作りと思われる	ロクロ成形／底面に糸切り離し痕が残る	砂粒・褐色粒子含む	にぶい橙色
第89図７ 図版24-3-7	須恵器 高台坏か	底部破片	高[1.4]	覆土中	高台は外へ開く	ロクロ成形／外底面に糸切り離し痕が残り、周縁はナデ調整	砂粒・雲母少量含む	にぶい橙色
第89図８ 図版24-3-8	土師器 甕	口縁部破片	高[1.9]	84Hの南東側覆土中	口縁部は強く外傾する／口唇部は摘み出されるように成形される／常陸型または常総型	内外面横位のナデ	白色砂粒多量、小石わずかに含む	にぶい橙色
第89図９ 図版25-1-9	陶器 甕	胴部～底部破片	高4.0 厚1.1	86Hカマド付近床面下	胴部は直線的に外傾する	胴部内外面横位ナデ、底面はヘラ削り調整	白色砂粒・小石多量含む	黒色
第89図10 図版25-1-10	陶器 甕	肩部破片	高[3.3] 厚1.0	88H北西コーナー付近覆土中	内傾する肩部で、外面は調整により屈曲する／常滑産	内面は横位ナデ、外面下端部に明瞭な平行叩き目が残る	砂粒・白色粒子含む	外面：灰白～黄灰色 内面：にぶい黄褐色
第89図11 図版25-1-11	鉄製品 釘か	全形	—	覆土中	長さ3.1cm・幅0.7cm・厚さ0.4cm・重さ1.5g／ほぼ全面を錆に覆われる／断面は方形に近い	—	—	—
第89図12 図版25-1-12	鉄製品 釘か	下部欠損	—	覆土中	長さ3.6cm・幅0.7cm・厚さ0.5cm・重さ3.0g／ほぼ全面を錆に覆われる／断面は方形に近い	—	—	—

第17表　14号溝跡出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第86図１ 図版24-2-1	須恵器 坏	口縁部破片	高[3.5] 厚0.7	252号土坑 上層覆土中	口縁部は僅かに丸みを帯びながら緩やかに外反する／口縁端部は欠失後、油煙が内面に極わずか、外面に少量の付着が観察される	内面は横位の磨き調整後黒色処理／外面はロクロ目が顕著	砂粒・石英をわずかに含む	外面：橙色 内面：黒褐色
第86図１ 図版24-2-2	須恵器 高台付埦	底部片	高[1.9] 底(6.8)	287号土坑内24P中層覆土中	高台は「ハ」の字状に開き、端部でさらに外反する／内底面のロクロ目が顕著である	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／高台内面に僅かに糸切り離し痕が残る	砂粒・石英・雲母・小石含む	にぶい橙色

第18表　252・287号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第96図１ 図版25-2-1	須恵器 坏	底部破片	高[0.7]	中央床面上	平底／端部が僅かに立ち上がる／内面黒彩	ロクロ成形／糸切り離し後、回転ヘラ削り調整と思われる／内面は磨き調整	砂粒・石英・茶褐色粒含む	外面：にぶい橙色 内面：褐灰色

第19表　７号ピット出土遺物一覧

第４節　近世以降

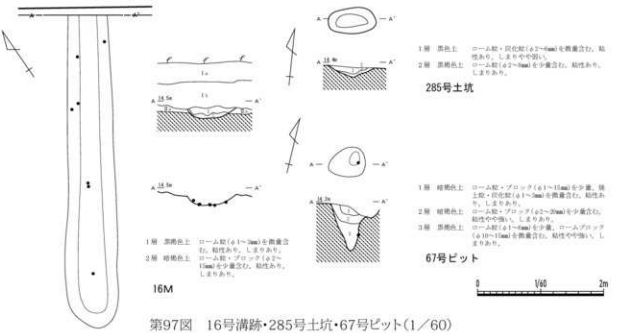
（１）概要

近世以降の遺構としては溝跡１本、土坑１基、ピット１本が検出された。

（２）溝跡

16号溝跡

遺　　構（第97図）



第97図　16号溝跡・285号土坑・67号ピット(1／60)

［位　　置］（P－５・６、O－６）グリッド。

［検出状況］調査区北東端にて検出し、更に調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形**：溝状。**断面形**：やや丸みをもった浅い鉢形。底面はほぼ平坦。壁は30°前後で緩やかに立ち上がる。**規模**：長軸検出長4.92m／短軸検出長0.65m／深さ17cm。**主軸方位**：N－35°－E。

［覆　　土］２層に分層できた。

［遺　　物］地点上げ遺物で７点、一括遺物で19点出土した。瓦は実測不可の細片、その他は混入遺物で不掲載。

［時　　期］覆土及び出土した瓦細片により近世以降と判断される。

（３）土坑

285号土坑

遺　　構（第97図）

［位　　置］（L－８）グリッド。

［構　　造］平面形：隅丸長方形。断面形：底面は尖底気味。東壁、西壁とも30°前後で直線的に立ち上がる。規模：長軸75㎝／短軸42㎝／深さ14㎝。主軸方位：Ｎ－80°－Ｅ。
［覆　　土］２層に分層できた。
［遺　　物］なし。
［時　　期］覆土より近世以降と想定される。

（４）ピット

67号ピット

遺　　構（第97図）
［位　　置］（Ｍ－12）グリッド。
［検出状況］調査区南端で検出した。
［構　　造］平面形：不整円形。断面形：尖底形。規模：長軸60㎝／短軸45㎝／深さ79㎝。
［覆　　土］３層に分層できた。
［遺　　物］地点上げ遺物として鉄釉摺鉢片１点が出土した。遺構外遺物として掲載。（第98図15）
［時　　期］覆土より近世と判断される。

第５節　遺構外出土遺物

（１）概要

ここでは、試掘や表土から出土した遺物、遺構内であるが明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の遺物と区別し、遺構外遺物として扱うものである。

今回は遺構外出土遺物として、縄文時代、弥生時代後期から古墳時代初頭の土器、古墳・平安時代の遺物、中近世以降の遺物に分類する。

（２）縄文時代の土器（第98図１～12、図版25－３－１～12）

１～３は早期末葉～前期初頭の土器、４は前期前葉羽状縄文系、５は前期後葉の浮島・興津系である。６は中期中葉勝坂式、７～９中期後葉加曽利EⅣ式、10は縄文の施文された加曽利E式である。11は後期初頭称名寺式、12は後期前葉堀之内式の注口土器か。

（３）弥生時代後期から古墳時代初頭の土器（第98図13、図版25－３－13）

13は弥生時代の高坏で、外面は細かなヘラ磨きが施される。

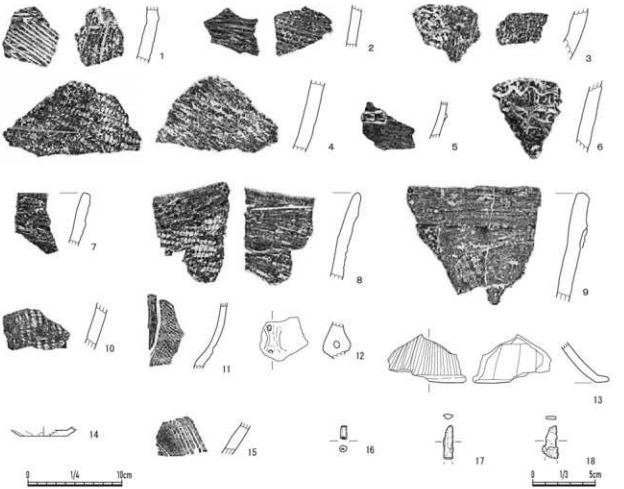
（４）古墳・平安時代の遺物（第98図14・16～18、図版26－14・16～18）

［土　　器］14は平安時代の土師器小形甕の底部で、立ち上がり部に横位のヘラ削りが施される。
［土製品］16は土製の管玉で、外面は滑らかに調整されている。古墳時代の所産か。
［鉄製品］17・18は断面形状から刀子と考えられる鉄製品である。詳細な時代は不明ながら、検出遺構

の時代から古墳時代後期か平安時代の所産であろう。

（５）中近世の遺物（第98図15、図版26－15）

15は内外面に鉄釉が施される擂鉢の小片。淡黄色のきめ細かい胎土から瀬戸美濃系である。戦国時代から江戸時代初頭のものか。



第98図　遺構外出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種	遺存部位	法量 (cm)	出土位置	特徴	調整	胎土	色調
第98図1 図版25-3-1	縄文 深鉢	口縁部破片	高[4.5] 厚1.0	試掘	器形は外傾する／早期末葉条痕文系	内面には斜位の条痕文／外面には斜位の微隆起線文の区画下に斜位の多条線が施文される	砂粒・石英・赤褐色粒子含む	外面：褐灰色 内面：明褐色
第98図2 図版25-3-2	縄文 深鉢	胴部破片	高[3.3] 厚0.8	14M	器形は外傾する／早期末葉条痕文系	内外面とも斜位の条痕文が施文される	砂粒含む	橙色
第98図3 図版25-3-3	縄文 深鉢	胴部破片	高[4.1] 厚1.2	試掘	器形は外傾する／尖底部に近い部位と思われる／早期	内外面無文	砂粒・角閃石・繊維含む	外面：橙色 内面：にぶい橙色
第98図4 図版25-3-4	縄文 深鉢	胴部破片	高[5.8] 厚1.1	14M	器形は外傾する／前期前葉羽状縄文系	縦位のLRR（正反の合）縄文を粗く施文	砂粒・小石・褐色土粒・繊維多量含む	にぶい橙色
第98図5 図版25-3-5	縄文 深鉢	胴部破片	高[3.0] 厚0.7	14M	器形は外傾する／前期後葉浮島、興津式系	横位の結節浮線文を貼付	砂粒含む	橙色
第98図6 図版25-3-6	縄文 深鉢	口縁部破片	高[5.3] 厚1.0	試掘	器形は外傾する／中期中葉勝坂式	縦位の連続した刻みの上に縦痕状の沈線が横位施文される	砂粒・茶褐色粒含む	外面：橙色 内面：にぶい褐色
第98図7 図版25-3-7	縄文 深鉢	口縁部破片	高[4.2] 厚1.0	14M	器形は外傾する／中期後葉加曽利EIV式	口縁部無文帯と無文の胴部を微隆起線文で区画	砂粒・小石・茶褐色粒子含む	にぶい黄橙色
第98図8 図版25-3-8	縄文 深鉢	口縁部破片	高[7.0] 厚1.0	14M	緩やかな波状口縁／中期後葉加曽利EIV式	地文は縦位のLR縄文／微隆起線文により口縁部無文帯と胴部を区画	砂粒・黄色土粒含む	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色
第98図9 図版25-3-9	縄文 深鉢	口縁部破片	高[8.7] 厚1.5	306D	器形は外傾する／中期後葉加曽利EIV式	口縁と胴部は微隆起線文で区画し、縦位の隆帯を貼付／隆帯にLR縄文施文	砂粒・小石・黄色土粒含む	にぶい橙色
第98図10 図版25-3-10	縄文 深鉢	胴部破片	高[3.5] 厚0.9	6FP	器形は外傾する／中期後葉加曽利E式	LR縄文縦位施文	砂粒・小石含む	にぶい橙色
第98図11 図版25-3-11	縄文 深鉢	胴部破片	高[5.2] 厚0.7	85H	瓢形の深鉢胴部／後期初頭称名寺式	RL縄文の縦・横位施文された地文に弧状の磨消縄文区画	砂粒含む	にぶい赤褐色
第98図12 図版25-3-12	縄文 注口土器	頸部破片	高[3.2] 厚2.2	試掘	「く」の字状に回曲する頸部／橋状の把手が付く／後期前葉堀ノ内式	内外面無文／橋状把手の上下端部付近には φ4 mmの首孔が穿たれる	砂粒多量含む	橙色
第98図13 図版25-3-13	弥生 高坏	脚部破片	高[3.8] 厚0.6	14M	裾部は「ハ」の字状に開き、端部は外側へ強く回曲して接地する	内面は縦位のヘラナデ、外面は縦位の細かなヘラ磨き／裾部は内外面とも横位ナデ	赤色粒・砂粒含む	にぶい橙色
第98図14 図版26-14	土師器 甕	底部	高[1.0] 底5.0	試掘	平底	内面は横位ナデ、外面は横位のヘラ削り	砂粒多量含む	にぶい橙色
第98図15 図版26-15	陶器 擂鉢	胴部破片	高[2.5] 厚0.8	67P	瀬戸美濃系鉄釉擂鉢／櫛目は8本以上か	ロクロ成形	混ざりなくきめ細かい土	胎土は淡黄色／内外面褐色釉
第98図16 図版26-16	土製品 管玉	完形	—	83H	長さ1.0 cm・幅0.5 cm・孔径0.1 cm・重さ0.3g／円筒状の体部中央に穿孔される／穴の形状はやや扁平	表面は滑らかに調整される	微砂粒含む	にぶい橙色
第98図17 図版26-17	鉄製品 刀子	刃先のみ	—	表土一括	長さ2.7 cm・幅0.8 cm・厚さ0.4 cm・重さ1.0g／刃先のみ残存／断面は扁平な方形	—	—	—
第98図18 図版26-18	鉄製品 刀子	刃先のみ	—	表土一括	長さ2.5 cm・幅1.2 cm・厚さ0.2 cm・重さ1.8g／刃先のみ残存／断面は扁平な方形	—	—	—

第20表　遺構外出土遺物一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　縄文時代

土坑19基、炉穴１基、ピット１本が検出された。19基検出された土坑については、径0.7～1.0m程度で略円形のものと長径２m強で楕円形のやや大形のものがあった。全ての遺構も含めたこの期の遺構分布では、14Mのほぼ北西側に散在するものとグリッドO～Q－8～10周辺にややまとまりをもつものであった。出土土器は小片で占められたが、その中でも早期末葉の条痕文系土器と中期後葉の加曽利EⅣ式土器（金子1996、細田2008）が目に付いた。前者の条痕文系土器については、遺構に伴わなかったが６FPの所在に関わるものの可能性があろう。

第２節　弥生時代後期～古墳時代前期

住居跡４軒、ピット１本が検出された。調査区の関係で区域外に延びるもの２軒、古墳時代後期以降の遺構に切られるもの１軒、全掘できた住居は１軒であった。このような状況から今次調査区での、出土遺物は総じて少ない。24Yは第131地点と今次第160地点の両方に及ぶが未だ全掘とはなっていない。今のところ双方の成果とも焼失住居であることを示している。また、31Yは極めて調査範囲が少なく、詳細が判明するのは未調査である西側に調査が及んだ折であろう。なお、粘土板炉を30Yで、赤色砂利層を30・32Yで検出している。

掲載した出土遺物について、触れておきたい。24Yでは、第131地点でS字状結節文が施される壺頸部、底部に木葉痕が残り外面に横位・斜位のハケ目調整がある壺胴部、沈線区画内に無節の斜縄文・円形赤彩文が施される壺頸部片、内外面とも赤彩され全面に丁寧なヘラ磨き調整が施される高坏が出土している。当第160地点では、胴中央に最大径を持ち口縁部が短く直立する内外面ヘラ調整を基調とする壺、内外面ともハケ目調整を基調とする甕胴部小片、閃緑岩製の磨製石斧刃部破片が出土した。時期としては、第131地点で想定された弥生時代後期後葉で齟齬は無いと思われる。

30Yでは外面に端末結節羽縄文＋横位RL縄文＋端末結節羽縄文を施す壺肩部片、口唇に連続した刻みを持ち内外面ハケ目調整のある口縁から胴下位までの甕片、内外面にハケ目調整が施される甕胴部片、閃緑岩製の破損した磨石が出土している。時期としては、壺肩部と甕の様相から弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭（比田井　1997、柿沼　2019）としておきたい。

32Yでは、胴中央付近に最大径を持ち下半は大きくすぼまる器形で口唇に連続した刻み目を施し、外面はハケ目調整を基調として一部に指頭による圧痕が見られる台付甕、内外面ともヘラ調整で直線的にハの状に開く台付甕脚部、釘状の鉄製品が出土した。台付甕の様相から、時期としては弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭（比田井　1997、柿沼　2019）としておきたい。

第３節　古墳時代後期～平安時代

第160地点報告の中心的な時代である。古墳時代後期の住居跡３軒、古墳時代以降のピット10本、平安時代の住居跡６軒、平安時代の掘立柱建築遺構１棟、平安時代の土坑４基、平安時代以降の土坑37基、ピット54本、溝跡２本が検出された。そうした中で、まず住居の構成など総論的な部分について述べ、順次各論的に成果、注目点或いは課題点などについて該当する住居毎に触れることとしたい（註１）。

（１）古墳時代後期の住居跡と構成について

遺構は、住居跡とピットから成っていた。76Hと86Hは主軸がN－25～32°－Wと北よりやや西に振れてほぼ同一方位であるのに対し、88Hは、N－10°－Wでそれより西に振れる幅が小さく異なる。86Hと88Hの位置関係はかなり接近し、上屋構造を想定するのはなかなか難しいが、同時に存在したものとするには判断に苦しむ位置関係である。出土遺物的には、それほど大きな時期差はない。カマドについては、当地点ではすべて当初は北カマドで、76Hでは北→東への作り替えが確認された。貯蔵穴はカマド右脇としている。柱穴は、いずれも８本（主柱穴４本、支柱穴４本）となる。また今回の３軒には、いずれも床面中央に地床炉が確認され、それぞれ鉄滓、椀型滓が僅かに出土している。ただし羽口や地床炉周辺の還元面など鍛冶を伺わせる状況は確認されず、その性格は不明である。

今次調査で確認された３軒は撹乱を受ける部分もあるが、ほぼ全容が判明し、その構造が窺える。仮に、それを市内中野遺跡で示唆された高麗尺（尾形　2001）に当てはめてみると、主柱穴間は、76・88Hで12尺（420cm÷35cm）、86Hは11尺（385cm÷35cm）で律することができるようだ。ただし、壁から柱穴までの距離を当てはめてみると一致をみなかった。これはそもそも３軒の平面プランが厳密に正方形ではないことに依る当然の帰結ではあるが（註２）、中野遺跡で想定された高麗尺（一尺＝35cm）の使用が、市内の他遺跡である田子山遺跡でも追認できる可能性がある。中野遺跡の事例は、７世紀前葉から中葉であるので、引き続き良好な検出状況をとらえて検証していく必要がある。

（２）古墳時代後期の遺物について

76号住居跡出土遺物（第28～30図）

第131地点で北東側が（尾形・徳留・宮下　2015）、今次で南側の大部分を調査し北東コーナー以外全掘された。よって、第131地点出土土器と接合を試みたが、同地点の土器はカマド周辺から出土した完形の坏と土師器鉢の大形破片のみで、接合するものは無かった。

本住居跡から出土した遺物をまとめると、土器は全て土師器で赤彩されたいわゆる比企型坏（水口1989、尾形　1999）、同じく赤彩され大形で深身の続比企型坏（富田　1992）、在地系で薄っすらと煤けたものも含めた黒彩で有段の坏、有稜の坏（註３）、在地系の浅身の無彩坏、在地系で無彩の深身と浅身の坏（尾形　2000・2005・2006）、在地の不定形な坏形土器、畿内系暗文坏（奈良国立文化財研究所1978・西山1984・1985）、鉢、長甕、丸甕、甑（尾形　2001）からなる。その他に土製支脚と砂岩製磨石が出土した。その内、年代の指標となる小形の坏では、比企型坏が口径10.2～11.0cm、第第131地点も含めた在地系黒彩と無彩の坏が9.7～11.7cmで概ね７世紀後葉から末葉の状況を示し、第28図34の畿内系暗文坏と11の続比企型坏からは８世紀初頭も視野に入る可能性がある（尾形　1999・2000）。大型

品の長甕については、第29図37が僅かに口縁部径が胴部径を上回りながらも胴部中位付近がふっくらと膨らみ古態を呈する（尾形　2001）。その他の長甕は最大部径を口縁にもち以下スムースに底部に向かってつぼまる器形で坏の年代観とは矛盾しない。以上の土師器の様相からは、坏形土器、甕形土器いずれも尾形編年（尾形　2000・2001）の15期に概ね合致し、その時期は７世紀末葉～８世紀初頭としておきたい。やや古相を示す甕形土器については、この住居がカマドの作り替えが行われ一定の期間の使用が想定されたためと解しておきたい。

86号住居跡出土遺物と炭化種子（第60～66図）

出土遺物の構成は、須恵器では坏蓋、土師器では比企型坏、続比企型坏、薄ら煤けた黒彩で二段の有段口縁坏（田中　2004）、薄い茶褐色系の胎土をもつ黒彩の有段坏、薄ら煤けたものも含め黒彩の在地系有段・有稜の坏、短脚の高坏、鉢、丸甕、長甕、甑があった。土製品としては、土製支脚、土製模造品、土玉、紡錘車があり、石器として磨石があった。また、製塩及び塩の流通を伺わせる、いわゆる「穿孔貝巣穴跡軟質泥岩」（坂本　2015）が出土している。鉄関係では、鏃と椀形滓が出土している。その他に、モモを主体として一部スモモを含む260点余りの炭化種子の大量出土があった（第60図）。

まず土師器であるが、小形品の比企型坏の口径は10.5～10.8cm、在地系の黒彩坏では8.8～11.4cmで双方10cm代を中心に10cmを切る９cmや更に小型化を窺わせるようなもの（残存率1/4）も存在し、坏形土器の尾形編年（尾形　2000）の14～15期に相当する。続比企型坏は、口径13.4cm、器高5.1cmのやや大振りで深身のタイプで坂戸市稲荷前遺跡A区SJ77号住居跡出土の資料に類似し７世紀末葉～８世紀初頭の様相と推定する（富田　1992）。長甕は、口縁部に最大径を持つもの、或いは底部に向かいスムースにつぼまるものを中心に、一部胴中上位に最大径をもつ39・45があるが、これらも甕形土器の尾形編年（尾形　2001）の概ね14～15期に相当すると思われる。なお45は、器壁が極めて乾燥した段階での器面調整を示すロッキングの痕跡が顕著に認められた。同様の事例は市内城山遺跡42地点135H出土遺物に報告例がある（尾形・深井・青木　2005）。須恵器坏蓋は、湖西産と推定され1/5程度の残存率、口径は10.6cmで器形法量にぶれが有る可能性もあるが、同じく小型化が窺われる。後藤建一氏の湖西編年（後藤　2015）によるとⅣ期２に該当すると思われる。高坏は、上部を欠失するが明らかに短脚式で器高も極めて低いことが予想できる。これらを総合すると、７世紀末葉の時期を示していよう。これらの坏類は、殆どが覆土中上層からの出土であるが、住居廃絶後ほどなく埋め戻された可能性も含み、当住居の時期を示しているものと見なしたい。

また当住居跡からは、発掘段階で268点の炭化種子の出土があり科学分析を行っている（付編　第２節参照）。それによると、大部分はモモの炭化種子で、数点のヤマモモが含まれるという。栽培種であるモモ自体や類する炭化種子の出土は、市内の発掘調査でも一定の頻度で出土が確認され、枚挙にいとまがない程である。なお、田子山遺跡では当地点から南東に約100m程離れた第５地点11H（佐々木・尾形　1992）からも大量のヤマモモの炭化種子が出土しており、周辺地域の特性となる可能性もあり、その出土を注視する必要があろう。因みに、当住居跡から出土した炭化種子の放射性炭素年代測定の年代は、後段で述べるとおり７世紀第二四半期後葉から第三四半期前葉の値を示していた。

88号住居跡出土遺物（第83～85図）

出土遺物の構成は、古墳時代後期の遺物として、須恵器坏蓋、在地系の黒彩坏・無彩坏、続比企型坏、高坏、赤彩小型壺、丸甕、長甕、土玉、ガラス玉、石製紡錘車が出土した。また、覆土１・２層に相当する上位層より、９世紀後葉から10世紀代の須恵器蓋、坏、高台椀、小型長頸瓶、大甕、灰釉陶器

椀が出土している。

まず古墳時代後期の遺物であるが、在地系黒彩・無彩坏の口径は、やや変則的な器形のものを除くと10.0～11.0㎝である。尾形編年（尾形　2000）の14～15期に該当する。４は薄らと赤彩の痕跡が下地にあり、その上に薄く煤けた黒彩処理を施すもので、口径13.7㎝、器高は3.5㎝、広義の続比企型坏の範疇で理解できるものと判断しておく（富田　1992）。13は、外面の器壁が荒れ剥落が激しく表面が不鮮明であるが、内面は赤彩が残っており、本来は全面赤彩された小型壺であろう。焼成は堅緻で所謂比企型の土器の胎土による。丸甕は全形を知るものはないが、14・15とも、口縁部径より胴中位径が勝ることが見て取れる。長甕は、いずれも口縁部径が最大となり、胴の上半が僅かに膨らむも、以下スムースにつぼまり底部に移行するものである。甕及び丸甕とも尾形編年（尾形　2001）14～15期にあたろう。須恵器坏蓋はいずれも湖西産と想定され、判明する口径は、9.5、9.6㎝と小型化が更に進行した段階である。後藤建一氏の湖西編年（後藤　2015）で、Ⅳ期２に併行するものと思われる。以上の状況を総合すると、当住居跡の年代は、７世紀末葉のものと推定しておきたい。

当住居からは、地点上げ遺物として116点、一括遺物としてはその倍以上となる平安時代の遺物も出土している。こうした事例は、市内では田子山遺跡第51地点56H（尾形・大久保・深井　2018）、城山遺跡第60地点215H（尾形・藤波・鈴木・中村　2008）でも検出されており、当住居では改めて平安期の遺物を抜き出し水平・垂直分布図を作成してみた（第77図）。結果としては、平安期の遺物は垂直分布では住居跡の上層でレンズ状に綺麗に分布し、水平分布では北東コーナー以外ほぼまんべんなく散在することが判明した。因みに、この垂直分布を、土層図（第75・76図）と対比してみると、ほぼ１層・２層と重なることが見て取れる。即ち、88Hが廃絶したのち、７世紀末葉から８世紀の初頭頃にかけて廃屋と化し、次第に自然埋没してゆく過程において９世紀後葉頃には未だこの住居跡は埋まり切っておらず、緩やかな皿状の窪みとなって残っていた可能性が指摘されよう。そこに周辺の居住者が廃棄場所として土器などを遺棄していった結果の積み重ねが水平垂直分布に表れていると思われる。出土した土器からは、こうした廃棄行為が10世紀頃までは続いていたことが推定される。

（３）奈良・平安時代の住居跡と構成

奈良・平安時代の集落については、時期的には大きく捉えれば８世紀後葉～10世紀中・後葉以降までのもので、住居跡、掘立柱建築跡、土坑、ピットなどからなっていた。10世紀段階以降の詳細は流動的で判然としない部分を含むが、当地点の主体は９世紀後葉から10世紀代で、遺跡全体としても同様の傾向が示唆されている（大久保　2018）。住居跡の占地は調査区（第６図１・２区）中央からやや北側に位置するものと南端調査区外へ延びるものとがあり、主軸が不明なものも含むが、住居跡の掘込み自体は北から僅かに東へ振る一群と西へ振る一群がある。前者には、81・83・85H、６Tがあり、後者には、82・84・87Hがあって更に南に隣接する第131地点（尾形・徳留・宮下　2015）に同じ方位指向をもつグループが展開している。出土遺物は多くはない為、厳密な時期比定は難しいが、同時存在の可能性の有る住居は81Hと85H程度で、カマドの造り替えは認められるが、この期の住居同士の切り合いはないようで、当地点では同時期に１～２軒程度の景観となるのかもしれない。住居プランはさまざまで、略正方形又は長方形で、若干歪みを呈し柱穴も無いか不規則なものと成っている。判明するカマドの位置は、東カマドか東から北へ作り替えたものが確認された。また所謂「隅カマド」が84Hで確認され同住居跡出土遺物とも整合している。

（４）奈良・平安時代の遺物について

81号住居跡出土遺物（第33図）

遺物は、僅かな出土であったが注目しておきたい遺物があるので触れておきたい。３は、所謂「常陸型甕（或いは常総型甕とも）」（佐々木　2007）と呼ばれるもので、市内では初めての出土である。当該資料が小片であるため、口径や角度については些か不安定要素があることを断っておきたい。口唇部を摘まみ上げ外面には凹面を作って段状となす。頸部は「く」の字に強く屈曲し緩やかに膨らみをもたせて胴上半に至る。体部外面はヘラ削りする。橙色系で酸化炎焼成気味であるが、硬質で硬緻な焼き上がりである。図示しないが同一個体の胴下部の破片も出土している。全体にこのタイプとしては厚手で、その特徴から10世紀を前後する頃のものであり、この段階では下総や下野南東部も視野に入り生産地も常陸産とは限定できないとのことである（註４）。また、14Mからも３と類似する口縁部小片（第89図８）が出土している。問題となるのは、その搬入ルートで、古代東海道と東山道武蔵路を結ぶ東西ルート、具体的には東の上遺跡方面から足立郡衙方面を結ぶルートが動脈として関わる可能性があるが、遺跡間を結ぶ支脈的なルートの詳細は不明である。既に志木市内では下総国方面からの土器流入が指摘されており（尾形・深井・青木　2009）（註５）、その関連が注視されよう。

82号住居跡出土遺物（第37図）

須恵器椀蓋、土師器甕、鉄製刀子が出土している。出土遺物は少ないながら、土師器甕は口縁部の形態が判明し、いわゆるコの字口縁が確立する直前のもと思われる。東の上遺跡で煮沸具を系統的に扱った根本靖編年（根本　1999）に拠ればⅤからⅥ期の初頭にかけてのもと推定される。また須恵器椀蓋１、２は、いずれも白色針状物質を含まず、天井部を厚く造り、特に２は砂粒を多く含むことから東金子窯産の可能性が高い。この段階の東金子窯（坂詰　1971、1984）は周知のとおり窯式に欠けるため仮に南比企窯の編年（渡邊　1990）を援用すると、椀蓋のため振れもあろうが、口径15cm代後半で鳩山窯跡群Ⅴ期に相当する。以上を総合すると、当住居の年代は９世紀前葉のものと想定しておきたい。

また、この住居跡からは、墨書土器が出土している。上述１の須恵器蓋がそれで、天井部から折り返しに至る中間に横位の縦書きで「山田二」と判読した。「二」の続きは資料が欠損しており存在の可否は不明である。なお、当遺跡から柳瀬川を４kmほど遡った新座市大和田カミ遺跡で「山田」の墨書土器（川端　2018）が見つかっている。

83号住居跡出土遺物（第40図、付編第４節）

この住居跡からは、須恵器の蓋、坏、小型壺、土師器の甕、台付甕が出土している。須恵器坏は２～５が所謂底部周辺ヘラ削り調整が施され、６は底部回転糸切り後未調整である。産地は、２、４が白色針状物質（海綿骨針とも）を胎土に含むことから南比企産、その他は胎土に砂粒と小石を目立って含み総体として器壁厚く量感ある質感で東金子窯産と目される。回転実測を含むが口径、底径、器高の判明する３個体から鳩山編年（渡辺　1990）を援用して時期を求めると、口径は11.8～12.3cm、底径は6.8～7.2cm、器高は3.6～4.0cmに分布し鳩山Ⅳ期に該当する。また土師器甕はいずれも武蔵型甕で口縁形態は「コ」の字が確立する以前であり根本編年（根本　2003）第５期に当たる。これらをまとめて、時期を考えると須恵器坏６が底部回転糸切り後未調整で新相を持つが、他の資料の年代相は揃うことから８世紀後葉となろう。

また、ほぼ床直上で大形の鉄滓が出土しており、この点にもふれておきたい。この遺物についても科学分析（付編第４節）を行っており、その概要は鉄が少なく、チタンが比較的多いとのことで、その他

の成分も踏まえた特徴から製錬滓の可能性が高いとの結果を得た。志木市内では、今のところ製鉄遺跡は確認されておらず、現状では市外の他遺跡から持ち込まれたものと判断するのが妥当であろう。83号住居跡の年代は８世紀後葉で、同時代で確実に遺構が検出されている製鉄遺跡としては、ふじみ野市東台遺跡（高崎・穴山　2005）が直線距離６km弱に位置し一つの候補となるかもしれない。十分に運搬可能な距離とのことである（註６）。残念ながら，他に手掛かりがなく持ち込まれた目的は不詳であるが、周辺部の調査が進んだ段階での検討が望まれる。

84号住居跡出土遺物（第46図）

焼きの甘い須恵器坏４点と口縁から胴中位付近まで遺存する小型の土師器甕、斜めに穿孔された小型の土錘状土製品が出土している。年代の参考となるのは須恵器坏４点だが、いずれも底部から僅かな立ち上がりを残すのみで情報は少ない。１、２は底部厚１cm未満の薄造り、３、４は底部厚約１cmの厚造りとし、胎土は基本的に夾雑物の少ない良好なものである。また、３の内底面には拓本で提示したとおり糸切り痕が観察され、「底部円柱糸切り技法」（松本　1981）との関係を窺わせる。以上の所見からこれら４点は新開窯産と推定される。一方、住居形態でカマドを隅カマドとする点は注意される。それ自体で時期を特定することは難しいのだが、平安後期に多い形態であることも事実である（坂誥・高林・福田　1997）。時期は情報が限られ、出土坏が新開窯産と目されることと、出土した住居の形態が隅カマドとなることも踏まえ10世紀としておく。

14号溝跡と７号ピット出土の遺物について

14Mと７Ｐに10世紀後葉以降の可能性がある遺物が出土しているので触れておきたい。いずれも、小片でありそれぞれから得られる情報は限られる。14Mでは１・２・５～８が、総じて新しく９世紀末葉～10世紀代の遺物と解される。この中の一点として、６は底部の一部しかない小片であるが、薄い肌色の色調ときめ細かい胎土で特に目を引く土器である。底部は２枚重ねで厚く、柱状とは言わないまでも明らかに高さを志向するものである。新久窯（坂誥　1984）の新しい段階や新開窯（松本　1981・1982）など10世紀段階に至る須恵器でも小さな底径からやや厚手に底部を作る坏があるが、それらとは一線を画する資料である。地域的に共有される南武蔵で確認してみると、やはり類例は少ないのだが、編年された資料では府中市の国府周辺に見られ国府編年を参考としておきたい（註７）。ただし、このタイプにはバリエーションが見られ11世紀段階・12世紀段階と幅がある。14Mからは、12世紀末葉～13世紀初頭の常滑大甕の肩部小片も出ていており判断は難しいが、田子山遺跡の調査歴からは10世紀中葉から後葉の住居跡である第49地点55H（尾形・深井　1999）が検出されており遺構の継続性から、同段階の遺構は少ないながらも前者即ち10世紀末葉～11世紀初頭の資料である可能性を示唆しておきたい。もう一点は、７Ｐ出土で写真提示したヘラ切底を持つ底部小片である（図版25-2-7Ｐ）。底部の切り離し技法でヘラを継続的に使用するのは通例として東関東的である（窪田・黒田・黒澤　1997、比毛2020）。問題は、古いか新しいかであるが、平底の造りと酸化炎焼成そして僅かに残る底部から推測される底径が5.5cmから6.0cm程度であることから小皿となる可能性があり、新しい段階と推測したい。こちらについては、深谷市（旧岡部町）の大寄遺跡146、148号住居跡（富田　2000）からヘラ切りの底部を持つ小皿が出土しており、伴出遺物などから10世紀末葉から11世紀初頭の年代を与えられている。当資料も同様の年代を想定しておきたい。

市内では、この10世紀後葉～11世紀前葉段階の様相は未だ不明確ではあるが、不定形の小竪穴やカマドを持たず床面に地床炉状の焼土痕を残す住居などが検出されていて（尾形・深井　1999、尾形・深

井　2000)、今後確実な遺構遺物が発見され、或は再検証される可能性があるのではないだろうか。

市内では、引き続き継続的な発掘調査と弛まずその報告書刊行事業が続けられ、志木市の歴史像が次第に顕かになっている。田子山遺跡に関する理解も僅かずつではあるが前進している。

註

註１　2018年に『新羅郡の時代を探る』と題する企画展と同時開催でシンポジウムが行われ、古墳時代後期末葉から奈良平安時代至る和光市・朝霞市・志木市・新座市の成果が公開されており参考とした。

註２　様々な意味で誤差が生じる可能性がある。同時代での設計段階、掘削段階、施工段階そして現代の発掘段階など。確認対象とした３軒は厳密に正方形ではないから当然歪みやしわ寄せは生じる。尾形氏も読上でその難しさを述べているが、今回は、全掘されることの少ない田子山遺跡と他遺跡間で敢えて比較検証することに意義を見いだしている。

註３　本地点では、薄らと煤けたまたは、その痕跡が窺えるものについては極力黒彩と表記するよう務めたが、極めて部分的なものと判断されるものについては観察表で黒斑と表記したものもある。大方の了解を得たい。

註４　大洗町教育委員会の夥沼香未由氏の仲介により、ひたちなか市教育委員会の佐々木義則氏より貴重な助言をいただいている。両氏に感謝申し上げるとともに、文責は筆者に帰すものであることを断っておく。

註５　市内では、同じ田子山遺跡第５地点で同様なものが出土している（佐々木1992)。なお、2009年度報文の「比企地方ではこの製品の生産はないと思われる（尾形・深井・青木2009)」に関連し、まず渡邊一による南比企窯跡群での土器焼成坑による限定的なロクロ土師器生産の可能性の指摘がある（渡邊2006)。実際に坏タイプでは、南比企産と目される白色針状遺物（海綿骨針とも）を含む内黒土器が少量、狭域流通ながら複数地点での出土している（石川1992)。ただし、比企例は坏タイプで底部も回転糸切り後未調整、まるで南比企産須恵器坏を酸化炎焼成して内黒処理を施したものであるのに対し、田子山例は２点とも深身の椀タイプで全体として土師器然として、系譜はまるで異なるものと思う。現段階では、尾形氏の指摘どおり田子山例は下総方面からの供給と考えるのが妥当であろう。

註６　製鍊においては「砂鉄３里に炭７里」の例えがあり十分に運搬可能との助言を村上伸二氏に頂いた。また、滓の外観や成分分析の結果についても助言をいただいている。お礼申し上る。

註７　府中市郷土の森博物館深澤靖幸氏よりご助言をいただいた。お礼申し上げる。

[引用・参考文献]

石川安司　1992『篠新田遺跡Ⅰ』玉川村教育委員会

大久保聡　2018『志木市の遺跡』『「新羅郡の時代を探る」シンポジウム資料集』

大谷弘幸　2002「炭化種子から見た農耕生産物の推定」『研究紀要』23　千葉県文化財センター

尾形則敏　1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会

尾形則敏　2000「志木市内における古墳時代の土師器の編年（１）－５世紀から７世紀の坏形土器の変遷－」『あらかわ』第３号　あらかわ考古談話会

尾形則敏　2001「志木市内における古墳時代の土師器の編年（２）－５世紀から７世紀の甕・甕形土器の変遷－」『あらかわ』第４号　あらかわ考古談話会

尾形則敏　2005「第４章まとめ第２節　148号住居跡出土の土師器の胎土分析と考古学的な検証」『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』　志木市教育委員会

尾形敏則　2006「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義－武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例－」『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古第41号　埼玉考古会　六一書房

尾形則敏・深井恵子1999「第６章　田子山遺跡第49地点の調査」『志木市遺跡群９　中野遺跡第43地点　富士前遺跡第15地点　田子山遺跡第47地点　田子山遺跡第48地点　田子山遺跡第49地点　中道遺跡第41地点　城山遺跡第34地点　城山遺跡第35地点　西原大塚遺跡第36地点』志木市の文化財第27集　志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子　2000「田子山遺跡第25地点の調査」『埋蔵文化財調査報告１　田子山遺跡第19地点　田子山遺跡第21地点　田子山遺跡第25地点　中道遺跡第27地点　大原遺跡第１地点』志木市の文化財第29集　志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子・青木修　2005『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集　志木市遺跡調査会
尾形則敏・藤波啓容・鈴木徹・中村真理　2008『城山遺跡第58・60地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第17集　志木市遺跡調査会
尾形則敏・深井恵子・青木修　2009『志木市遺跡群　18　田子山遺跡第91地点　田子山遺跡第96地点　西原大塚遺跡第137地点　西原大塚遺跡第155地点』志木市の文化財第41集　志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・宮下孝優　2015『田子山遺跡第第131地点埋蔵文化財発掘調査報告書』　志木市教育委員会
尾形則敏・大久保聡・深井恵子　2018「田子山遺跡第51地点」『埋蔵文化財調査報告書８』志木の文化財第71集　志木市教育委員会
柿沼幹夫　2019「午王山遺跡出土弥生土器の編年的位置づけ」『午王山遺跡総括報告書』和光市埋蔵文化財調査報告書第66集
金子直行　1996「加曽利E式土器」『大川清・鈴木公雄・工楽善通編　日本土器辞典』雄山閣
川端隼人　2018「新座市の遺跡」『「新羅郡の時代を探る」シンポジウム資料集』
窪田恵一・黒田友紀・黒澤春彦　1997『入ノ上遺跡』土浦市教育委委員会
後藤建一　2015『遠江湖西窯跡の研究』（株）六一書房
坂詰秀一　1971『武蔵新久窯跡』雄山閣出版
坂詰秀一　1984『武蔵八坂前窯跡』雄山閣出版
坂詰秀一・高林均・福田健司　1996『落川遺跡Ⅰ［遺構編－第一分冊］－都営落川第２アパート建設に伴う発掘調査報告－』日野市落川遺跡調査会
坂本和俊　2015「古墳時代東国の土器を使わない製塩と塩の流通痕跡」『埼玉考古』第50号　埼玉考古学会
佐々木保俊・尾形則敏　1992『中道遺跡第12地点　中道遺跡第13地点　田子山遺跡第４地点　田子山遺跡第５地点』志木市の文化財第18集　志木市教育委員会
佐々木保俊・尾形則敏　1996『城山遺跡第12地点　城山遺跡13地点　西原大塚遺跡第14地点　中野遺跡第11地点　中野遺跡第16地点　市場裏遺跡第１地点　田子山遺跡第10地点　中道遺跡第21地点　田子山遺跡第13地点　西原大塚遺跡第21地点　市場裏遺跡第２地点　中道遺跡第26地点』志木市の文化財第24集　志木市教育委員会
佐々木義則　2007「常陸型甕の生産と流通－奈良時代以前の様相－」『波良岐考古』第29号　波良岐考同人会
高崎直成・穴山義功　2005『東台製鉄遺跡』大井町教育委員会
田中広明　2004『北島遺跡Ⅸ』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団
富田和夫　1992「Ⅸ　調査のまとめ」『稲荷前遺跡（A区）』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団
富田和夫　2000『大寄遺跡Ⅰ』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団
奈良国立文化財研究所　1978『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』
西山克己　1984・1985「東国出土の暗文を有する土器（上・下）」『史館』第17・18号　史館同人
根本　靖　1999「所沢市東の上遺跡の基礎研究　Ⅱ　－土師器煮沸具の変遷について－」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会
根本　靖　2005「所沢市東の上遺跡の基礎研究　Ⅴ　－土器編年の予察－」『あらかわ』第６号　あらかわ考古談話会
比毛君男　2020『古代から中世へ－常陸における社会と文化の変動期－　第23回企画展パンフレット』上高津貝塚ふるさと歴史の広場
比田井克仁　1997「弥生時代後期における時間軸の検討－南武蔵地域の検討を通して－」『古代』第103号
細田　勝　2008「加曽利E式土器」『小林達雄編　総覧　縄文土器』アム・プロモーション
松本富雄　1981『新開遺跡Ⅰ』　三芳町教育委員会
松本富雄　1982『新開遺跡Ⅱ』　三芳町教育委員会
水口由紀子　1989「いわゆる"比企型坏"の再検討」『東京考古』７　東京考古談話会
渡邊　一　1990「第４章　成果と問題点」『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山窯跡群遺跡調査会　鳩山町教育委員会
渡邊　一　2006『古代東国の窯業生産の研究』　青木書店

［付　編］

自然科学分析

第１節　田子山遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

志木市の田子山遺跡24Yから出土した炭化材の樹種同定を行った。

２．試料と方法

試料は、24Yから出土した炭化材から５点の分析を行った。調査所見から、遺構の時期は弥生時代末葉～古墳時代初頭と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認を行った。その後、カミソリまたは手で３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

３．結果

樹種同定の結果、試料５点はいずれも広葉樹のコナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）であった。結果を第21表に示す。以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（１）コナラ属クヌギ節　*Quercus sect. Aegilops*　ブナ科　図版27　１a－１c（No. 7）、２a－２c（No. 8）、３a（No. 9）、４a（No.10）、５a（No.11）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靭で、加工困難である。

４．考察

24Yから出土した炭化材のうち、今回分析を行った試料５点は、いずれもクヌギ節であった。クヌギ節は陽樹で、二次林に多く生育し、材は重硬で加工困難である（平井　1996）。埼玉県で確認されている弥生時代から古墳時代の住居跡出土の炭化材では、クヌギ節が多い傾向がみられる（伊東・山田編　2012）。今回の分析結果も、周辺地域の木材利用傾向と一致している。

地区	遺構	No.	樹種	形状	推定時期
３区	24Y	7	コナラ属クヌギ節	不明	弥生時代末期～古墳時代初頭
３区	24Y	8	コナラ属クヌギ節	不明	弥生時代末期～古墳時代初頭
３区	24Y	9	コナラ属クヌギ節	不明	弥生時代末期～古墳時代初頭
３区	24Y	10	コナラ属クヌギ節	不明	弥生時代末期～古墳時代初頭
３区	24Y	11	コナラ属クヌギ節	不明	弥生時代末期～古墳時代初頭

第21表　樹種同定結果

［引用文献］

平井信二　1996　木の大百科　394p　朝倉書店.

伊東隆夫・山田昌久編　2012　木の考古学－出土木製品用材データベース－　449p　海青社.

第２節　田子山遺跡から出土した炭化種実について

パンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

１．はじめに

埼玉県志木市の田子山遺跡の第160地点では、炭化種実が出土している。ここでは、７世紀後葉の住居跡や溝から得られた炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物について検討した。なお、同一試料を用いて年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

２．試料と方法

分析試料は、株式会社中野技術によって採取された。試料は、肉眼で確認され、遺物番号を付けて取り上げられた277試料で、内訳は84Hから採取された２試料、85Hから採取された１試料、86Hから採取された268試料、14Mから採取された６試料である。考古学的な所見による遺構の時期はいずれも７世紀後葉であり、放射性炭素年代測定の結果、86H出土のモモ炭化核は飛鳥時代の暦年代を示した（放射性炭素年代測定の項参照）。

同定および計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。モモやスモモは形態を観察し、完形、動物食痕のある個体、半割の個体、破片に分類した。計数が困難な分類群については、記号（+）で示した。試料は、志木市教育委員会に保管されている。

３．結果

同定した結果、木本植物である広葉樹のモモ炭化核とスモモ炭化核の２分類群が得られた。この他に、不明の炭化材がみられたが、同定の対象外とした（第22表）。

以下に、得られた炭化種実について遺構別に記載する。

遺構名		84H	85H	86H	14M
考古学的な推定時期				７世紀後葉	
分類群	AMS年代測定結果			飛鳥時代	—
モモ	炭化核（完形）			167	1
	炭化核（動物食痕）			2（1）	
	炭化核（半割）			（1）	
	炭化核（破片）	（4）	（2）	（243）	（7）
スモモ	炭化核（完形）			9	
	炭化核（破片）			（6）	
不明	炭化材			(+)	

+：1－9　　単独弧内は破片数

第22表　田子山遺跡から出土した炭化種実

84H：モモの破片が４点得られた。

85H：モモの破片が２点得られた。

86H：モモが414点（完形167点、動物食痕３点、半割１点、破片243点）、スモモが15点（完形９点、破片６点）得られた。

14M：モモが８点（完形１点、破片７点）得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003）に準拠し、APGⅢリストの順とした。

（１）モモ　*Amygdalus persica L.*　炭化核　バラ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形～紡錘形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側の側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形の核の大きさは、高さ25.3㎜、幅18.9㎜、厚さ14.1㎜（図版28－１）、高さ21.0㎜、幅15.9㎜、厚さ15.0㎜（図版28－２）、高さ16.0㎜、幅15.6㎜、厚さ13.8㎜（図版28－３）、高さ13.9㎜、幅12.5㎜、厚さ12.4㎜（図版28－４）、動物食痕の

ある個体は、高さ19.6㎜、残存幅16.0㎜、厚さ15.2㎜（図版28－５）、半割の個体は、高さ14.5㎜、幅11.7㎜、残存厚5.7㎜（図版28－６）、破片の大きさは、残存高8.5㎜、残存幅12.0㎜（PLD-41276、図版28－７）。

（２）スモモ　*Prunus salicina Lindl.*　炭化核　バラ科

上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。高さ11.6㎜、幅9.3㎜、厚さ6.1㎜（図版28－８）。

４．考察

住居跡（84H、85H、86H）から出土した炭化種実を検討した結果、栽培植物であるモモの炭化核とスモモの炭化核が得られた。また、14Mからはモモ炭化核が得られた。モモやスモモの核は、果肉を食べた後に捨てられた可能性がある。あるいは、モモは食利用以外にも、観賞用や薬用、呪術用、祭祀用などさまざまな目的で利用されており（那須　2015）、何らかの用途で用いられた後に堆積した可能性もある。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津（1999）によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には核長は24.6～26.5㎜と比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。さらに、奈良・平安時代の核長は23.6～26.6㎜で、鎌倉期には大きさの変異幅が大きくなり、江戸時代後期になると大型になって、平均核長26.9㎜、最大で38.0㎜程度の核がみられるとしている。今回、７世紀後葉の遺構とされる86Hから出土したモモ核の完全な完形個体133個体の大きさを計測した結果、高さ平均18.8±2.4㎜(最大25.3㎜)、幅平均15.7±1.7㎜、厚さ平均13.8±1.5㎜で（第23表）、山梨県内の古代のモモ核の平均値よりもかなり小さい傾向がみられた。金原（1996）によると、古墳時代の遺跡から出土したモモの核は、小さくて丸いA類と細長くて大きいB類、やや大型で先端がピンと尖るC類の計３種類の形態が見られるとされている。今回、住居跡から得られたモモの核は上記の３種類にそれぞれ該当する形態が見られた。また、14Mから得られた完形１個体のモモは、高さ21.3㎜で、山梨県で出土している奈良・平安時代のモモと比較すると、やはり小さい傾向が認められた。

［引用文献］

金原正明　1996　古代モモの形態と品種　考古学ジャーナル　409，15-19

那須浩郎　2015　古代のモモ　BIOSTORY　22，58-61

新津　健　1999　遺跡から出土するモモ核について―山梨県内の事例から―　山梨考古学論集 Ⅳ 361-374　山梨県考古学協会

米倉浩司・梶田　忠　2003　BG Plants 和名－学名インデックス（YList）　http://ylist.info

遺構	出土位置	分類群	部位	産出数	高さ	幅	厚さ
SGH	No.41	モモ	炭化核	1	22.1	15.4	13.5
	No.42	モモ	炭化核	(4)			
	No.43	モモ	炭化核	(1)			
	No.44	モモ	炭化核	(2)			
	No.45	モモ	炭化核	1	19.6	17.0	14.1
	No.46	モモ	炭化核	(1)			
	No.47	モモ	炭化核	(1)			
	No.48	モモ	炭化核	1	20.5	16.5	13.7
	No.60	モモ	炭化核	1	20.0	15.4	12.6
	No.61	モモ	炭化核	1	15.9	14.3	12.4
	No.79	モモ	炭化核	(1)			
	No.80	モモ	炭化核	1	16.5	14.6	13.5
	No.85	モモ	炭化核	1	17.5	17.6	13.1
	No.100	モモ	炭化核	(1)			
	No.103	モモ	炭化核	(1)			
	No.105	モモ	炭化核	(1)			
	No.118	モモ	炭化核	1			
	No.119	モモ	炭化核	1	20.4	18.1	15.4
	No.120	モモ	炭化核	(2)			
	No.121	モモ	炭化核	1			
	No.122	モモ	炭化核	1	17.1	13.8	13.3
	No.126	モモ	炭化核	1			
	No.131	モモ	炭化核	1	14.7	11.6	11.5
	No.140	モモ	炭化核	1			
	No.141	モモ	炭化核	1	20.9	18.7	17.6
	No.153	モモ	炭化核	1			
	No.154	モモ	炭化核	1			
	No.155	モモ	炭化核	(2)			
	No.156	モモ	炭化核	1			
	No.157	モモ	炭化核	1	16.8	16.5	14.6
	No.158	モモ	炭化核	1			
	No.159	モモ	炭化核	1			
	No.160	モモ	炭化核	1	19.0	17.8	13.7
	No.161	モモ	炭化核	1	20.0	16.8	14.9
	No.162	モモ	炭化核	1	22.0	18.1	15.9
	No.163	モモ	炭化核	1			
	No.183	モモ	炭化核	(3)			
	No.190	モモ	炭化核	(3)			
	No.191	モモ	炭化核	(5)			
	No.192	モモ	炭化核	(2)			
	No.193	モモ	炭化核	(3)			
	No.194	モモ	炭化核	1	21.9	20.1	18.6
	No.195	モモ	炭化核	(1)			
	No.196	モモ	炭化核	1	19.0	15.9	13.6
	No.197	モモ	炭化核	1	20.4	17.1	15.6
	No.203	モモ	炭化核	1	18.6	17.0	15.7
	No.207	モモ	炭化核	1	21.2	16.0	12.3
	No.226	モモ	炭化核	1	20.9	17.1	16.1
	No.227	モモ	炭化核	(4)			
	No.230	モモ	炭化核	1	19.2	16.1	15.5
	No.231	モモ	炭化核	1	18.2	14.0	12.0
	No.232	モモ	炭化核	1	20.1	15.9	13.3
	No.233	モモ	炭化核	1	16.1	14.7	14.0
	No.234	モモ	炭化核	(2)			
	No.235	モモ	炭化核	1	17.4	16.0	13.9
	No.236	モモ	炭化核	1	17.6	15.6	13.1
	No.237	モモ	炭化核	(6)			
	No.279	モモ	炭化核	1	16.8	13.6	12.2
	No.280	モモ	炭化核	1	20.8	18.7	14.6
	No.281	モモ	炭化核	1	19.5	16.7	13.9
	No.282	モモ	炭化核	1	16.6	14.3	13.3
	No.283	モモ	炭化核	1			
	No.284	モモ	炭化核	1	16.5	13.6	12.4
	No.285	モモ	炭化核	1	17.0	14.7	13.1
	No.286	モモ	炭化核	1	20.2	16.4	14.2
	No.287	モモ	炭化核	(1)			
	No.288	モモ	炭化核	1	15.7	13.2	12.6
	No.289	モモ	炭化核	1			
	No.290	モモ	炭化核	1			
	No.300	モモ	炭化核	1			
	No.301	モモ	炭化核	(1)			
	No.302	モモ	炭化核	(1)			

遺構	出土位置	分類群	部位	産出数	高さ	幅	厚さ
SGH	No.304	モモ	炭化核	1	23.2	20.8	18.7
	No.305	モモ	炭化核	1			
	No.306	モモ	炭化核	1			
	No.307	モモ	炭化核	1	18.6	15.8	13.3
	No.308	モモ	炭化核	(1)			
	No.310	モモ	炭化核	1	16.9	14.4	13.6
	No.311	モモ	炭化核	(1)			
	No.326	モモ	炭化核	1	24.1	18.1	14.8
	No.327	モモ	炭化核	1			
	No.328	モモ	炭化核	(1)			
	No.329	モモ	炭化核	1	17.6	16.3	15.3
	No.330	モモ	炭化核				
	No.331	モモ	炭化核	1	16.0	14.3	13.7
	No.338	モモ	炭化核	1	17.0	12.9	11.8
	No.339	モモ	炭化核	1	16.6	14.2	13.0
	No.340	モモ	炭化核	(3)			
	No.341	モモ	炭化核	1	18.9	15.0	13.6
	No.342	モモ	炭化核	1	15.0	12.6	12.0
	No.356	モモ	炭化核	1	17.2	15.8	15.1
	No.357	モモ	炭化核	(1)			
	No.363	モモ	炭化核	(3)			
	No.364	モモ	炭化核	(4)			
	No.365	モモ	炭化核	(2)			
	No.367	モモ	炭化核	1	18.7	14.6	10.8
	No.450	モモ	炭化核	1	16.9	15.9	14.3
	No.451	モモ	炭化核	1	17.9	13.7	13.5
	No.452	モモ	炭化核	(2)			
	No.453	モモ	炭化核	1	13.9	12.5	12.4
	No.455	モモ	炭化核	1	15.3	13.2	10.9
	No.456	モモ	炭化核	1	16.5	15.0	13.1
	No.457	モモ	炭化核	1 (2)	20.6	15.3	12.5
	No.458	モモ	炭化核（動物食痕）	(1)			
	No.459	モモ	炭化核	1			
	No.460	モモ	炭化核	1			
	No.461	モモ	炭化核	(9)			
SGH	No.462	モモ	炭化核	1	20.0	16.1	13.6
	No.463	モモ	炭化核	1	17.3	16.1	14.2
	No.464	モモ	炭化核	1	19.8	16.4	14.7
	No.465	モモ	炭化核	1	22.1	17.9	16.9
	No.466	モモ	炭化核	1	16.8	15.6	14.4
	No.468	モモ	炭化核	1	21.7	20.2	17.3
	No.469	モモ	炭化核	1	15.8	12.7	12.5
	No.470	モモ	炭化核	1	20.8	16.9	14.4
	No.492	モモ	炭化核	1	21.8	16.7	12.9
	No.493	モモ	炭化核	1	17.2	14.5	13.3
	No.494	モモ	炭化核	1	20.9	15.1	13.7
	No.495	モモ	炭化核	(1)			
	No.525	モモ	炭化核	1	18.0	14.1	12.1
	No.526	モモ	炭化核	1			
	No.527	モモ	炭化核	1	20.8	14.5	14.0
	No.528	モモ	炭化核	1			
	No.529	モモ	炭化核	1			
	No.530	モモ	炭化核	(1)			
	No.531	モモ	炭化核（動物食痕）	1			
	No.556	モモ	炭化核	(1)			
	No.557	モモ	炭化核	1	15.7	15.7	13.7
	No.574	モモ	炭化核	1	23.0	17.0	14.0
	No.661	モモ	炭化核	1	16.1	14.1	12.4
	No.662	モモ	炭化核	1	14.9	13.5	11.7
	No.663	モモ	炭化核	1	18.8	14.9	13.6
	No.664	モモ	炭化核	1	20.9	19.1	19.8
	No.665	モモ	炭化核	(1)			
	No.666	モモ	炭化核	1			
	No.667	モモ	炭化核	1	19.4	16.0	13.0
	No.668	モモ	炭化核	1	17.2	15.7	12.1
	No.669	モモ	炭化核	1	15.3	13.2	12.4
	No.670	モモ	炭化核	1			
	No.671	モモ	炭化核	1			
	No.672	モモ	炭化核	1			
	No.673	モモ	炭化核	(3)			
	No.674	モモ	炭化核	1			
	No.675	モモ	炭化核	1			

第23表　炭化種実同定結果（１）

遺構	出土位置	分類群	部位	産出数	高さ	幅	厚さ
	No.676	モモ	炭化核	(1)			
	No.677	モモ	炭化核	(1)			
	No.678	モモ	炭化核	(3)			
	No.679	モモ	炭化核	1			
	No.715	モモ	炭化核	1	14.8	14.2	13.1
	No.716	モモ	炭化核	1	16.7	14.0	12.8
	No.717	モモ	炭化核	1	19.7	16.3	15.3
	No.730	モモ	炭化核	(1)			
	No.731	モモ	炭化核	1	21.6	18.6	16.2
	No.732	モモ	炭化核	1	16.4	13.6	12.9
	No.806	モモ	炭化核	1	20.8	18.0	16.7
	No.807	モモ	炭化核	(2)			
	No.808	モモ	炭化核	1	25.3	18.9	14.1
	No.809	モモ	炭化核	1	17.0	15.7	14.0
	No.810	モモ	炭化核	1	22.4	16.6	15.2
	No.820	モモ	炭化核	(3)			
	No.821	モモ	炭化核	1	21.9	17.3	15.9
	No.822	モモ	炭化核	1			
	No.852	モモ	炭化核	(3)			
	No.855	モモ	炭化核	(1)			
	No.856	モモ	炭化核	(1)			
	No.857	モモ	炭化核	(1)			
	No.858	モモ	炭化核	(1)			
	No.859	モモ	炭化核	1	16.1	13.8	12.2
	No.860	モモ	炭化核	1	17.0	15.4	13.7
	No.861	モモ	炭化核	1	21.9	16.7	14.2
	No.862	モモ	炭化核	1	18.1	16.2	14.7
	No.863	モモ	炭化核	1	14.6	12.9	12.6
	No.864	モモ	炭化核	1	20.3	17.4	14.0
	No.868	モモ	炭化核	1			
	No.939	モモ	炭化核	1	17.6	15.3	13.4
	No.940	モモ	炭化核	1	21.0	14.8	12.7
	No.942	モモ	炭化核	1	19.3	15.9	13.6
	No.943	モモ	炭化核（動物食痕）	1			
86H	No.996	モモ	炭化核	1	21.9	17.8	16.3
	No.997	モモ	炭化核	1			
	No.998	モモ	炭化核	1	19.5	15.5	13.8
	No.999	モモ	炭化核	1	19.7	16.2	13.1
	No.1000	モモ	炭化核	(7)			
	No.1001	モモ	炭化核	(4)			
	No.1002	モモ	炭化核	(3)			
	No.1003	モモ	炭化核	1	17.9	14.7	12.3
	No.1004	モモ	炭化核	(2)			
	No.1005	モモ	炭化核	1	21.8	17.4	13.9
	No.1056	モモ	炭化核	(1)			
	No.1057	モモ	炭化核	1	22.9	17.3	13.4
	No.1058	モモ	炭化核	(3)			
	No.1059	モモ	炭化核	(1)			
	No.1063	モモ	炭化核	1	15.9	13.9	10.9
	No.1064	モモ	炭化核	(2)			
	No.1065	モモ	炭化核	(2)			
	No.1066	モモ	炭化核	1	16.7	15.0	13.5
	No.1067	モモ	炭化核	1	19.0	17.7	13.3
	No.1068	モモ	炭化核	(1)			
	No.1069	モモ	炭化核	(3)			
	No.1070	モモ	炭化核	1	19.3	16.3	14.5
	No.1071	モモ	炭化核	1	20.7	15.3	13.2
	No.1088	モモ	炭化核	1	16.1	15.8	14.6
	No.1133	モモ	炭化核	(2)			
	No.1239	モモ	炭化核	1	21.6	15.8	13.0
	No.1287	モモ	炭化核	1	23.1	16.4	14.4
	No.1410	モモ	炭化核	1	21.6	16.8	13.7
	No.1412	モモ	炭化核	1	18.2	15.6	13.8
	No.1437	モモ	炭化核	1	17.4	16.7	13.1
	No.1445	モモ	炭化核	(4)			
	No.1447	モモ	炭化核	(8)			
	No.1461	モモ	炭化核	(3)			
	No.1462	モモ	炭化核	1			
	No.1542	モモ	炭化核	1	17.8	16.9	14.9

遺構	出土位置	分類群	部位	産出数	高さ	幅	厚さ
	No.1550	モモ	炭化核	(1)			
	No.1555	モモ	炭化核	1	16.6	13.9	12.9
	No.1556	モモ	炭化核	(1)			
	No.1557	モモ	炭化核	(3)			
	No.1573	モモ	炭化核	(2)			
	No.1579	モモ	炭化核	(20)			
	No.1584	モモ	炭化核	(5)			
	No.1585	モモ	炭化核	1	18.5	15.2	13.3
	No.1586	モモ	炭化核	1	18.5	15.3	13.4
	No.1587	モモ	炭化核	(2)			
	No.1632	モモ	炭化核	1			
	No.1633	モモ	炭化核	1	24.4	15.9	12.3
	No.1634	モモ	炭化核	(18)	18.0	16.1	14.9
	No.1670	モモ	炭化核	1			
	No.1671	モモ	炭化核	1	21.7	16.0	14.3
	No.1672	モモ	炭化核	1	19.2	16.2	15.6
	No.1673	モモ	炭化核	(1)			
	No.1679	モモ	炭化核	(1)			
	No.1699	モモ	炭化核	(1)			
	No.1700	モモ	炭化核	1	15.0	12.3	11.4
	No.1701	モモ	炭化核	(1)			
86H	No.1705	モモ	炭化核	(1)			
	No.1706	モモ	炭化核	(12)			
	No.1707	モモ	炭化核	(1)			
	No.1726	モモ	炭化核	1	16.3	14.6	13.9
	No.1735	モモ	炭化核	1	16.0	15.6	13.8
	No.1736	モモ	炭化核	(1)			
	No.1751	モモ	炭化核	1	18.8	13.6	12.8
	No.1753	モモ	炭化核	(3)			
	No.1822	モモ	炭化核	1	15.6	15.5	14.0
	No.1823	モモ	炭化核	1	21.7	17.4	12.6
	No.1826	モモ	炭化核	1	20.7	16.8	13.6
	No.1876	モモ	炭化核	1	21.0	15.9	15.0
	No.1967	モモ	炭化核	1	19.5	15.5	14.4
	No.1968	モモ	炭化核	1	20.1	16.3	13.5
	No.1969	モモ	炭化核	1	19.2	16.1	13.0
	No.1974	モモ	炭化核	1	16.8	13.1	11.6
	No.1975	モモ	炭化核	(3)			
	No.1976	モモ	炭化核	(3)			
	No.1983	モモ	炭化核	1	20.6	17.1	14.1
	No.2001	モモ	炭化核	(4)			
	No.2014	モモ	炭化核	1	19.4	15.8	14.3
	No.2175	モモ	炭化核	(11)			
				最小	13.9	11.6	10.8
				最大	25.3	20.8	19.8
				平均	18.8	15.7	13.8
				標準偏差	2.4	1.7	1.5
84H	No.109	モモ	炭化核	(3)			
	No.112	モモ	炭化核	(1)			
85H	No.301	モモ	炭化核	(2)			
	No.189	不明	炭化材	(+)			
	No.303	スモモ	炭化核	1			
	No.454	スモモ	炭化核	1			
	No.853	スモモ	炭化核	1			
	No.854	スモモ	炭化核	1			
86H	No.941	スモモ	炭化核	1			
	No.944	スモモ	炭化核	1			
	No.1087	スモモ	炭化核	1			
	No.1288	スモモ	炭化核	1			
	No.1332	スモモ	炭化核	1			
	No.2000	スモモ	炭化核	(3)			
	No.2008	スモモ	炭化核	(3)			
	No.57	モモ	炭化核	(1)			
	No.126	モモ	炭化材	(1)			
14M	No.127	モモ	炭化核	(2)			
	No.128	モモ	炭化核	(1)			
	No.129	モモ	炭化核	(2)			
	No.130	モモ	炭化核	1	21.3	16.0	15.8

※括弧内は破片数

第23表　炭化種実同定結果（2）

第３節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・森　将志

１．はじめに

田子山遺跡第160地点86Hより検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

測定試料は、７世紀後葉の遺構とされる86Hから出土したモモ炭化核１点（遺物No.457：PLD-41276）である。測定試料の情報、調製データは第24表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41276	遺構:86H 調査区:２区 遺物No.457	種類:炭化種実（モモ　炭化核） 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸:1.2 mol/L,水酸化ナトリウム:1.0 mol/L,塩酸:1.2 mol/L）

第24表　測定試料および処理

３．結果

第24表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、暦年較正結果を、第26表に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-41276 遺物No.457	-26.87±0.14	1383±17	1385±15	647-659 cal AD (68.27%)	609-618 cal AD (3.97%) 640-667 cal AD (91.48%)

第25表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

4．考察

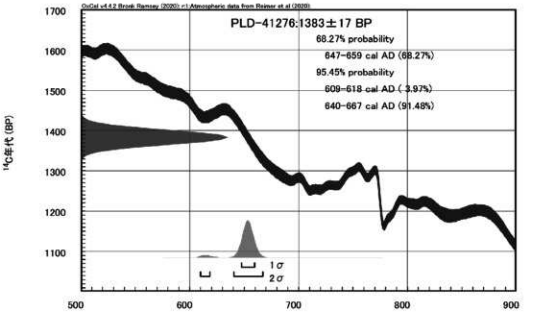
測定結果のうち、２σ暦年代範囲に注目すると、609-618 cal AD（3.97%）および640-667 cal AD（91.48%）の暦年代を示した。これは飛鳥時代に相当する。考古学的所見では、86号住居跡の時期は７世紀後葉とされており、今回得られた年代値は考古学的所見と矛盾しない。

［参考文献］

Bronk Ramsey, C.　2009　Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（１）337-360

中村俊夫　2000　放射性炭素年代測定法の基礎　日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」3-20　日本第四紀学会

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.　2013　IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55（４）1869-1887



第26表　暦年較正結果

第４節　田子山遺跡出土の鉄滓の自然科学分析

竹原弘展・米田恭子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

志木市本町に所在する田子山遺跡で行われた金属生産活動の調査を目的として、鉄滓の断面観察およびX線分析を行い、材質を検討した。

２．試料と方法

分析対象は、83Hから出土した大型の鉄滓１点である（第27表、図版28－２－１）。時期は、８世紀後葉から９世紀前葉とみられている。岩石カッターで遺物の一部を切り取り、断面試料を作製して観察と分析を行った。

遺物番号	調査区	出土遺構	時期
119	第160地点１区	住居跡83H	８世紀後葉～９世紀前葉

第27表　分析対象一覧

まず、切り取った試料を超音波洗浄後、断面の蛍光X線分析（エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製SEA1200VX、照射径８㎜、以後XRF）を行い、採取部位の化学組成を調べた。続いて、この試料片を注型用高透明エポキシ樹脂で包埋した。包埋試料は、ディスコプランで研磨した後、超精密研磨フィルムの#1000、4000、8000の順で研磨し、観察、分析面とした。走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200、以後EDS）による鉱物組織の定性分析を行った。

３．分析結果および考察

XRF分析による半定量値を第28表に示す。また、SEM反射電子像を図版28－２－２、３に、SEM反射電子像に示したa～dのポイントのEDS分析結果を第29表に示す。

照射径	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3
8mm	1.70	14.78	31.75	0.50	0.15	1.20	1.31	4.16	0.11

MnO	Fe_2O_3	CuO	ZnO	Ga_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	BaO
0.28	43.86	0.02	0.01	0.01	0.02	0.04	0.01	0.05	0.05

第28表　XRF分析による鉄滓の半定量値（mass%）

［遺物番号119］製錬滓

大型の鉄滓で、弱い磁着が認められる。XRF分析では、鉄が酸化物（Fe２O３）換算で約44%と比較的少ない。また、チタン（TiO２）が約４%と比較的多かった（第28表）。SEM反射電子像では、図版28－２－２、３のような結晶組織が観察された。EDS分析結果と併せると、やや明色の多角形組織（図版28－２－３のa、b）では鉄（Fe）とチタン（Ti）が主に検出されており、ウルボスピネル（２FeO･TiO２）とみられる。中間色木ずれ状組織（図版28－２－３のc）では鉄とケイ素（Si）が主に検出され、ファイヤライト（２FeO･SiO２）とみられる。これらが、基質となる暗色ガラス質（図版28－２－３のd）上に晶出している。

チタン含有量が比較的多く、ウルボスピネルが観察された。一方、鉄含有量は比較的少なく、ウスタイトは観察されなかった。以上の特徴より、製錬滓である可能性がある。

ポイント	検出元素	組織	所見
a	O,Ti,Fe.（Si）,（Al）,（Mg）	ウルボスピネル	製錬滓か
b	O,Ti,Fe.（Si）,（Al）	ウルボスピネル	
c	O,Si,Fe.（Al）	ファイヤライト	
d	O,Al,Si,K,Ca,Fe.（Ti）	ガラス質	

第29表　EDS分析結果

［参考文献］

中井　泉編　2005　蛍光X線分析の実際　242p　朝倉書店

大澤正己・鈴木瑞穂　2005　中道東山西山遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査　鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター編「中道東山西山遺跡」：149-173　鳥取県教育文化財団

大澤正己・鈴木瑞穂　2013　石塚遺跡（第２次）の鍛冶滓等の自然科学分析　萩原義彦・伊藤裕偉編「石塚遺跡（第１・２次）・高樋遺跡（第１・２次）発掘調査報告」：49-65　三重県埋蔵文化財センター

材料技術教育研究会編　2008　組織検査用試料のつくり方　226p　大河出版

材料技術教育研究会編　2015　標準顕微鏡組織 第１集（炭素鋼・鋳鉄編）改定８版　128p　山本科学工具研究社

図　　版

調査区全景・合成写真

図版2

1．1区プラン確認状況

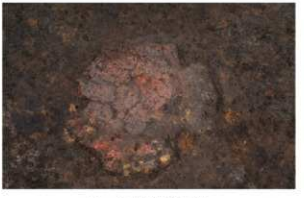
2．2区プラン確認状況

3．6号炉穴セクション

4．6号炉穴完掘

5．24号住居跡遺物出土状況

6．24号住居跡完掘状況



7．30号住居跡炉跡

8．30号住居跡掘り方

1．31号住居跡完掘状況

2．32号住居跡掘り方

3．42号ピットセクション

4．76号住居跡遺物出土状況

5．76号住居跡遺物出土状況

6．76号住居跡遺物出土状況

7．76号住居跡遺物出土状況

8．76号住居跡完掘状況

図版4

1．76号住居跡掘り方

2．76号住居跡カマド完掘状況

3．81号住居跡遺物出土状況

4．81号住居跡常総型甕出土状況

5．81号住居跡完掘状況

6．81号住居跡掘り方

7．82号住居跡遺物出土状況

8．82号住居跡完掘状況

1．82号住居跡カマド完掘状況

2．82号住居跡カマド掘り方

3．82号住居跡掘り方

4．83号住居跡遺物出土状況

5．83号住居跡鉄滓出土状況

6．83号住居跡遺物出土状況

7．83号住居跡完掘状況

8．83号住居跡カマド遺物出土状況

図版6

1．83号住居跡カマド完掘状況

2．83号住居跡カマド掘り方

3．83号住居跡掘り方

4．84号住居跡遺物出土状況

5．84号住居跡遺物出土状況

6．84号住居跡完掘状況

7．84号住居跡カマド遺物出土状況

8．84号住居跡カマド完掘状況

1．84号住居跡カマド掘り方

2．84号住居跡掘り方

3．85号住居跡灰釉陶器手付小瓶出土状況

4．85号住居跡遺物出土状況

5．85号住居跡完掘状況

6．85号住居跡カマド１完掘状況

7．85号住居跡カマド１掘り方

8．85号住居跡カマド２セクション

1．85号住居跡カマド２掘り方

2．85号住居跡炉跡セクション

3．85号住居跡炉跡完掘状況

4．85号住居跡掘り方

5．86号住居跡遺物出土状況

6．86号住居跡遺物出土状況

7．86号住居跡土製品出土状況

8．86号住居跡紡錘車出土状況

1．86号住居跡遺物出土状況

2．86号住居跡
粘土・ローム・焼土堆積層検出状況

3．86号住居跡完掘状況

4．86号住居跡カマド遺物出土状況

5．86号住居跡カマド完掘状況

6．86号住居跡カマド掘り方

7．87号住居跡完掘状況

8．87号住居跡カマド完掘状況

図版10

1．87号住居跡掘り方

2．88号住居跡遺物出土状況

3．88号住居跡遺物出土状況

4．88号住居跡遺物出土状況

5．88号住居跡完掘状況

6．88号住居跡カマド遺物出土状況

7．88号住居跡カマド遺物出土状況

8．88号住居跡カマド完掘状況

1．88号住居跡貯蔵穴完掘状況

2．88号住居跡炉跡完掘状況

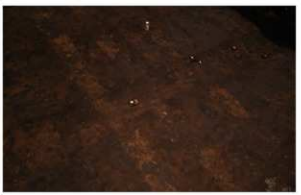
3．88号住居跡炉跡掘り方

4．88号住居跡出入口施設拡張状況

5．6号掘立柱建築遺構

6．14号溝跡遺物出土状況

7．14号溝跡完掘状況



8．16号溝跡完掘状況

図版12

1．17号溝跡完掘状況

2．287号土坑炭化材出土状況

3．304号土坑遺物出土状況

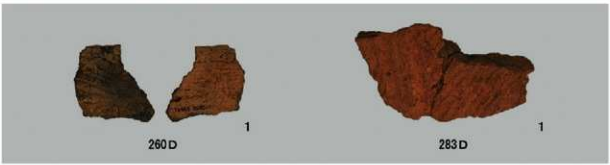
4．7号ピットセクション

5．7号ピット遺物出土状況

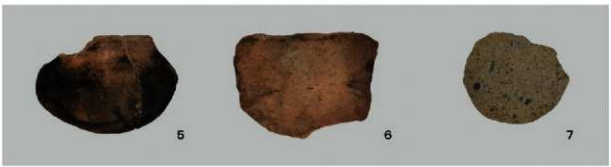
6．深掘りトレンチ（TP 3）土層断面

7．発掘作業風景

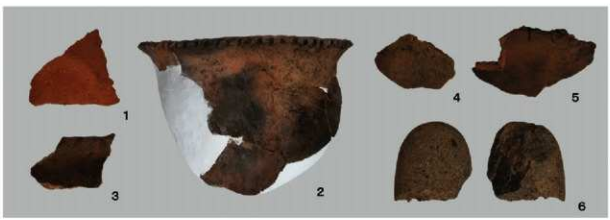
8．現地説明会



1．260・283号土坑出土遺物

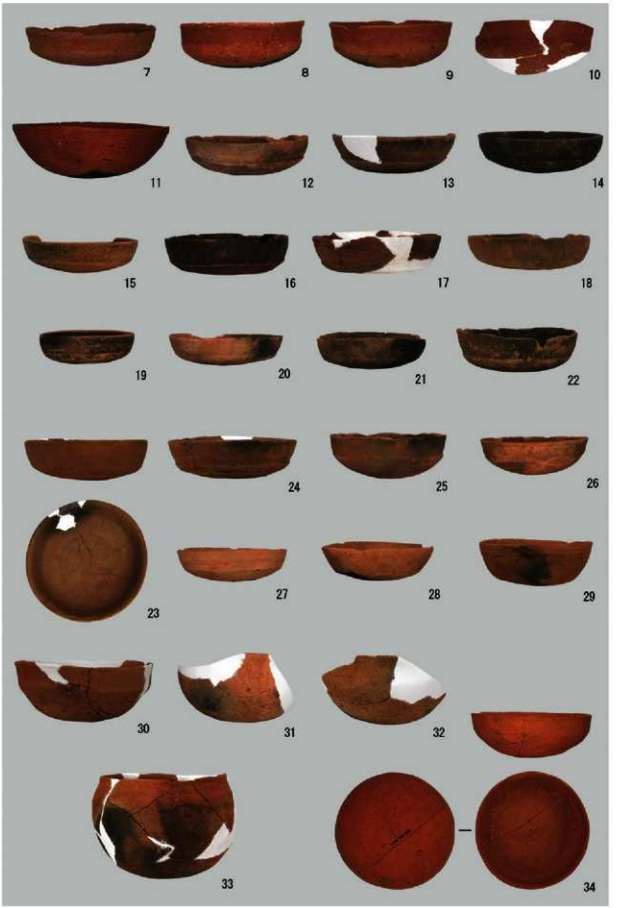


2．24号住居跡出土遺物

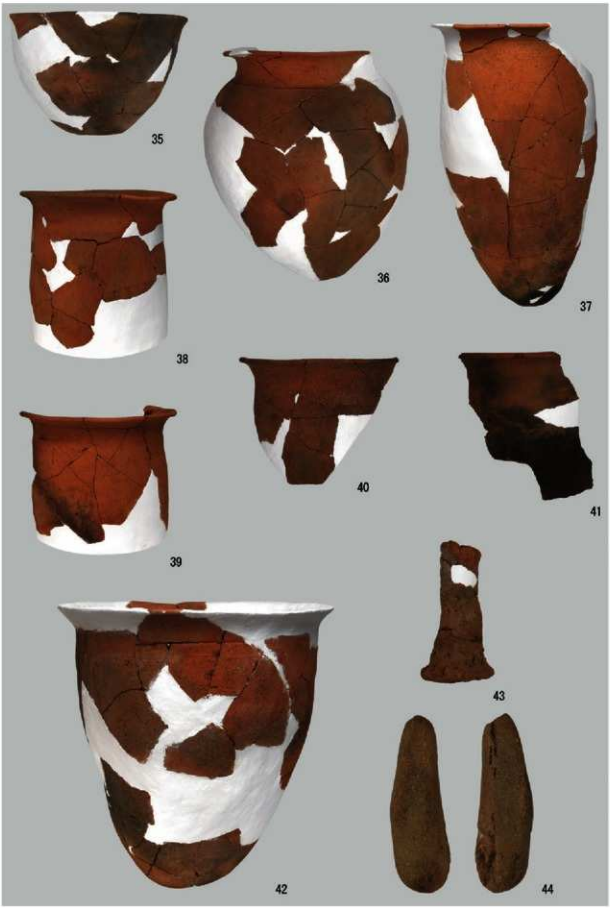


3．30号住居跡出土遺物

4．32号住居跡出土遺物

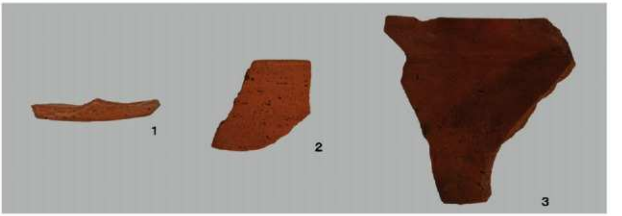


76号住居跡出土遺物 1

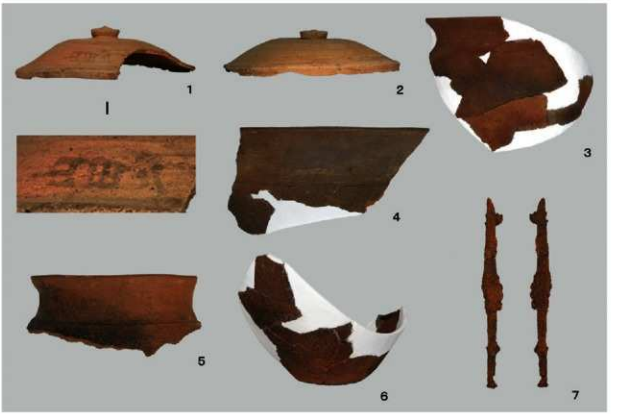


76号住居跡出土遺物２

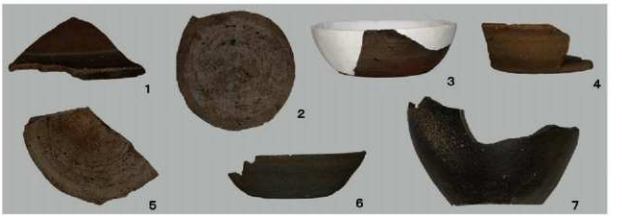
図版16



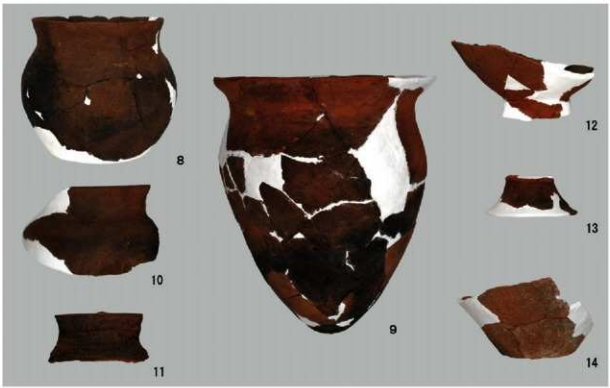
1．81号住居跡出土遺物



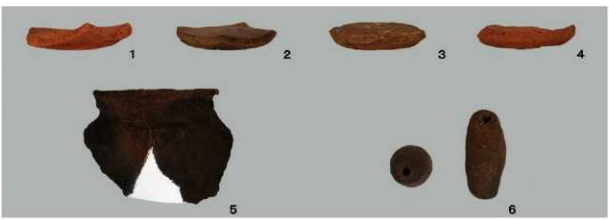
2．82号住居跡出土遺物



3．83号住居跡出土遺物 1



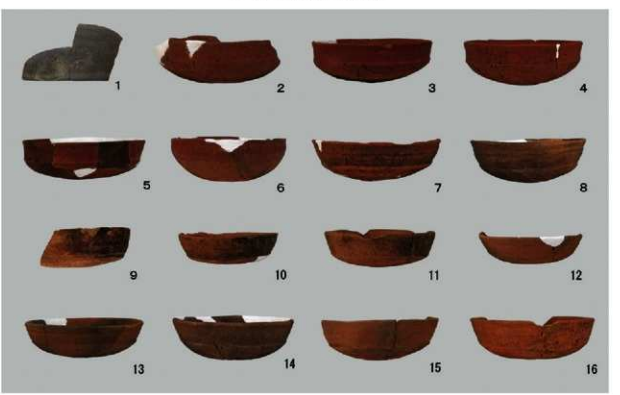
1．83号住居跡出土遺物２



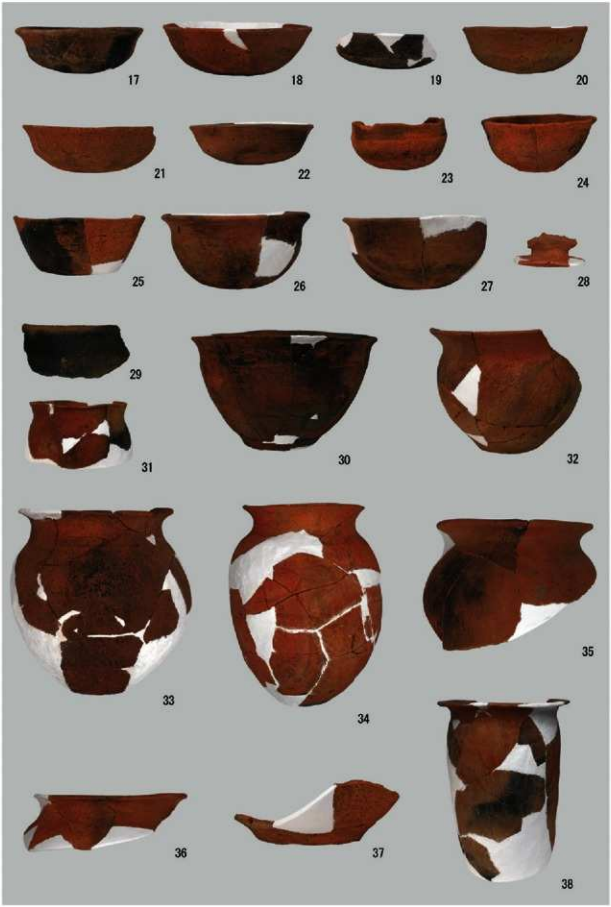
２．84号住居跡出土遺物

３．85号住居跡出土遺物１

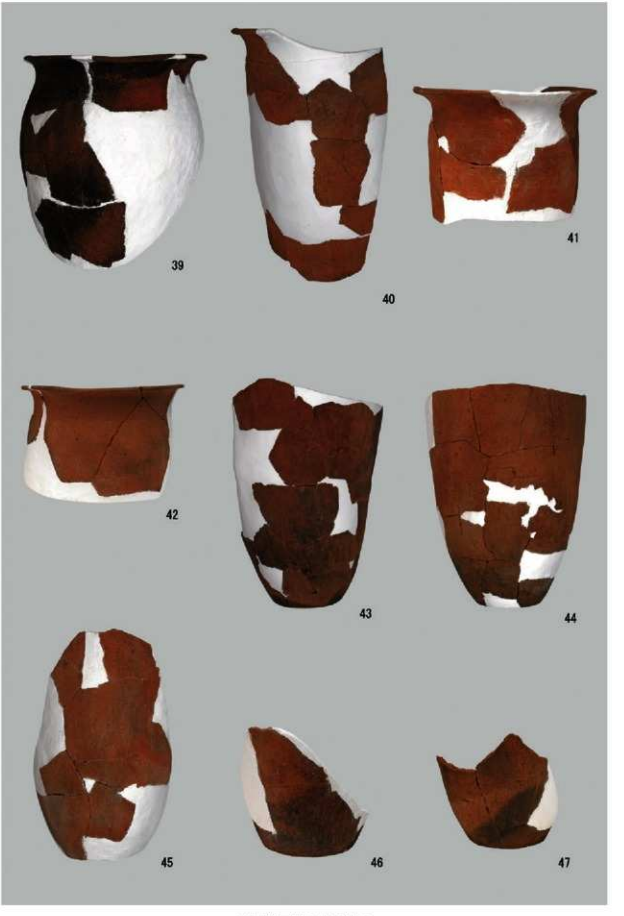
1．85号住居跡出土遺物２



２．86号住居跡出土遺物１

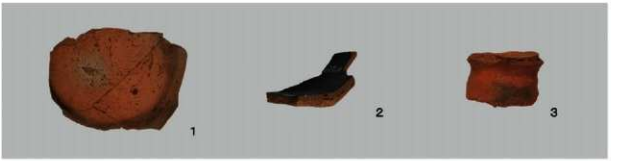


86号住居跡出土遺物２

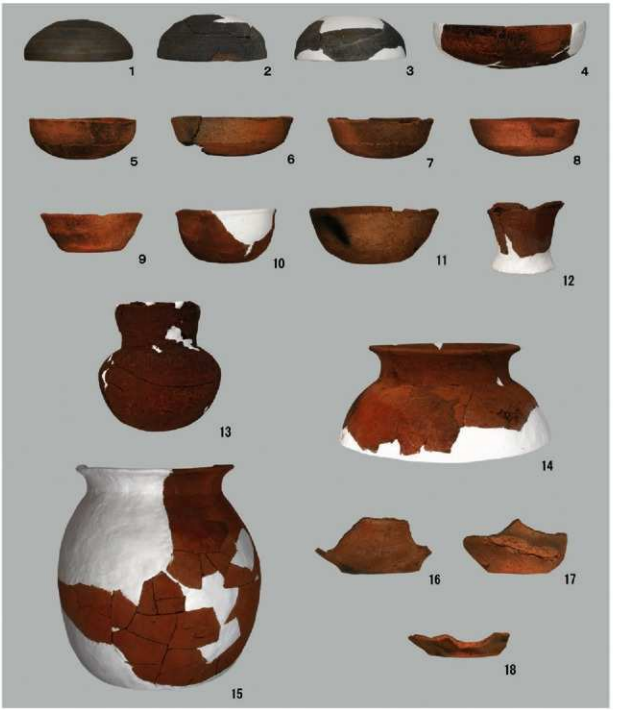


86号住居跡出土遺物３

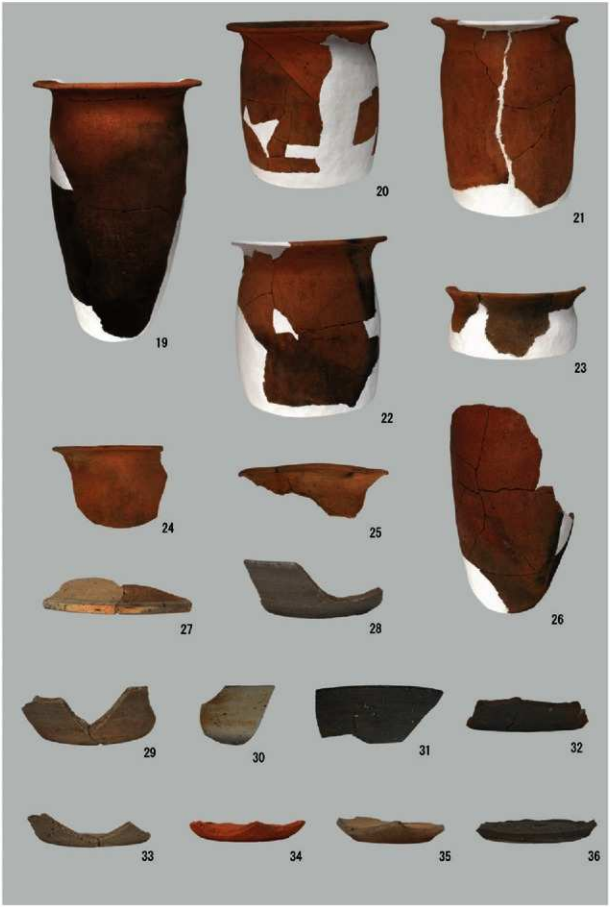
86号住居跡出土遺物 4



1．87号住居跡出土遺物

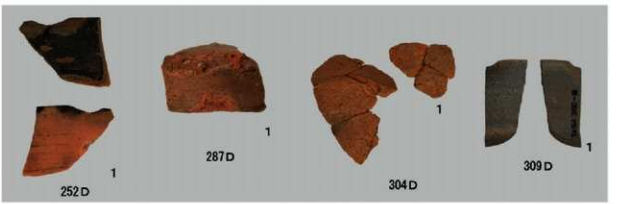


2．88号住居跡出土遺物 1

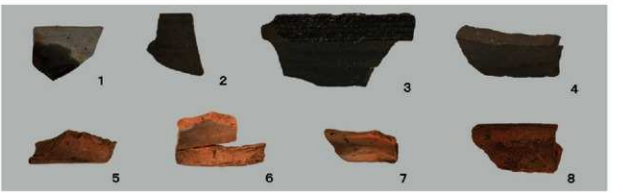


88号住居跡出土遺物２

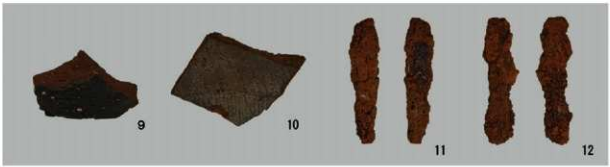
1．88号住居跡出土遺物３



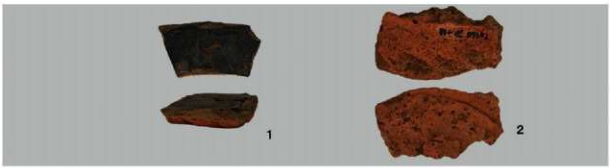
2．古墳・平安時代土坑出土遺物



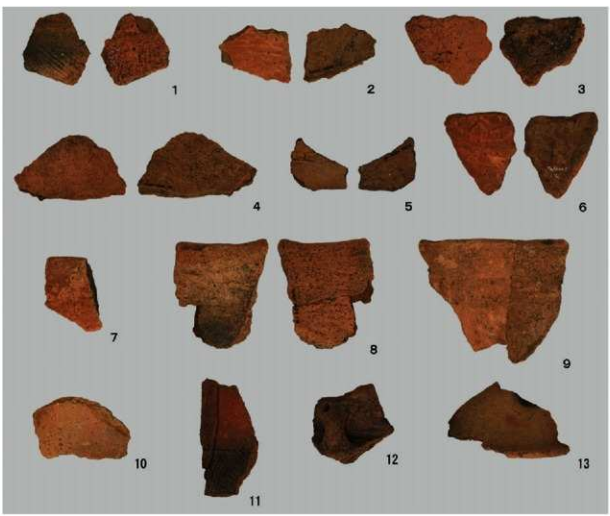
3．14号溝跡出土遺物１



1．14号溝跡出土遺物２



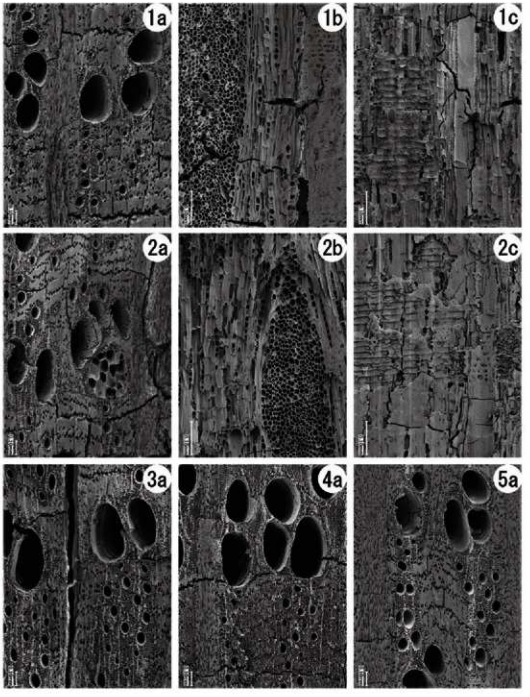
２．７号ピット出土遺物



３．遺構外出土遺物１

図版26

遺構外出土遺物２



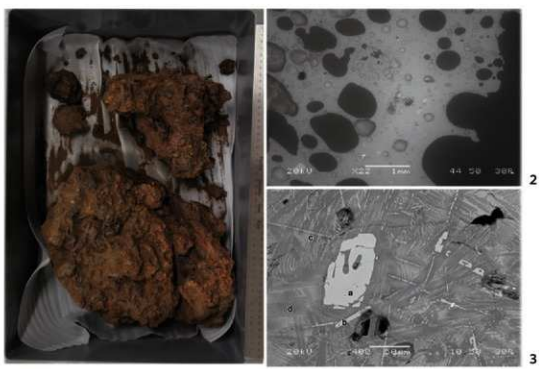
炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a－1c.コナラ属クヌギ節（№7）、2a－2c.コナラ属クヌギ節（№8）、3a.コナラ属クヌギ節（№9）、4a.コナラ属
クヌギ節（№10）、5a.コナラ属クヌギ節（№11） a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

スケール 1-8：5mm

1．田子山遺跡第160地点２区86Hから出土した炭化種実

1．モモ炭化核（完形）（No.808）、２．モモ炭化核（完形）（No.1876）、
3．モモ炭化核（完形）（No.1735）、４．モモ炭化核（完形）（No.453）、
5．モモ炭化核（動物食痕）（No.531）、６．モモ炭化核（半割）（No.1736）
7．モモ炭化核（破片）（PLD-41276、No.457）、８．スモモ炭化核（No.1302）



2．鉄滓とその断面組織

1．遺物写真　２・３．SEM反射電子像

報告書抄録

ふりがな	たごやまいせきだい160ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ		
書名	田子山遺跡第160地点　埋蔵文化財発掘調査報告書		
副書名			
シリーズ名	志木市の文化財	巻次	第77集
編著者	尾形則敏　大久保聡　石川安司　小林陽子　清水理史		
編集機関	埼玉県志木市教育委員会		
所在地	〒353-0004　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番地１号		
発行年月日	2020年12月25日		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	調査面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
田子山遺跡（第160地点）	志木市本町２丁目1700番地１号	11228	09-010	35°83°22″	139°58°23″	20190507～20190903	1315.05㎡	校舎等建替え工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
田子山遺跡（第160地点）	集落跡	縄文時代	土坑	19基	縄文土器	古墳時代後期の住居跡からは畿内系暗文坏、湖西産須恵器、在地系土師器など多様な遺物が出土し、人為的な埋め戻しによる特異な埋没状況を示す住居跡も検出した。平安時代の住居跡からは、市内で初めて「常陸型」又は「常総型」の甕が出土し、大形の精錬滓が出土した住居跡も検出した。
			炉穴	１基	なし	
			ピット	１本	なし	
		弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡	４軒	弥生土器・石器・鉄製品	
			ピット	１本	なし	
		古墳時代後期	住居跡	３軒	土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄製品・炭化種子	
			ピット	10本	なし	
		奈良・平安時代	住居跡	６軒	土師器・須恵器・鉄製品・製錬滓	
			掘立柱建築遺構	１棟	なし	
			土坑	43基	須恵器	
			溝跡	２本	土師器・須恵器・陶器・鉄製品	
			ピット	54本	須恵器	
		近世以降	溝跡	１本	なし	
			土坑	１基	なし	
			ピット	１本	なし	

要約

田子山遺跡は志木市本町２丁目を中心に広がる遺跡で、柳瀬川と新河岸川の合流点からやや下流の右岸に所在する。これまでの発掘調査により縄文時代～近世・近代にかけての複合遺跡であることが判明している。

今回報告する第160地点からは、縄文時代の土坑19基や炉穴１基、弥生時代後期の住居跡４軒、古墳時代後期の住居跡３軒、奈良・平安時代の住居跡６軒、掘立建物建築遺構１棟、溝跡２本などが検出された。特に古墳時代後期の７世紀末葉から８世紀初頭の76・86・88号住居跡からは畿内系暗文土器・湖西産須恵器・比企型坏・続比企型坏・在地系土師器・炭化種子などの多様且つ多量の遺物、平安時代の９世紀後葉から10世紀中葉の81号住居跡・14号溝からは市内で初の「常陸系」または「常総系」の甕などが出土した。

志木市の文化財　第77集

田子山遺跡第160地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　　行　　埼玉県志木市教育委員会
　　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発 行 日　　令和２（2020）年12月25日
印　　刷　　望月印刷株式会社